

**小城市立地適正化計画
改訂
(現況編)**

目次

1	位置・地形.....	1
1-1	位置.....	1
1-2	地形.....	2
2	都市の沿革.....	3
2-1	都市計画区域の指定状況.....	3
3	人口特性.....	5
3-1	総人口の推移と見通し.....	5
3-2	人口.....	6
3-3	区域別人口の推移.....	14
3-4	世帯数の推移.....	15
3-5	通勤通学流動.....	16
4	産業・観光.....	17
4-1	就業人口の推移.....	17
4-2	農業.....	19
4-3	工業.....	20
4-4	商業.....	21
4-5	観光.....	22
5	土地利用・開発動向.....	23
5-1	区域別土地利用面積.....	23
5-2	新築動向.....	25
5-3	農地転用.....	28
5-4	空家分布.....	31
5-5	法規制.....	33
6	都市施設.....	34
6-1	都市計画道路.....	34
6-2	都市計画公園.....	36
6-3	その他都市施設.....	38
7	都市機能施設.....	40
7-1	都市構造特性.....	40
7-2	都市機能立地状況.....	41
8	公共交通.....	57
8-1	バス運行本数.....	57
8-2	徒歩圏カバー状況.....	58
9	災害リスク.....	60

9-1 災害履歴.....	60
9-2 洪水浸水想定区域（計画規模）	63
9-3 洪水浸水想定区域（想定最大規模）	64
9-4 家屋倒壊等氾濫想定区域	65
9-5 浸水継続時間	66
9-6 津波浸水想定区域	67
9-7 高潮浸水想定区域	68
9-8 土砂災害	69
9-9 急傾斜・地すべり	70
9-10 避難施設	71
10 地価	73
11 財政	76
11-1 歳入	76
11-2 歳出	77

1 位置・地形

1-1 位置

本市は、佐賀県のほぼ中央に位置し、東は佐賀市、西は多久市や江北町、白石町と隣接しており、南は有明海に面しています。



図 位置

1-2 地形

本市は佐賀平野の西端に位置しており、平地部に市街地が形成されています。また、市域の北側は山間部(天山山系)となっています。

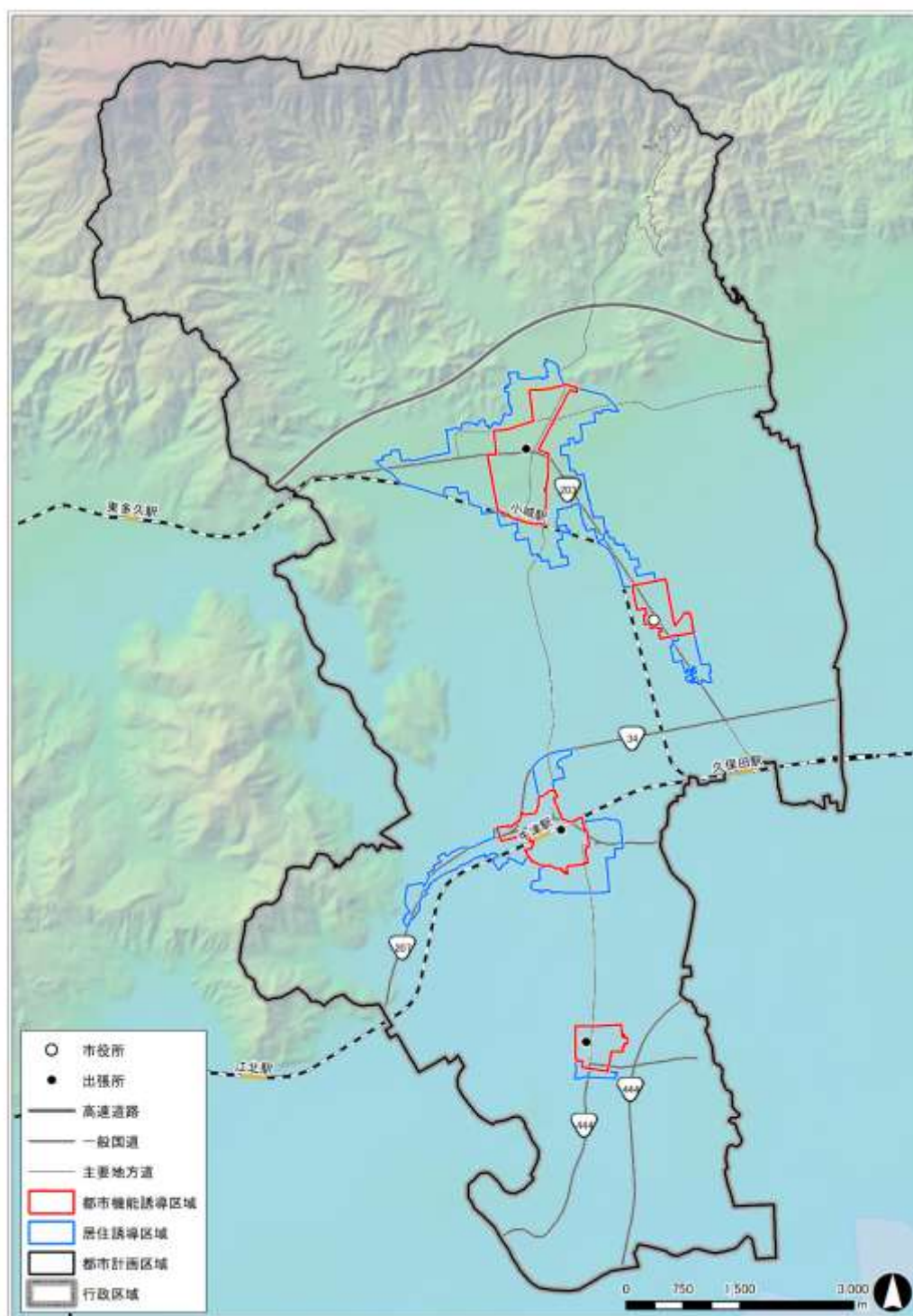


図 地形

出典 国土地理院

2 都市の沿革

2-1 都市計画区域の指定状況

本市は区域区分が設定されていない非線引き都市計画区域が、市域全域に指定されています。また、用途地域は指定されていませんが、人口集中地区が小城駅周辺にあり、地区内人口は 6,881 人となっています。

また、立地適正化計画が平成 30 年に策定され、都市機能誘導区域及び居住誘導区域が小城地域、牛津地域、三日月地域、芦刈地域にそれぞれ指定されています。

表 都市計画区域等の設定状況（令和 6 年）

区域	人口	面積(ha)
都市計画区域(行政区域)	44,109	9,581
人口集中地区	6,881	171

表 居住誘導区域の人口（計画策定時（平成 22 年値））

区域	人口	面積(ha)
小城居住誘導区域	13,809	339
牛津居住誘導区域	5,685	181
三日月居住誘導区域	2,648	70
芦刈居住誘導区域	428	38

出典 庁内資料

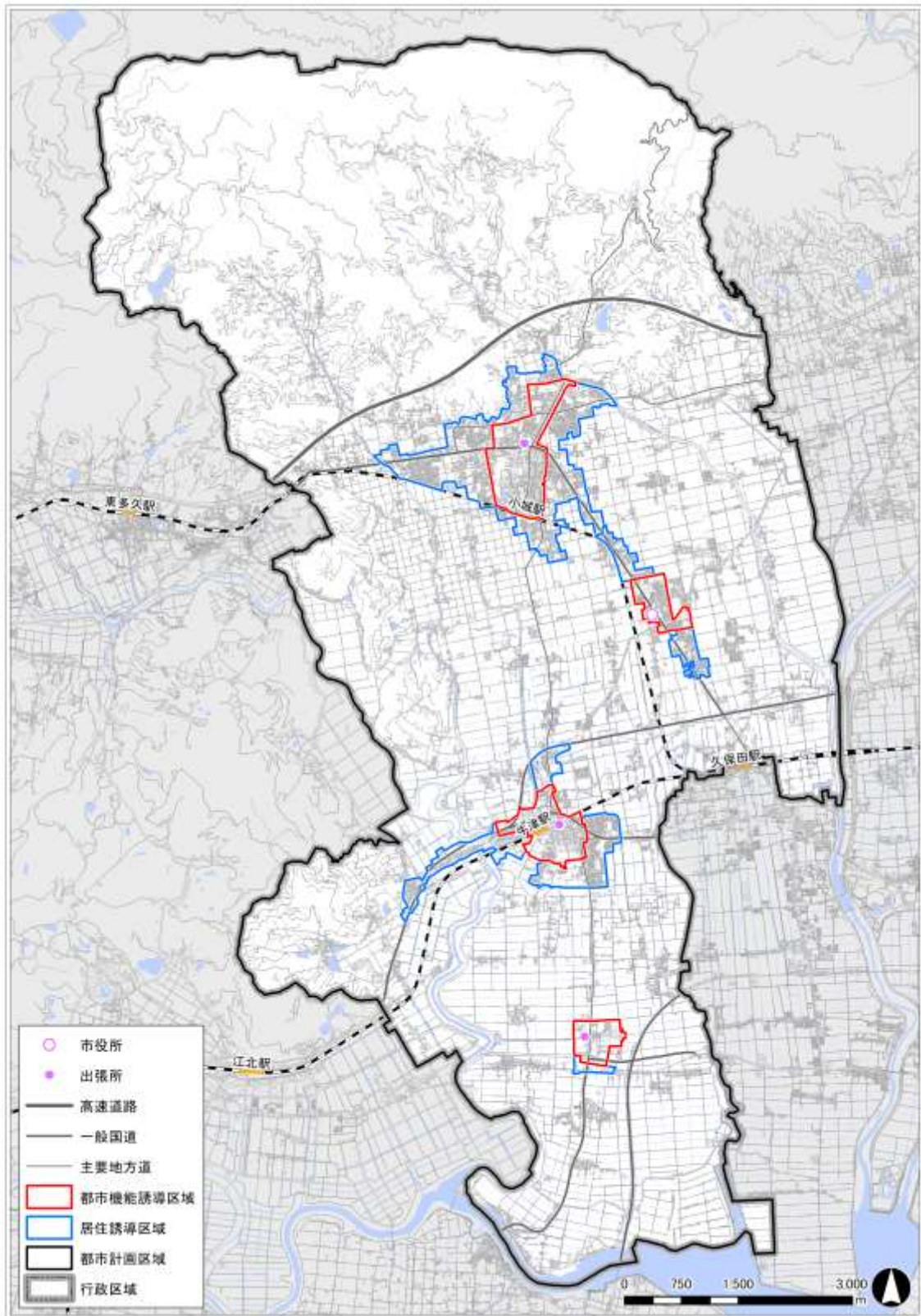


図 区域の指定状況

出典 令和5年度都市計画基礎調査

3 人口特性

3-1 総人口の推移と見通し

本市の総人口は平成 17 年(2005 年)までは増加していましたが、その後は減少しており、令和 2 年(2020)には 43,952 人と 15 年間で 1,900 人減少しています。今後も人口減少は続き、令和 32 年(2050 年)には 34,241 人と約 22%減少することが予測されています。

年齢別の推移をみると、年少人口(15 歳未満)は平成 7 年(1995 年)から、生産年齢人口(15～64 歳)は平成 17 年(2005 年)から減少していますが、老年人口(65 歳以上)は、令和 22 年(2020 年)までは増加することが予測されており、少子高齢化の進展が予測されています。

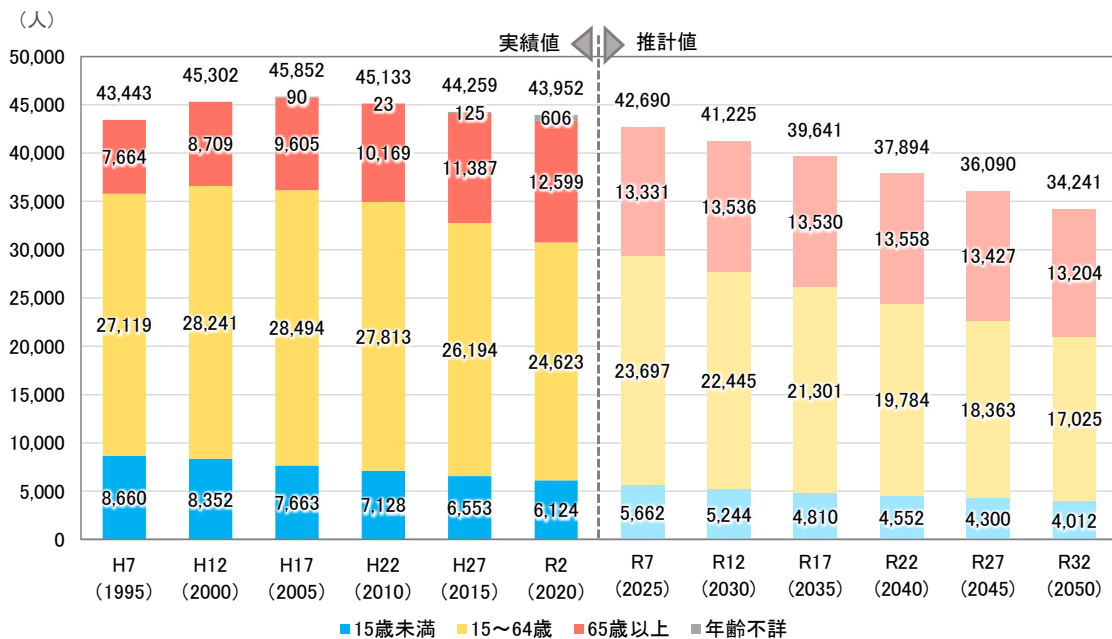


図 年齢3区分別人口の予測

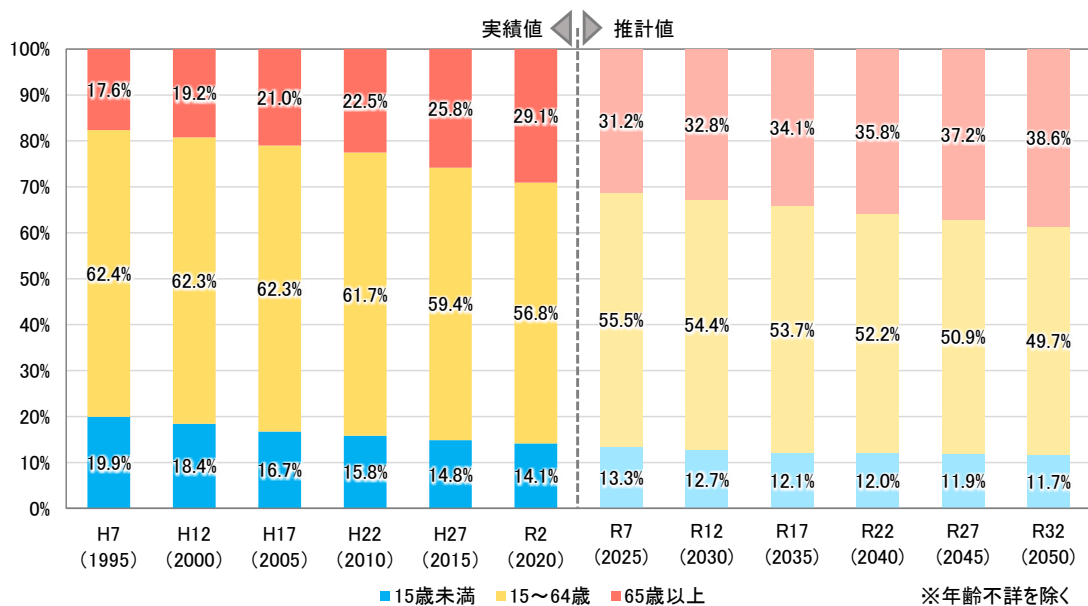


図 年齢3区分別人口の予測（構成比）

出典 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所(R5 推計)

3-2 人口

3-2-1 総人口

(1) 人口分布（令和 2 年）

令和 2 年(2020 年)の人口分布は、居住誘導区域内に集積がみられます。居住誘導区域別では芦刈地域の巨樹誘導区域の人口密度は比較的低くなっています。また、小城、牛津地域では都市機能誘導区域よりも居住誘導区域で人口密度の高いメッシュが比較的多く分布しています。その他の地域では、小城、牛津地域の居住誘導区域縁辺部や、市役所南東側で 40 人/ha 以上のメッシュが集積しているエリアがみられます。

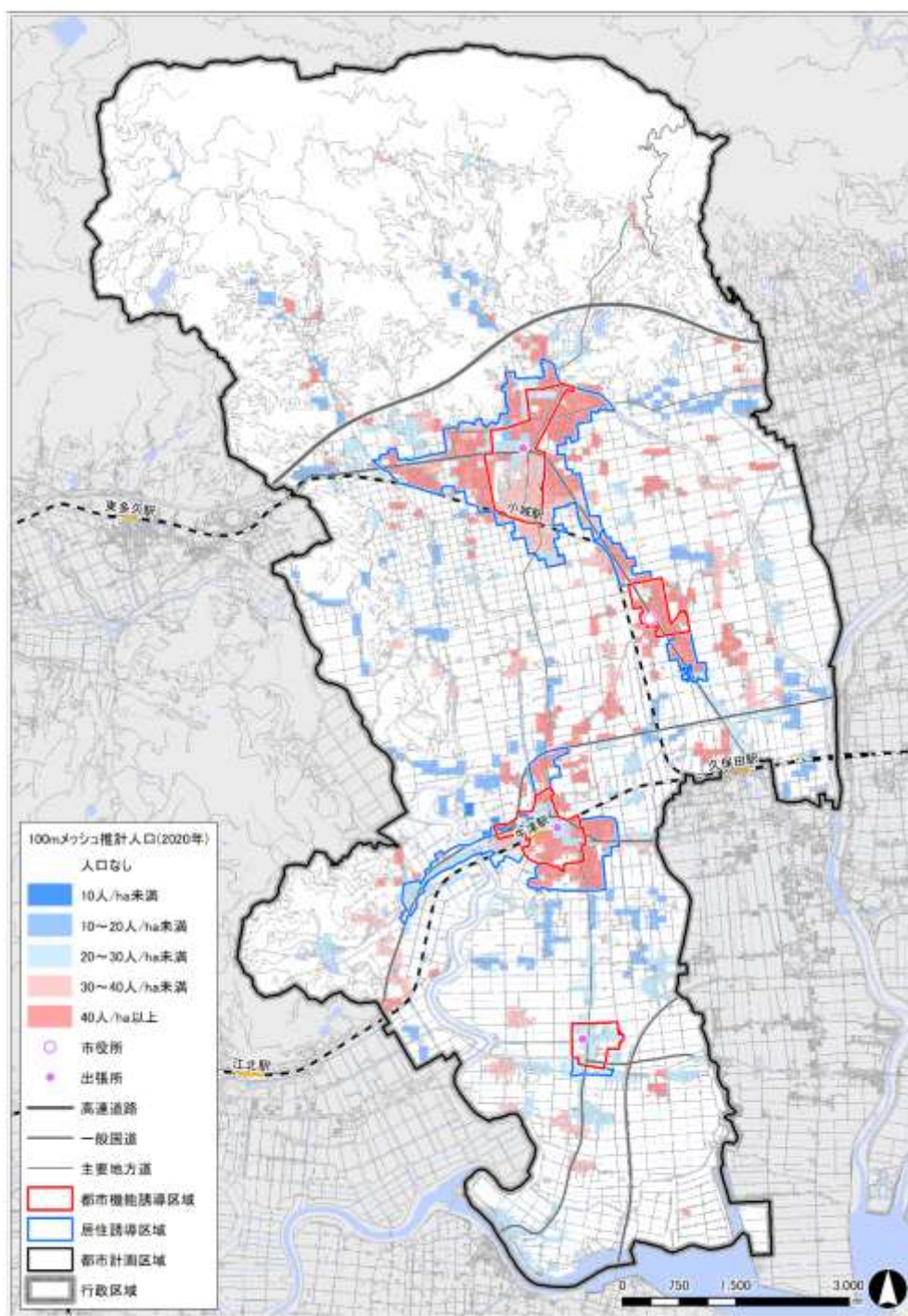


図 100m メッシュ別総人口分布（令和 2 年）

出典 国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

(2) 人口分布(令和22年)

令和22年(2040年)の人口分布は、小城、牛津地域の居住誘導区域では40人/ha以上のメッシュが減少することが予測されていますが、三日月地域の居住誘導区域では維持されると予測されています。また、芦刈地域の居住誘導区域は人口密度が増加する見込みです。

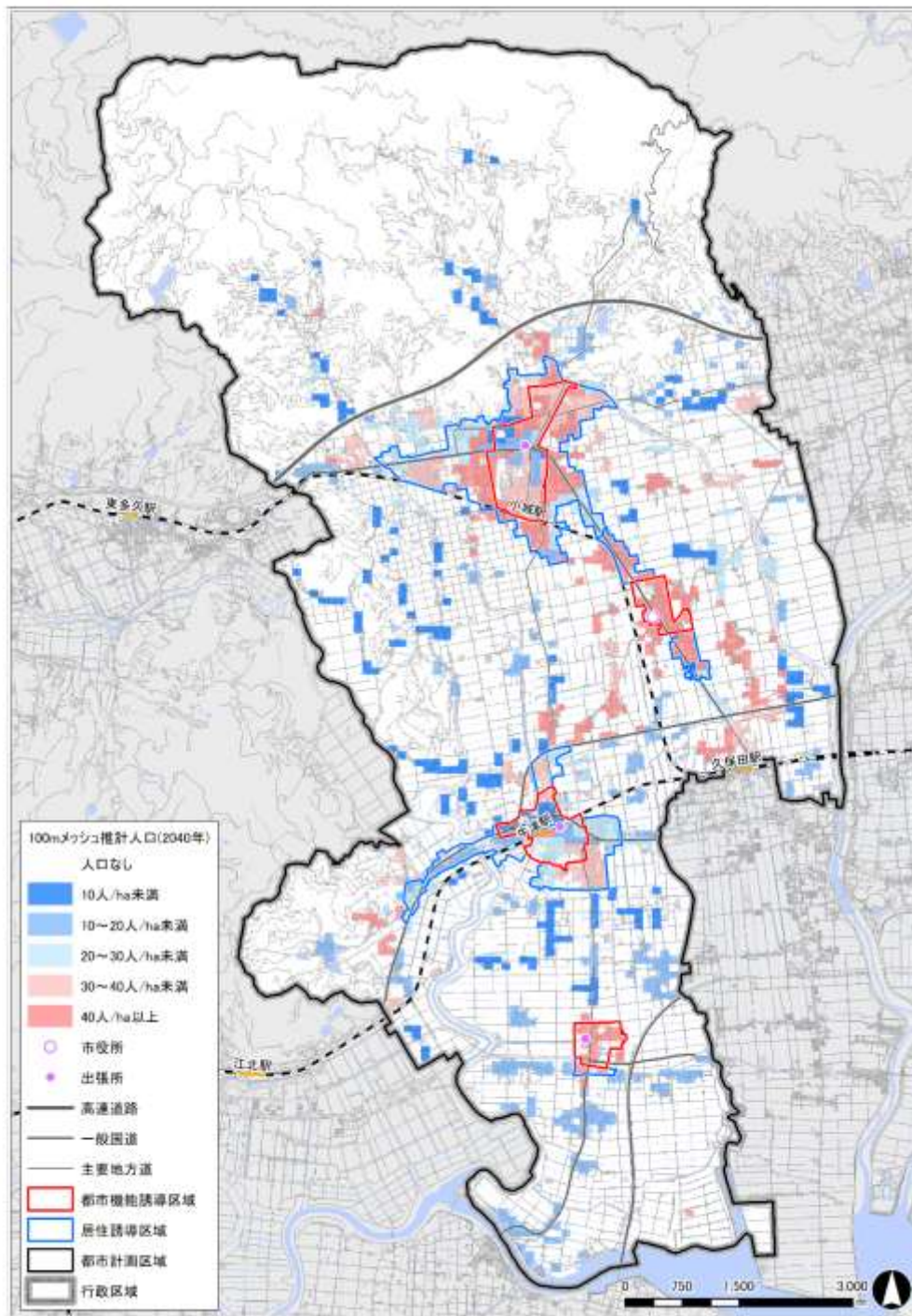


図 100m メッシュ別総人口分布(令和22年)

出典 国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

3-2-2 年少人口（15 歳未満）

（１） 年少人口分布（令和 2 年）

令和 2 年（2020 年）の年少人口分布は、小城、三日月地域では総人口と同様の分布となっていますが、牛津地域では駅南側などで比較的人口密度の低いエリアがみられます。また、総人口では比較的人口密度が低かった芦刈地域において、比較的人口密度が高いメッシュが集積しています。

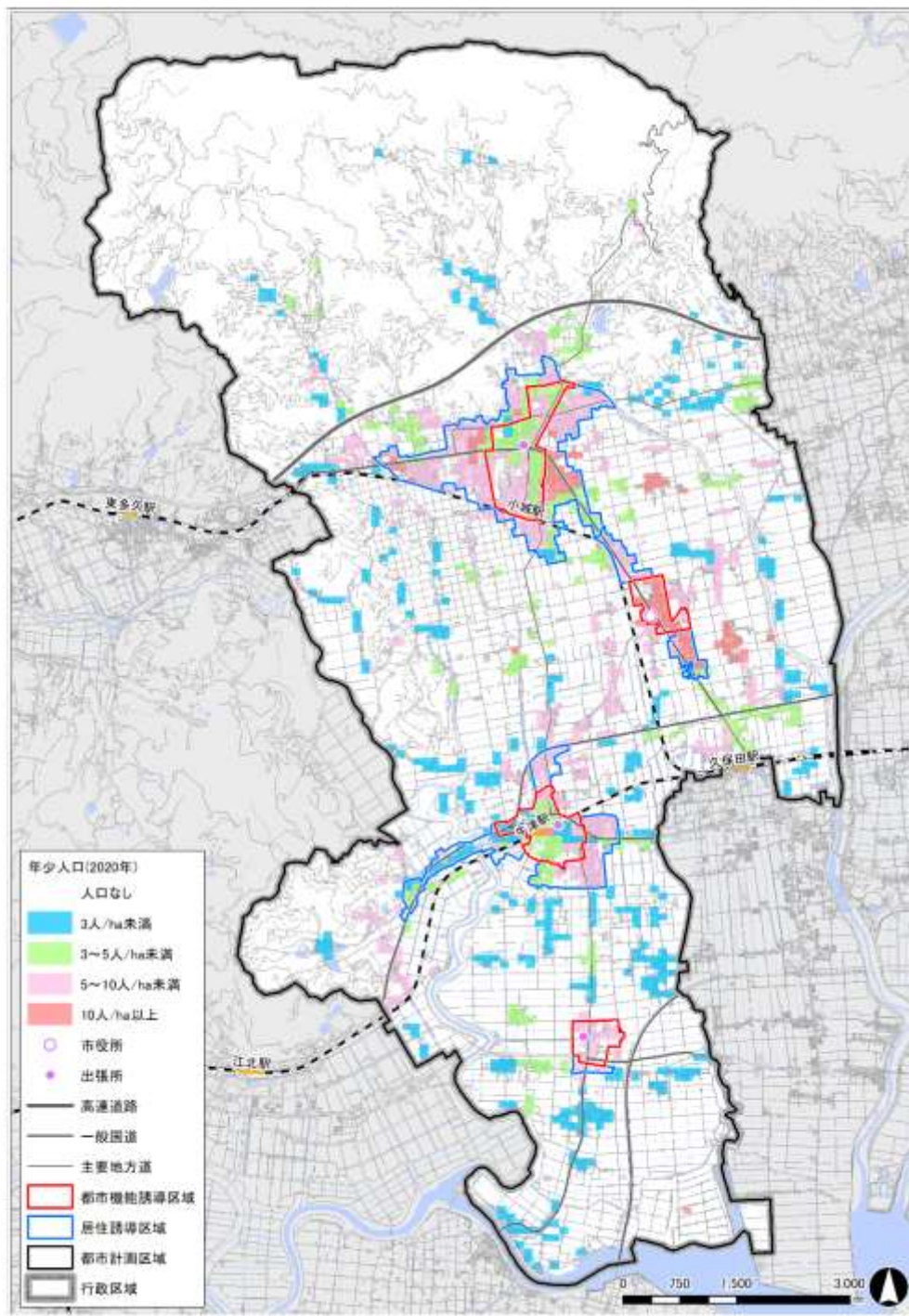


図 100m メッシュ別年少人口分布（令和 2 年）

出典 国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

（２）年少人口分布（令和 22 年）

令和 22 年(2040 年)の年少人口分布は、小城、牛津地域の居住誘導区域では人口密度の低いメッシュが増加することが予測されていますが、三日月、芦刈地域の居住誘導区域では人口密度は維持されると予測されています。

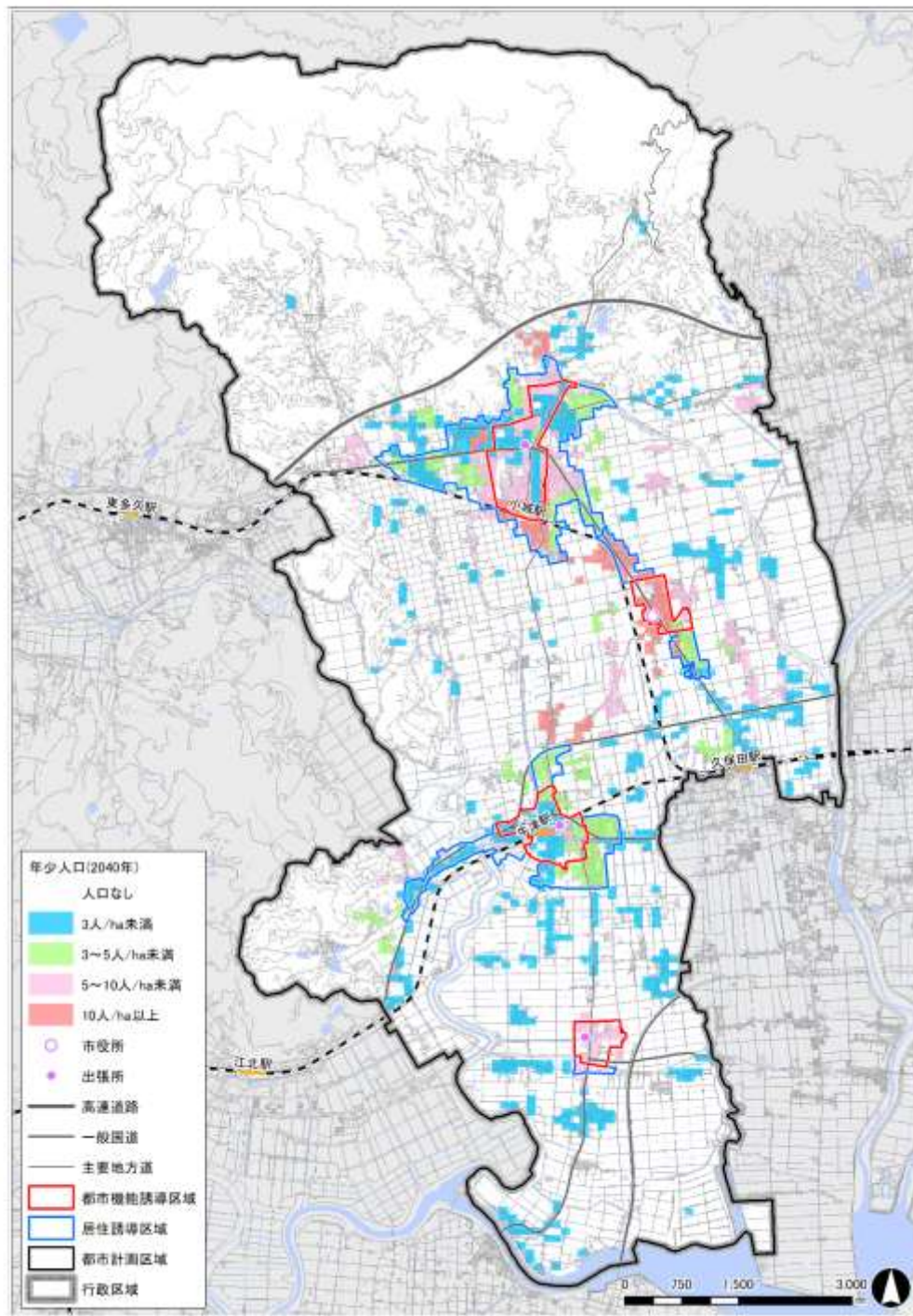


図 100m メッシュ別年少人口分布（令和 22 年）

出典 国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

3-2-3 生産年齢人口（15～65 歳未満）

（１）生産年齢人口分布（令和２年）

令和２年(2020年)の生産年齢人口分布は、小城、牛津、三日月地域では総人口と同様の集積がみられますが、総人口では比較的人口密度が低かった芦刈地域において、比較的人口密度が高いメッシュが集積しています。

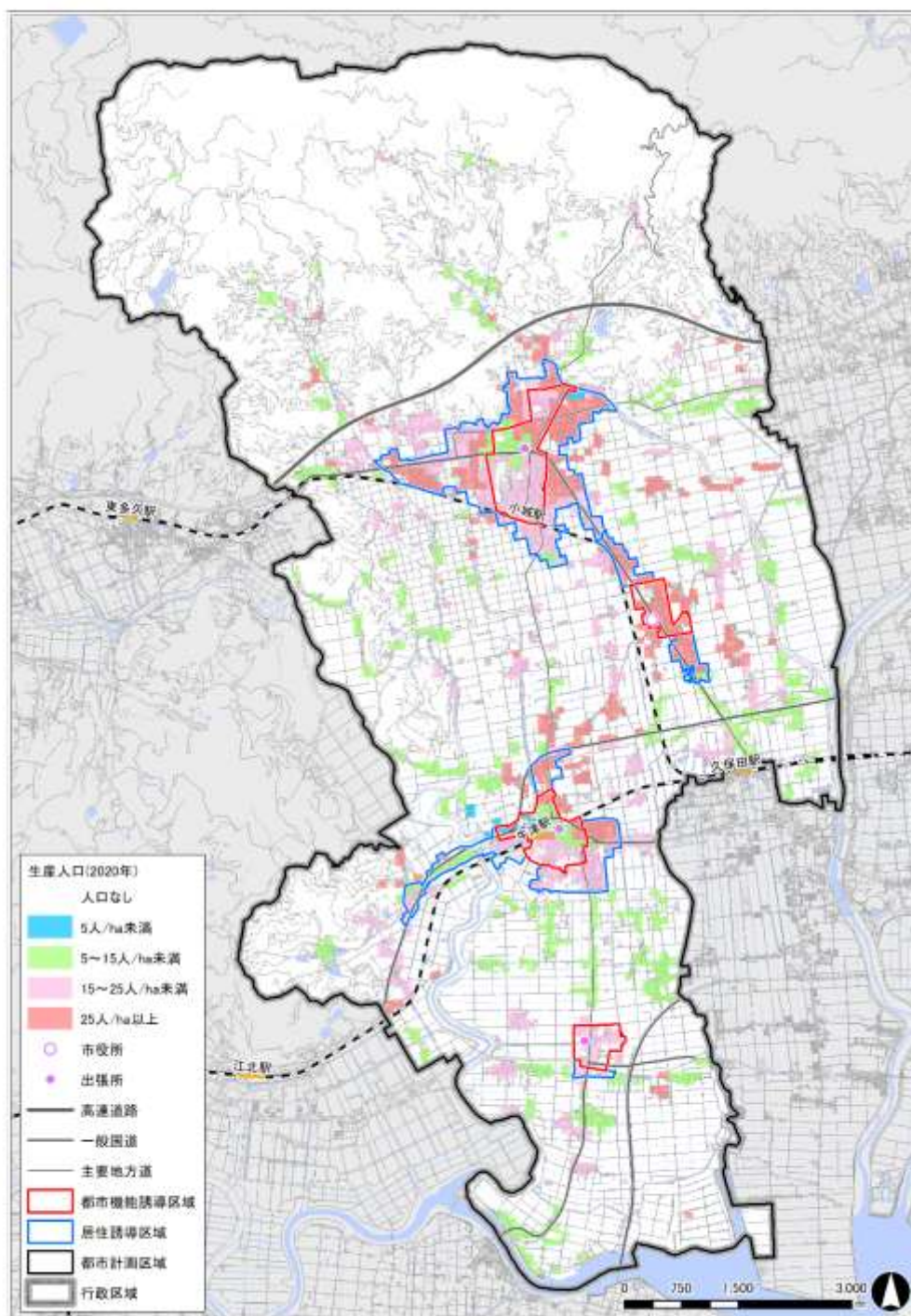


図 100m メッシュ別生産年齢人口分布（令和２年）

出典 国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

（２）生産年齢人口分布（令和 22 年）

令和 22 年(2040 年)の生産年齢人口分布は、小城、牛津地域の居住誘導区域では人口密度の低いメッシュが増加することが予測されていますが、三日月、芦刈地域の居住誘導区域では人口密度は維持されると予測されています。

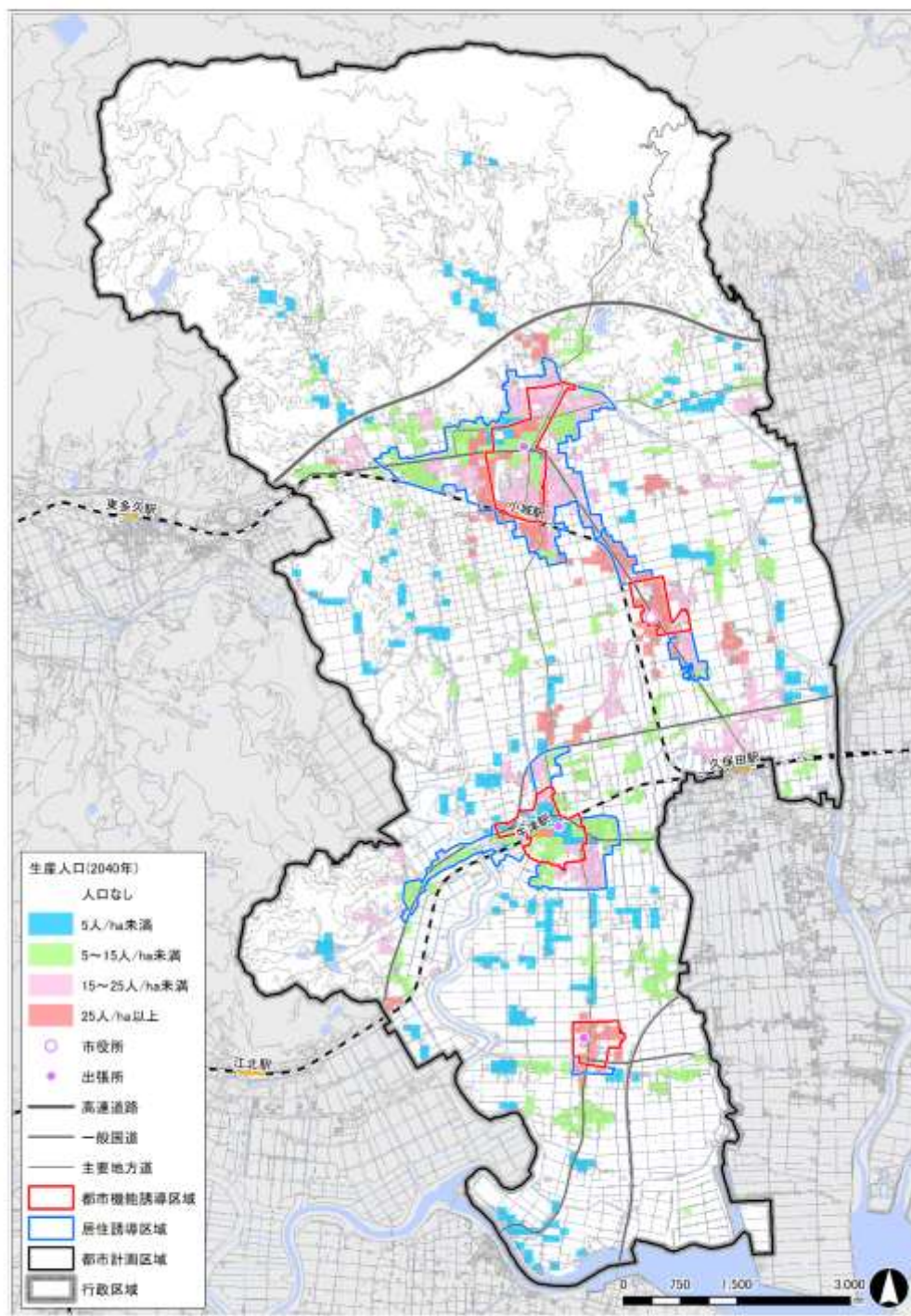


図 100m メッシュ別生産年齢人口分布（令和 22 年）

出典 国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

3-2-4 老年人口（65 歳以上）

（１） 老年人口分布（令和 2 年）

令和 2 年(2020 年)の老年人口分布は、総人口と同様の集積がみられますが、総人口で比較的人口密度が低かった牛津地域の駅周辺で、比較的人口密度が高いメッシュが集積しています。

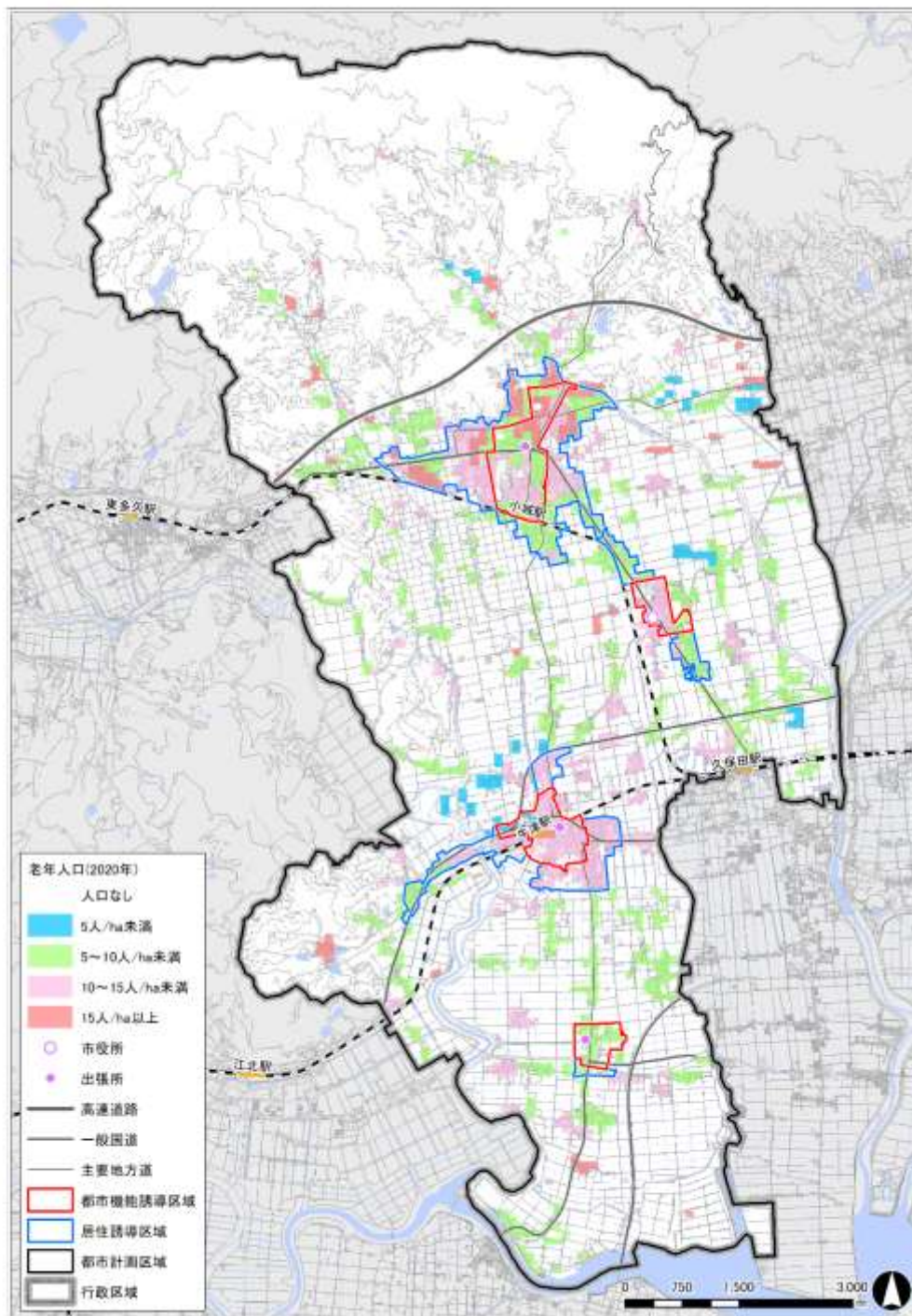


図 100m メッシュ別老年人口分布（令和 2 年）

出典 国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

（２） 老年人口分布（令和 22 年）

令和 22 年(2040 年)の老年人口分布は、小城地域や三日月地域の居住誘導区域では、人口密度の高いメッシュが増加すると予測されています。また、牛津地域では人口密度が比較的低いメッシュが増加すると予測されています。

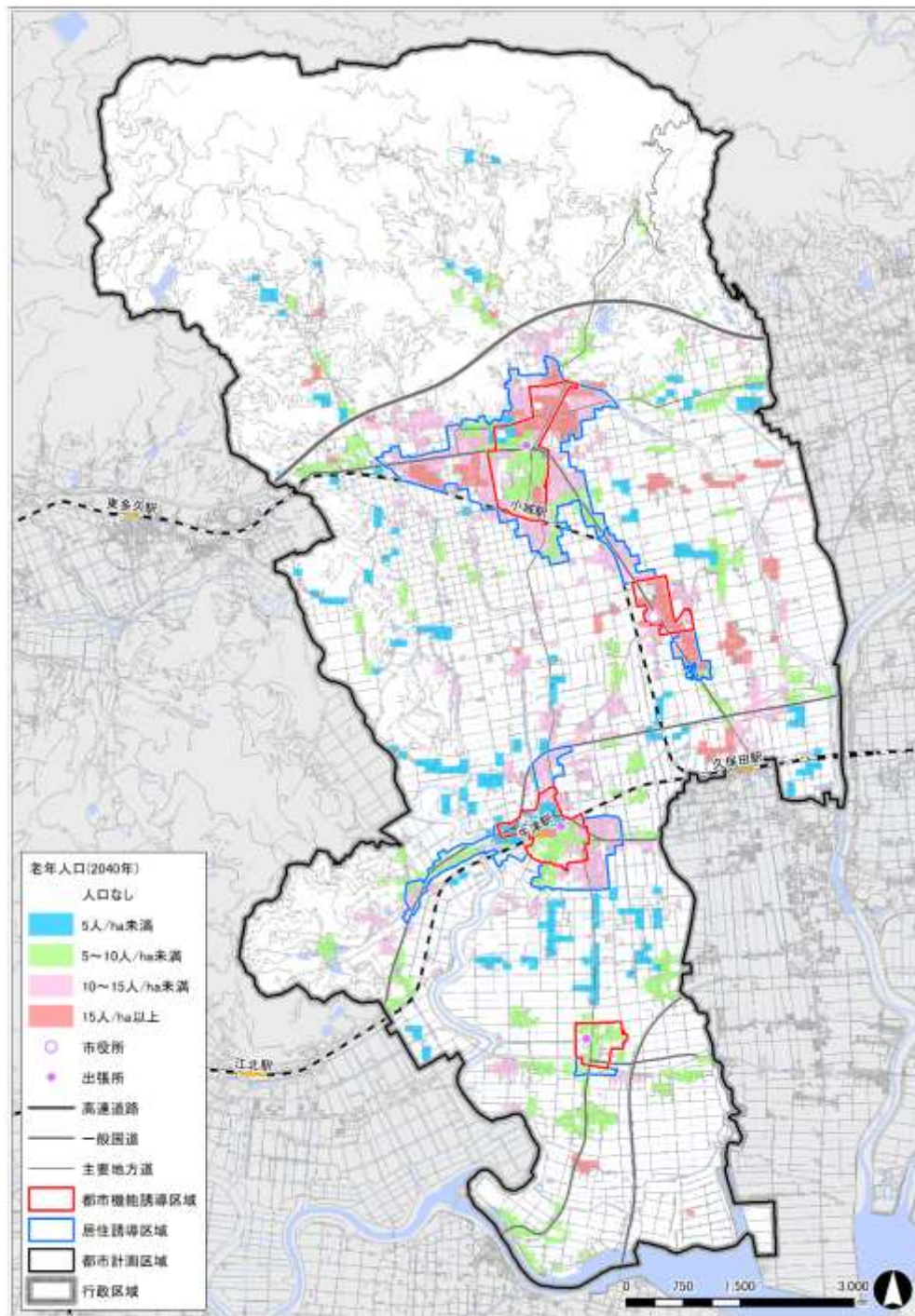


図 100m メッシュ別老年人口分布（令和 22 年）

出典 国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

3-3 区域別人口の推移

令和 2 年(2020 年)の区域別人口は、都市機能誘導区域が 7,007 人、居住誘導区域が 21,025 人となっています。居住誘導区域では人口が減少することが予測されていますが、都市機能誘導区域では増加すると予測され、令和 32 年(2050 年)では令和 2 年(2020 年)より 427 人増加すると予測されています。

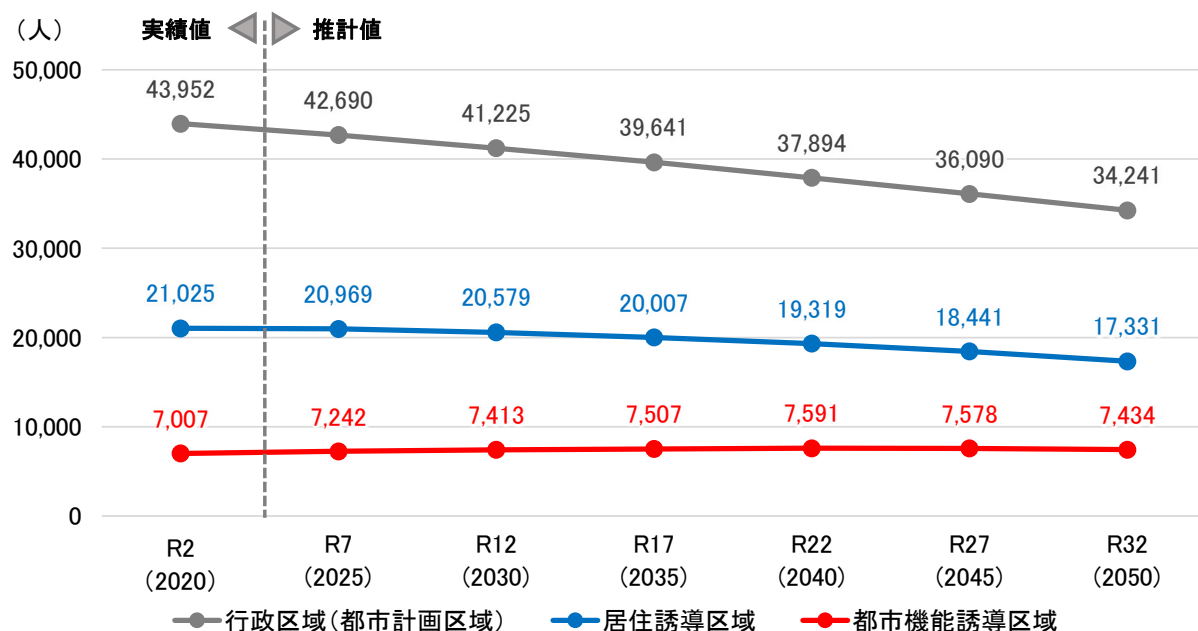


図 区域別人口の推移

出典 令和 5 年度都市計画基礎調査、国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

※100m メッシュの重心が含まれる区域ごとに集計を行った。

3-4 世帯数の推移

本市の世帯数は一貫して増加しており、令和2年(2020年)には15,907世帯で、平成7年(1995年)からの25年間で約4千世帯増加しています。1世帯あたり人員も減少しており、核家族化が進行しています。

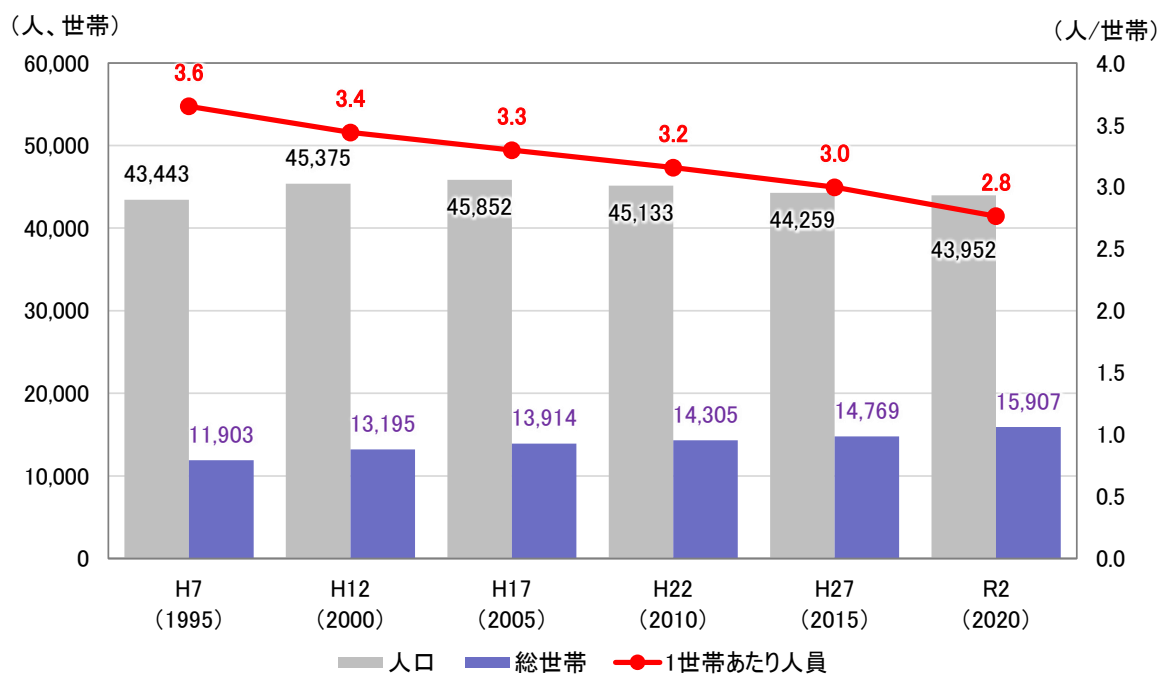


図 人口・世帯数の推移

出典 国勢調査

※H7 は小城町・三日月町・牛津町・芦刈町、H12 は小城郡の合算値。

3-5 通勤通学流動

令和2年(2020年)の通勤通学の状況をみると、佐賀市への通勤通学者が8,789人で最も多く、次いで多久市が1,355人、武雄市が447人と続いています。一方、本市への流入をみると、佐賀市が3,486人と最も多く、次いで多久市が1,032人、白石町が376人となっています。

また、小城市内の通勤通学者と佐賀市流出者数に約千人の差しかないことから、佐賀市との繋がりが強いことがうかがえます。

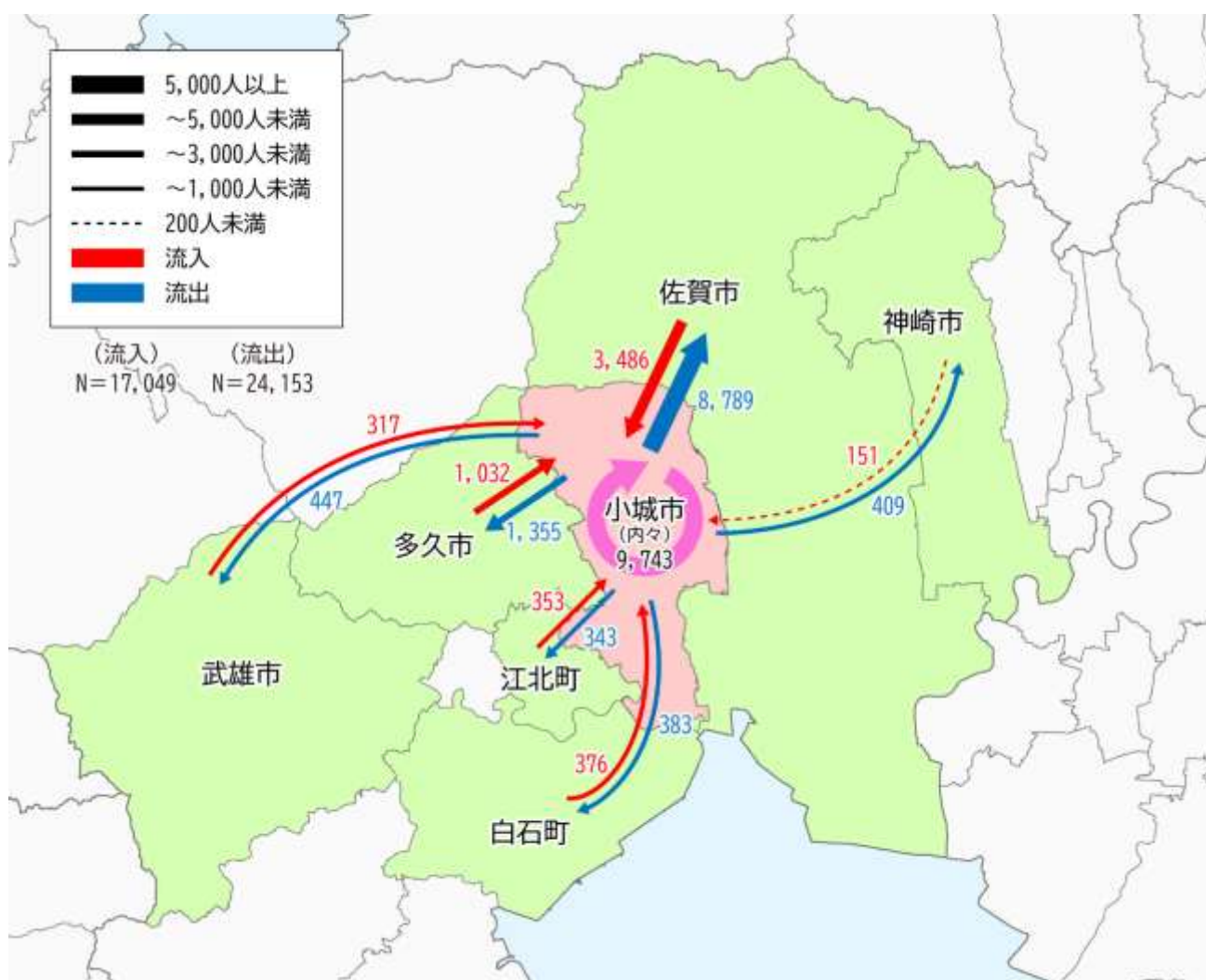


図 通勤通学流動（令和2年（2020年）） ※上位6自治体を表示

出典 国勢調査

4 産業・観光

4-1 就業人口の推移

本市の就業人口は、15歳以上人口と同様に、平成17年(2005年)をピークにその後はほぼ横ばいで推移しています。

県全体の就業人口が減少している中、本市では横ばいで推移しているため、佐賀県に対する本市の就業人口割合は増加しています。

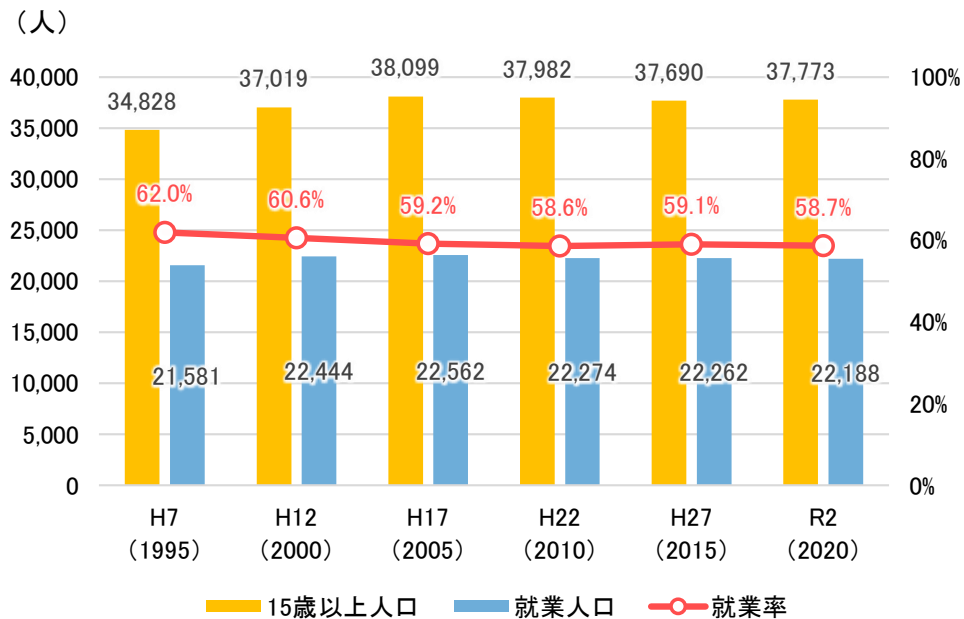


図 就業人口、就業率の推移

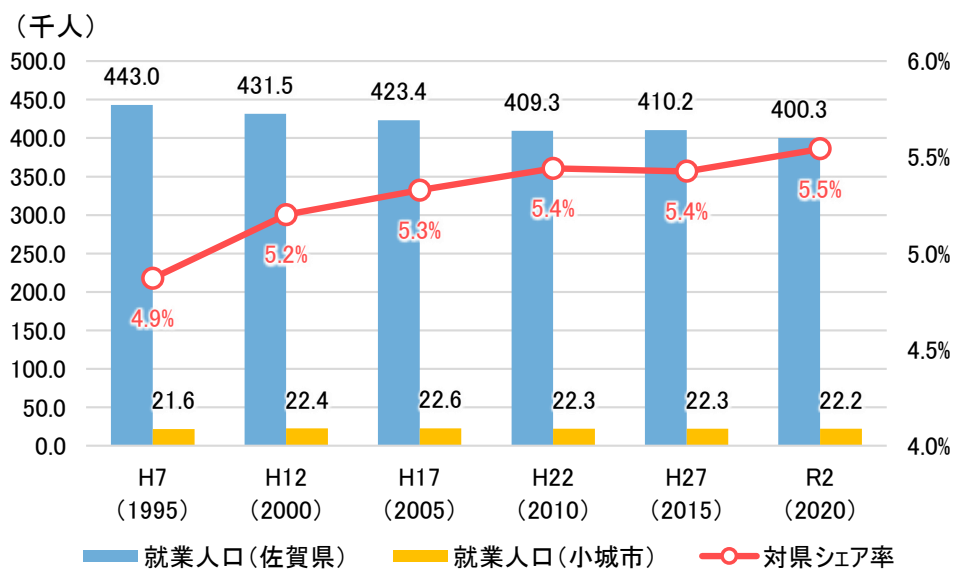


図 就業人口の推移

出典 国勢調査

産業別就業者数の構成比の推移をみると、本市も佐賀県どちらも第三次産業の占める割合が増加傾向にあり、令和2年(2020年)ではどちらも約7割を占め、平成7年(1995年)と比較すると、本市で11.0%、県で10.6%の増加となっています。一方、第二次産業は平成17年(2005年)以降横ばいで推移していますが、第一次産業の減少が顕著で、平成7年(1995年)の14.5%から令和2年(2020年)には6.7%と25年間で半数以上減少しています。

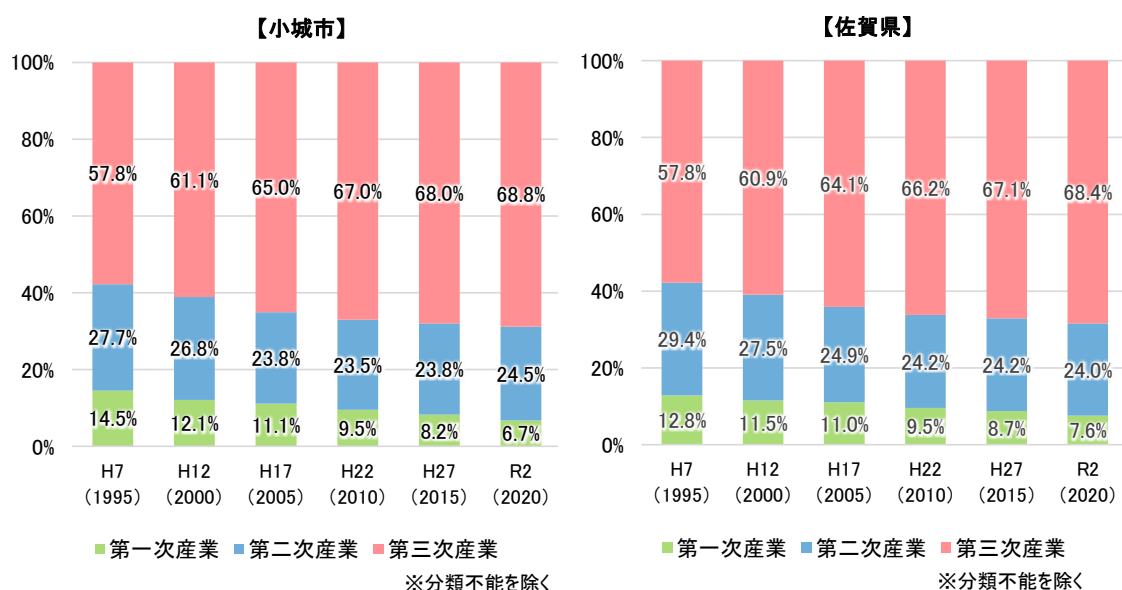


図 産業別就業者数の構成比の推移

出典 国勢調査

4-2 農業

本市の農家数は、平成 17 年(2005 年)では販売農家 1,810 戸、自給的農家 285 戸でしたが、その後減少し令和 2 年(2020 年)では販売農家が 518 戸、自給的農家が 169 戸となっています。

経営耕地面積も同様に減少していますが、販売農家は農家数、経営耕地面積ともに平成 27 年(2015 年)から令和 2 年(2020 年)にかけてわずかに増回しています。

耕作放棄地面積は減少傾向にあり、平成 27 年(2015 年)では 132ha となっています。

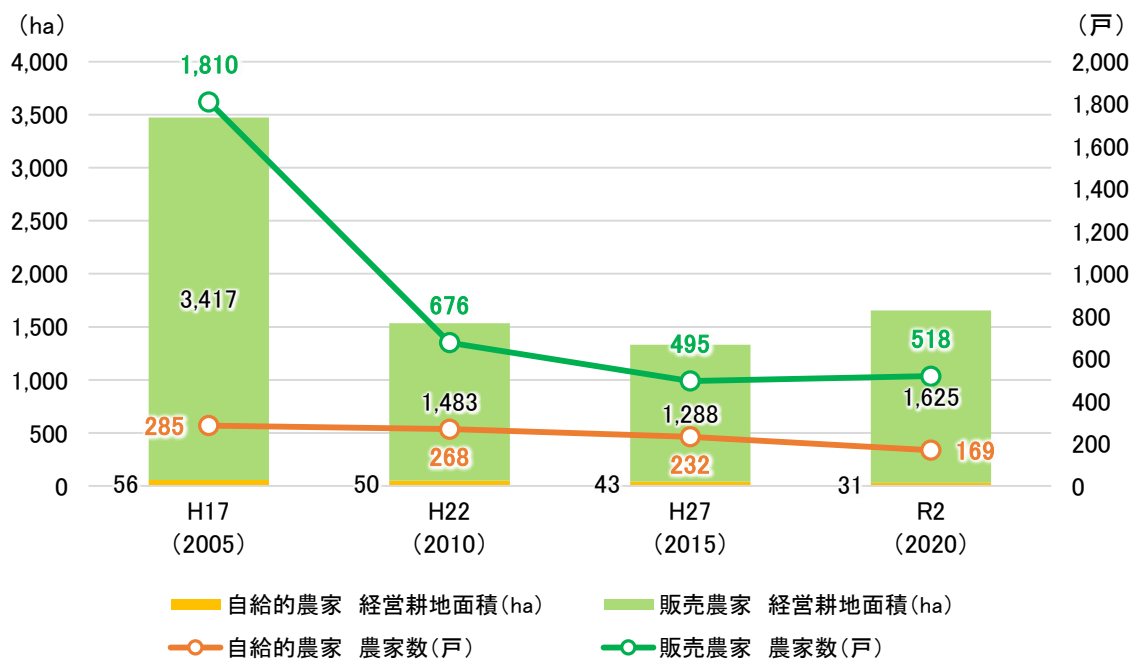


図 農家数、経営耕地面積の推移

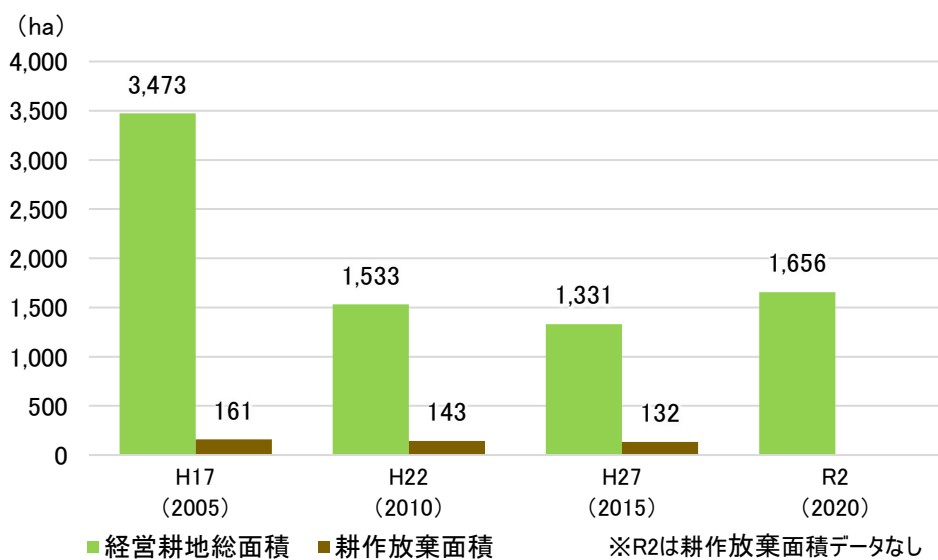


図 経営耕地総面積、耕作放棄面積の推移

出典 農林業センサス

4-3 工業

本市の製造品出荷額等は平成 30 年(2018 年)までは 200 億円台～300 億円台で推移していましたが、令和 1 年(2019 年)に 400 億円を上回り、令和 6 年(2024 年)には 449 億円で最も高くなっています。

従業者数をみると、1,300 人台から 1,600 人台で増減を繰り返しながら推移しており、令和 1 年(2019 年)が 1,678 人と最も多くなっています。

事業所数は緩やかに減少しており、令和 6 年(2024 年)では 50 箇所となっています。

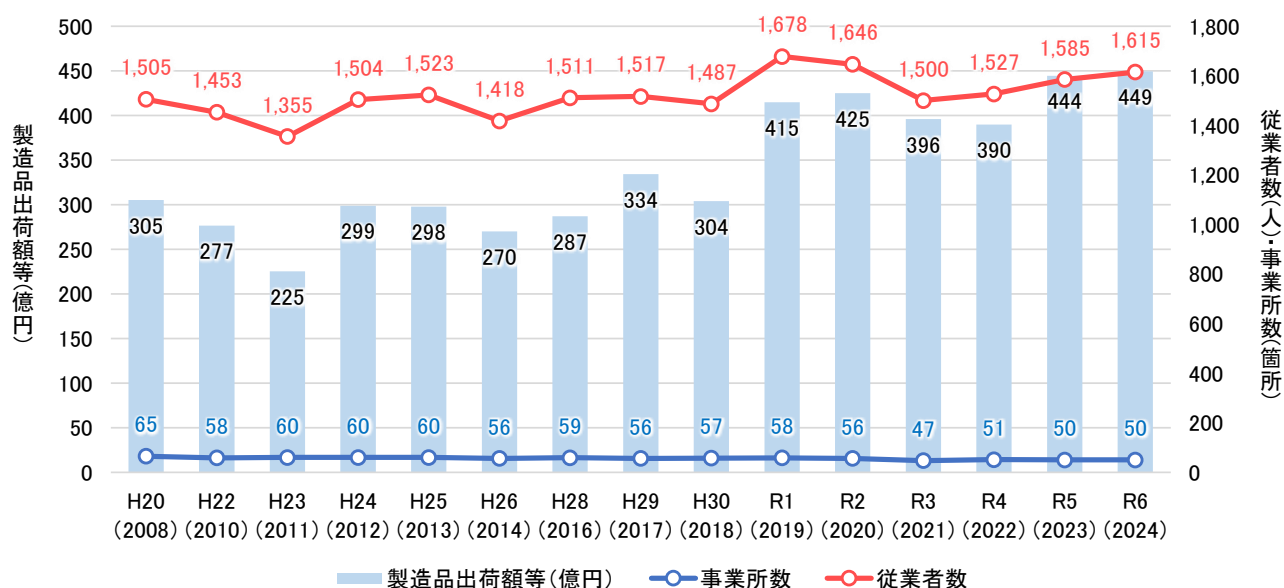


図 製造品出荷額、事業所数、従業員数の推移

出典 工業統計調査、経済センサス、経済構造実態調査

4-4 商業

年間商品販売額は、平成 24 年(2012 年)まで減少していましたが、その後増加し令和 3 年(2021 年)では 734 億円となっています。

従業者数は、年間商品販売額の推移と類似していますが、最も多いのは平成 16 年(2004 年)の 3,203 人となっており、令和 3 年(2021 年)には 2,445 人と 17 年間で 758 人減少しています。

事業所数は、平成 19 年(2007 年)から減少し、令和 3 年(2021 年)には 322 箇所と平成 16 年(2004 年)以降最も少なくなっています。

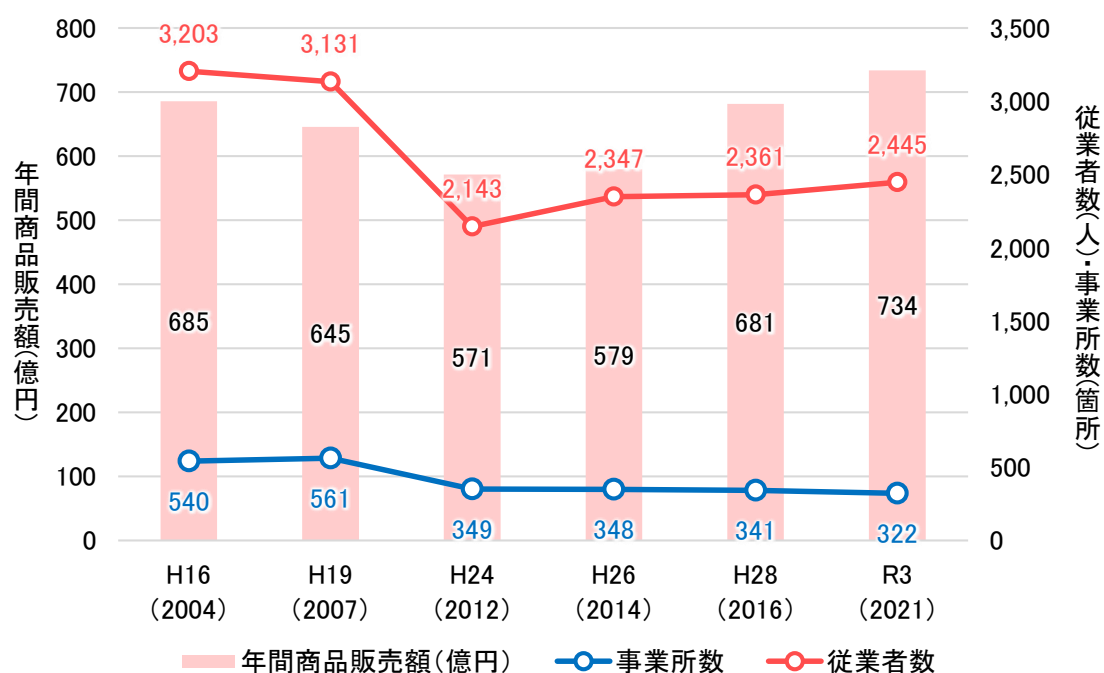


図 商品販売額、事業所数、従業者数の推移

出典：商業統計調査、経済センサス

4-5 観光

本市への観光入込客数は、宿泊客と比べて日帰り客が圧倒的に多い状況にあります。

日帰り客数の推移をみると、令和 1 年(2019 年)までは増減を繰り返しながらも 40 万人から 50 万人台を維持していましたが、令和 2 年(2020 年)は新型コロナウイルス感染拡大の影響等により 18.2 万人と大幅に減少しました。その後は徐々に増加しており、令和 5 年(2023 年)に 67.1 万人と最も多くなっています。

宿泊客数についてみると、新型コロナウイルス感染拡大以前は平成 29 年に 2.4 万人が最も多く、その後減少しますが、令和 5 年(2023 年)には新型コロナウイルス感染拡大前と同程度となっています。

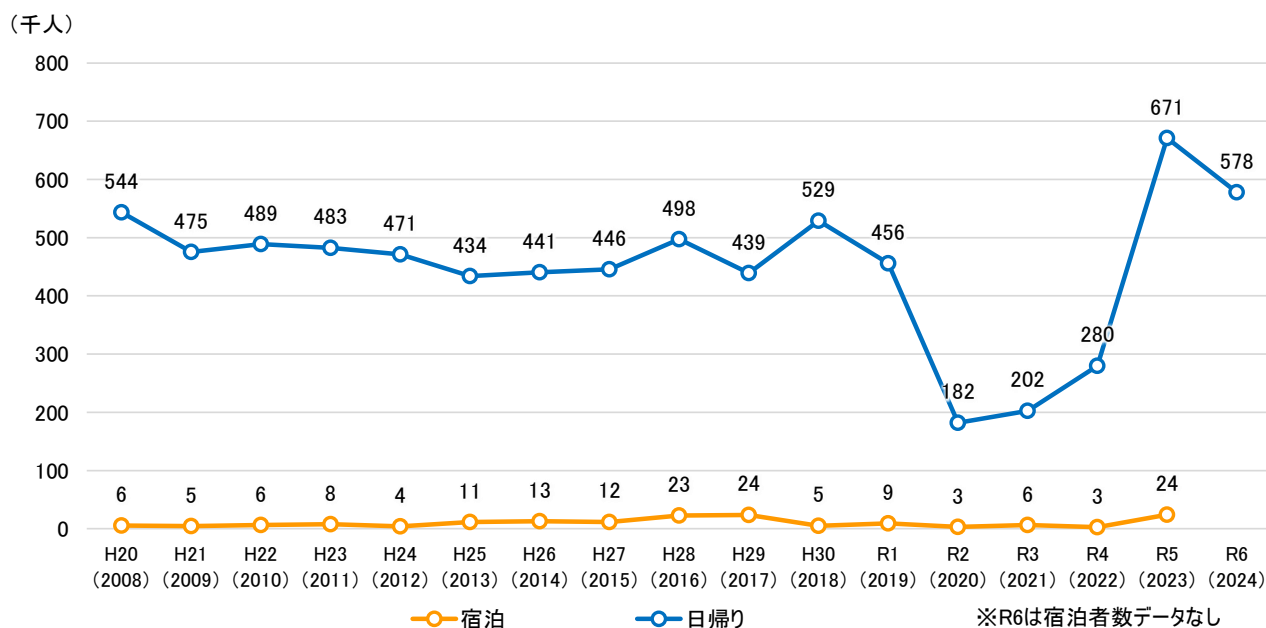


図 県外居住の観光入込客数の推移

出典 佐賀県観光客動態調査

5 土地利用・開発動向

5-1 区域別土地利用面積

都市計画区域内における土地利用は、都市計画区域全体では田や畑、森林を含む自然的土地利用が約 8 割と大半を占めています。

居住誘導区域では都市的土地利用が 8 割を超えており、住宅用地が最も多く、次いで道路用地、公益施設用地の順で多くなっています。

都市機能誘導区域では都市的土地利用が約 9 割を占めており、住宅用地が最も多く、次いで公益施設用地、道路用地の順で多くなっています。

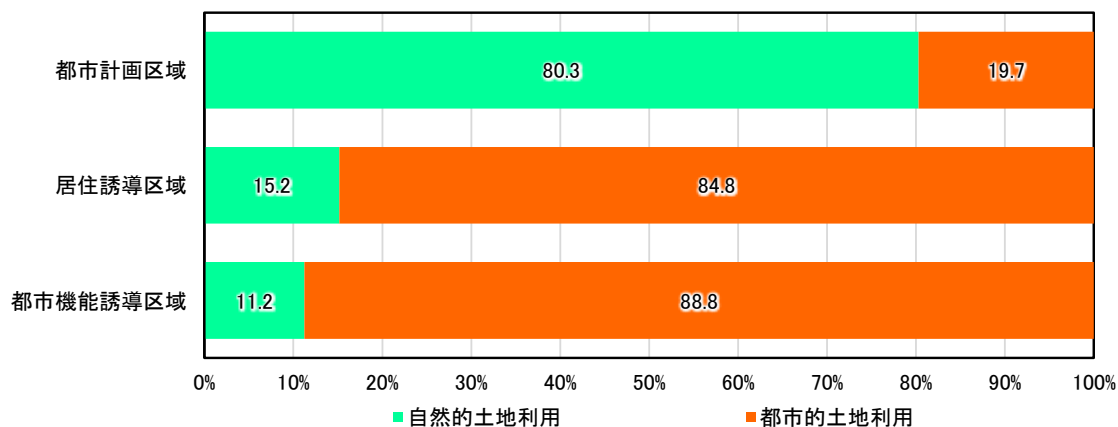


図 自然的・都市的土地利用の構成比

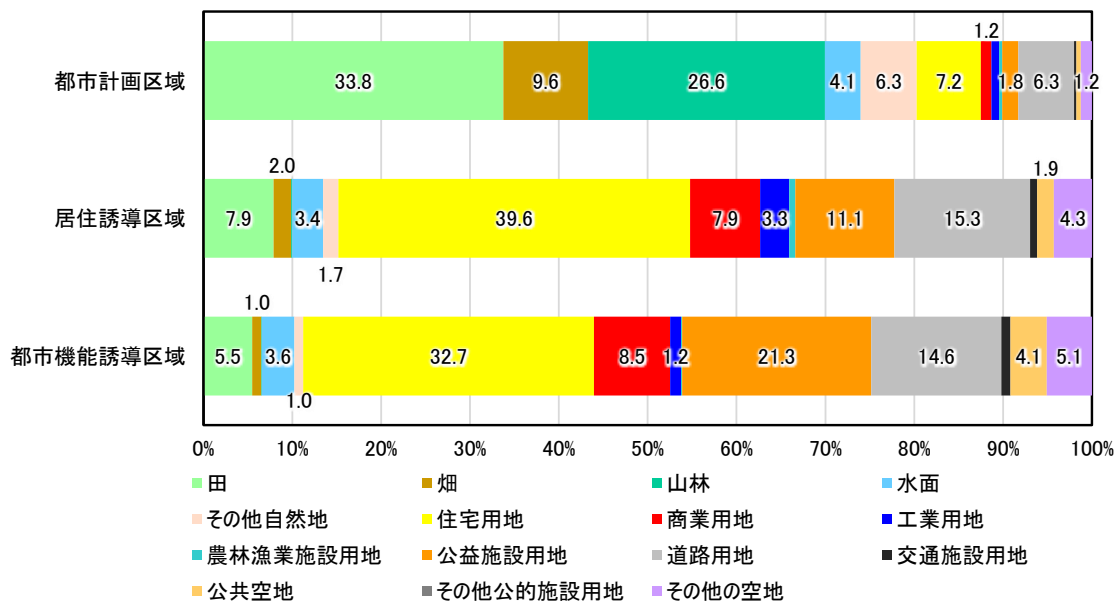


図 用途別土地利用の構成比

出典 令和 5 年度都市計画基礎調査

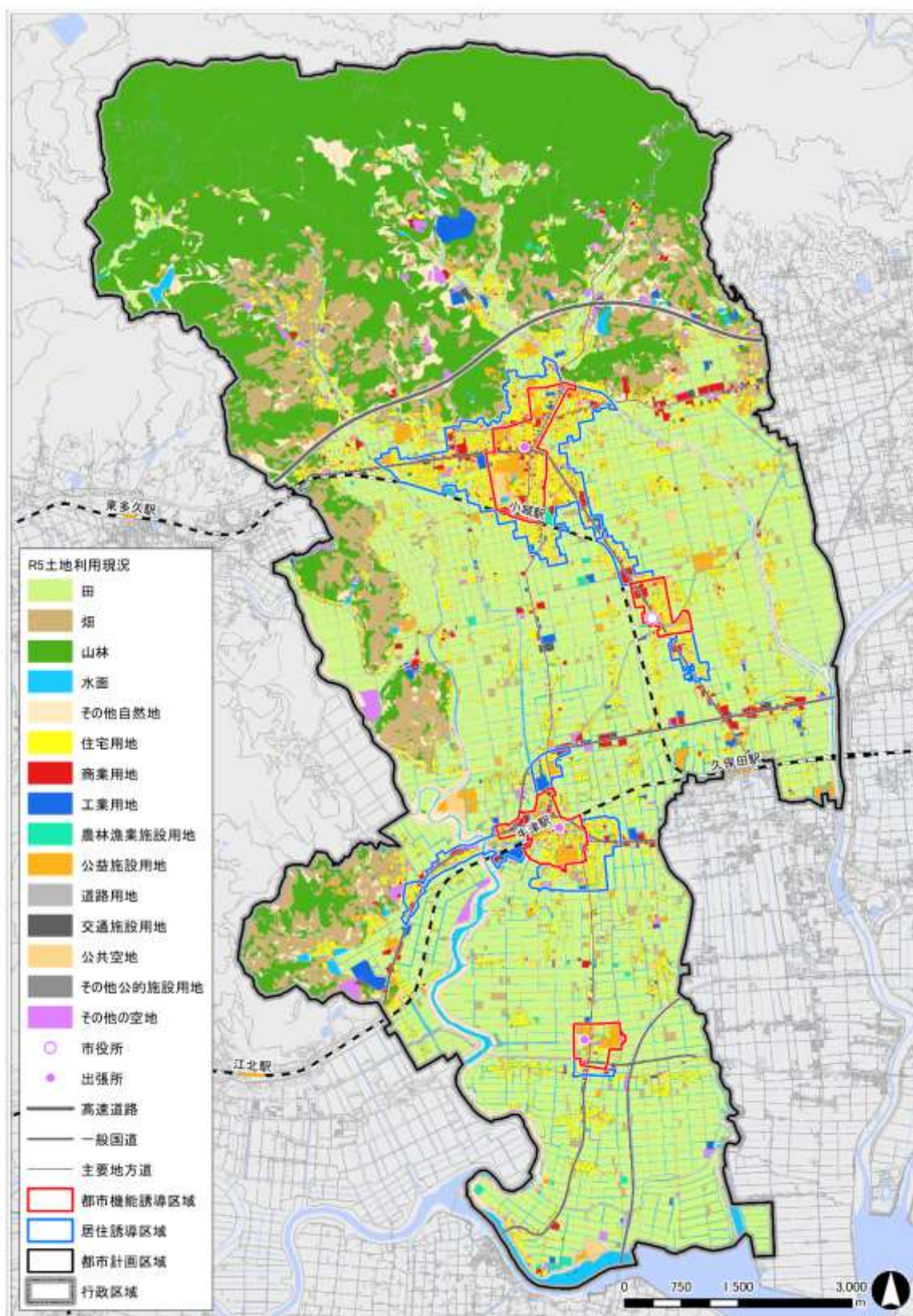


図 土地利用現況

出典 令和5年度都市計画基礎調査

5-2 新築動向

都市計画区域内における新築動向は、増加傾向にありそのほとんどが住宅によるものとなっています。誘導区域別にみると、居住誘導区域では平成30年(2018年)までは増減を繰り返していましたが、令和1年(2019年)以降は概ね140件台で推移しています。

都市機能誘導区域では増減を繰り返しながら推移していますが、居住誘導区域と比較して住宅以外の割合が多い傾向にあります。なお、平成26年(2014年)～令和4年(2022年)の総数では居住誘導区域の方が多くなっています。

また、新築の分布をみると、各地域の誘導区域で比較的新築がみられますが、市役所東側のエリアや主要な国道沿道で比較的多くの新築がみられます。

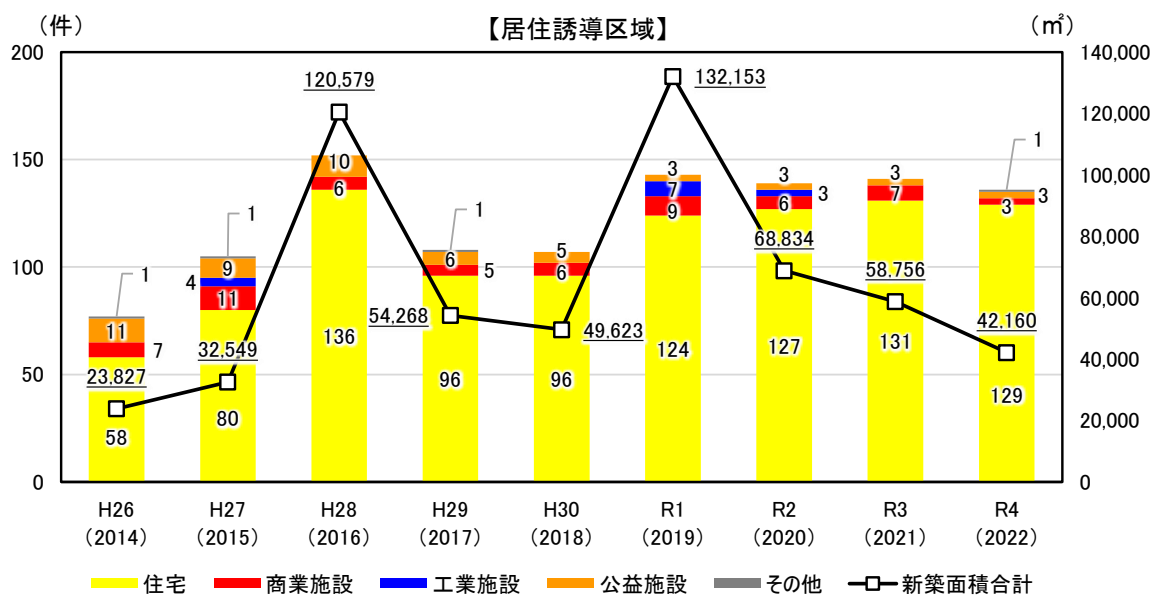
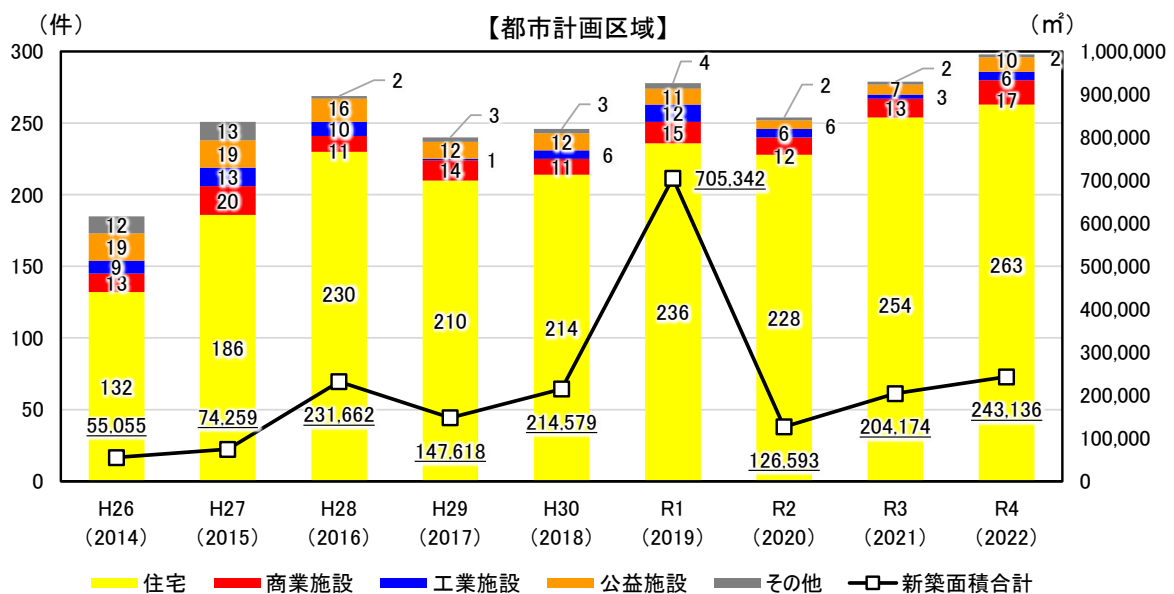


図 用途別新築動向の推移

出典 令和5年度都市計画基礎調査

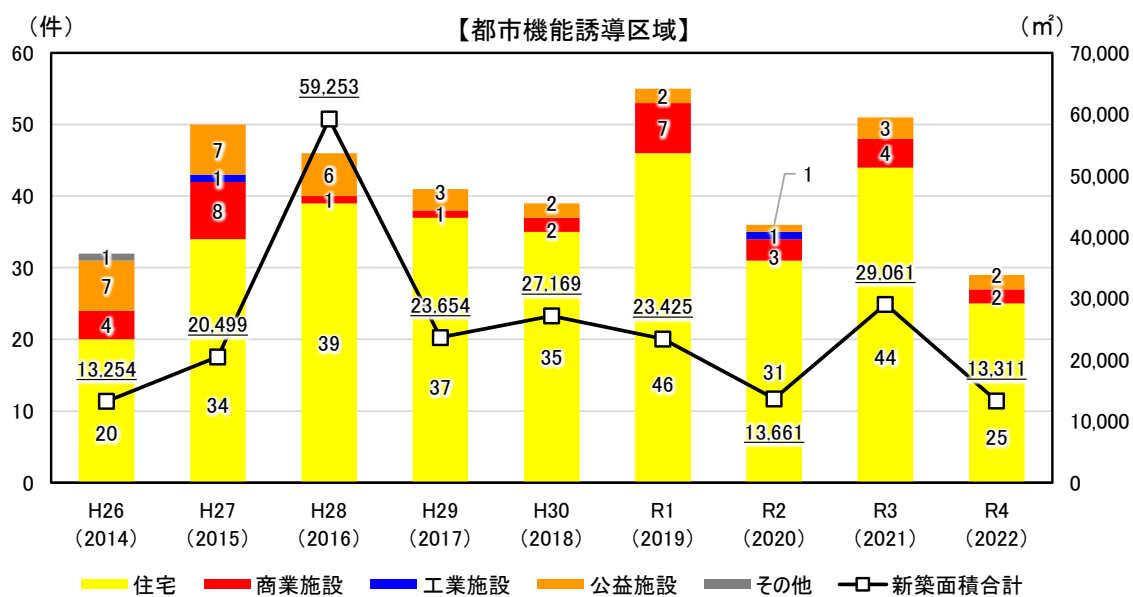


図 用途別新築動向の推移

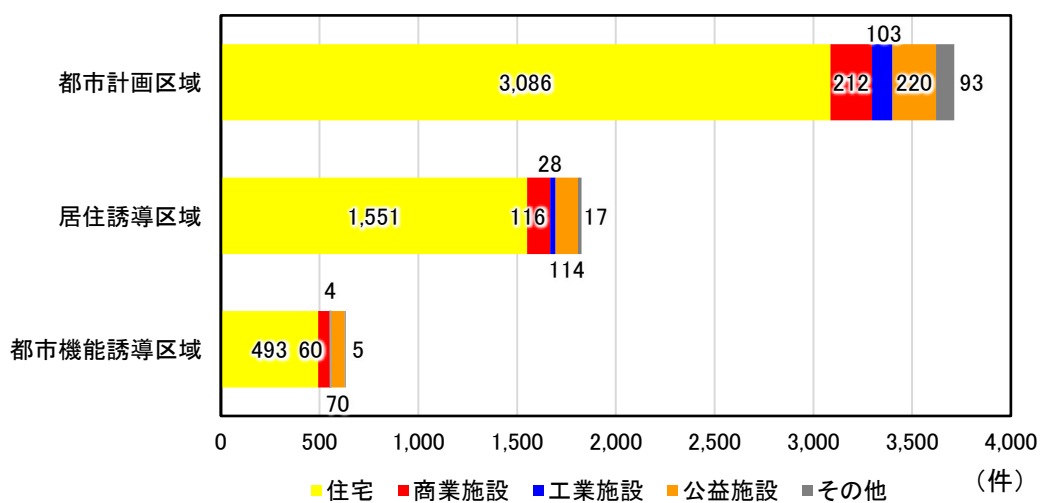


図 区域別新築件数（平成 26 年（2014 年）～令和 4 年（2022 年））

出典 令和 5 年度都市計画基礎調査

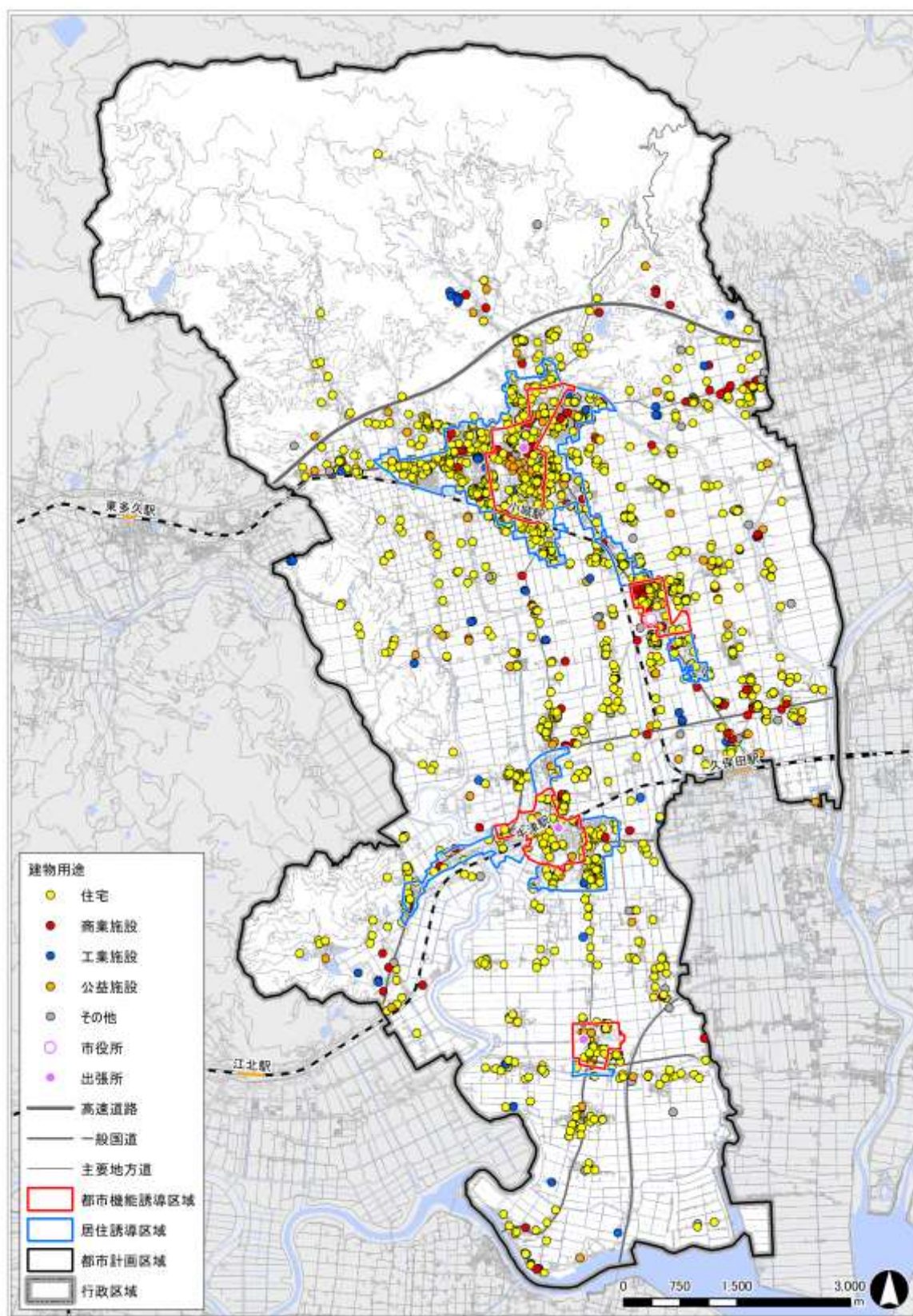


図 新築分布（平成 26 年（2014 年）～令和 4 年（2022 年））

出典 令和 5 年度都市計画基礎調査

5-3 農地転用

都市計画区域内における農地転用件数は令和 2 年(2020 年)以降増加しており、中でも住宅用地が大きく増加し、居住誘導区域での転用が約半数を占めています。都市機能誘導区域では農地転用件数は少なく、また誘導区域外ではその他の転用が比較的多く行われています。

なお、その他への農地転用は九州自動車道以北の山間部で比較集積してみられます。

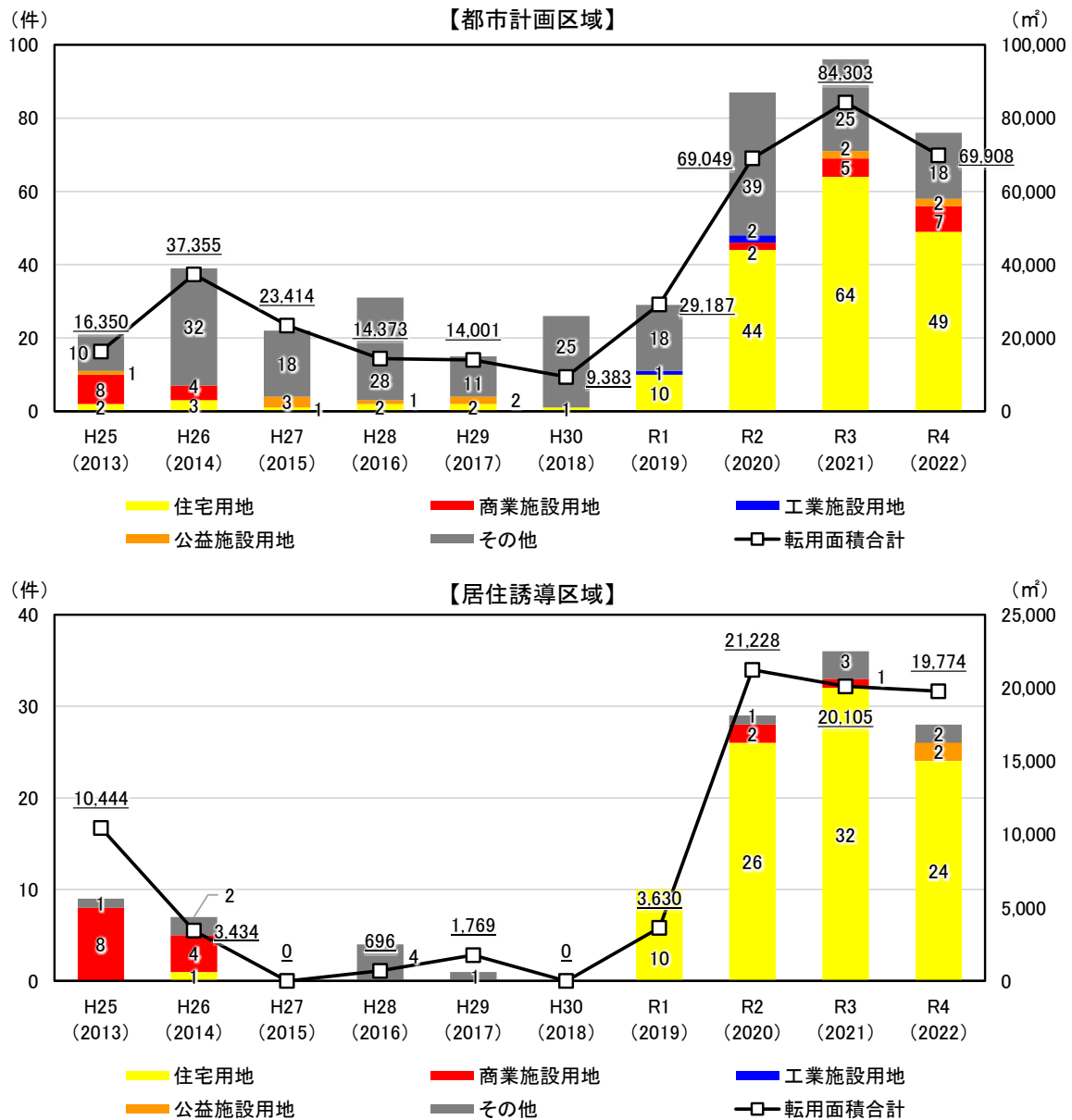


図 用途別農地転用の推移

出典 令和 5 年度都市計画基礎調査

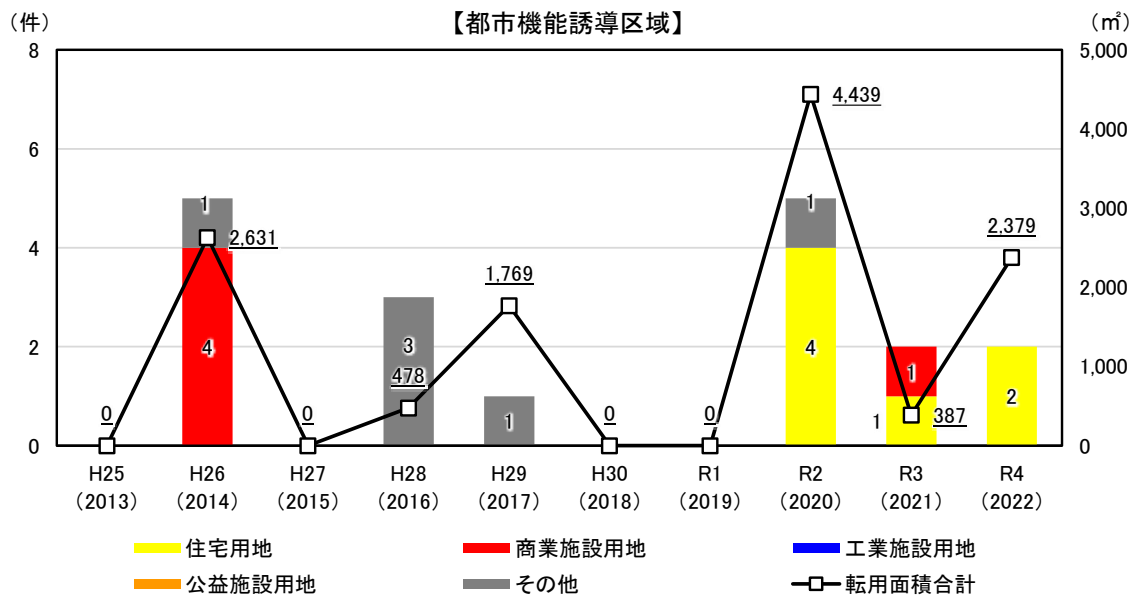


図 用途別農地転用の推移

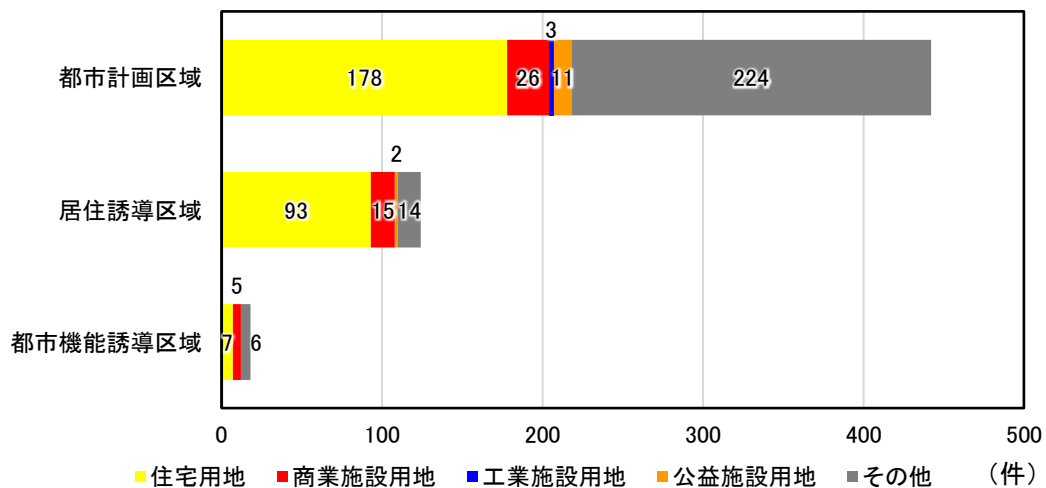


図 区域別農地転用件数（平成 25 年（2013 年）～令和 4 年（2022 年））

出典 令和 5 年度都市計画基礎調査

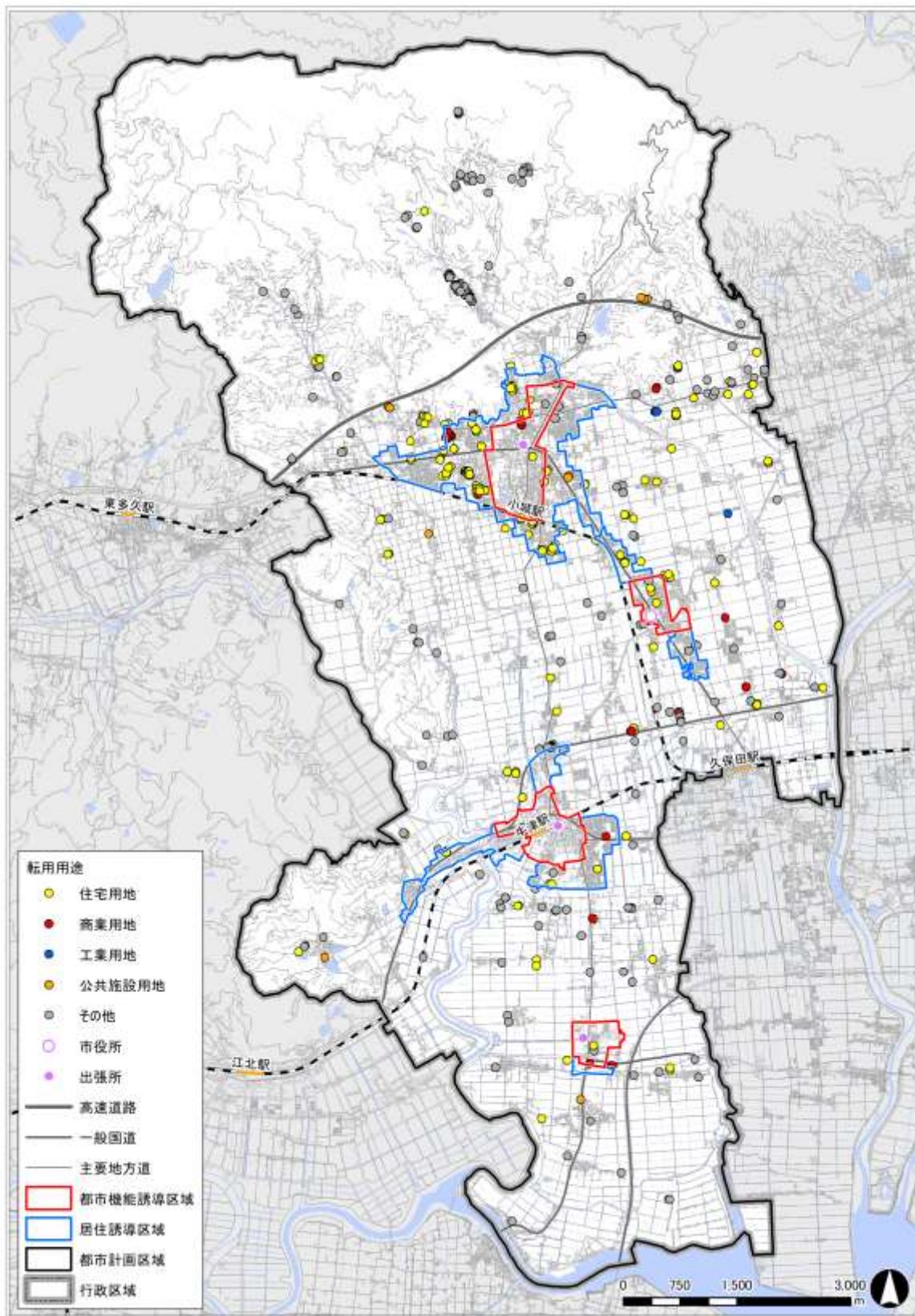


図 農地転用分布

出典 令和5年度都市計画基礎調査

5-4 空家分布

住宅総数は平成 25 年(2013 年)から令和 5 年(2023 年)にかけて増加していますが、空家数、空家率は平成 30 年(2018 年)から令和 5 年(2023 年)にかけて減少しています。

空家の種類別にみると、その他の住宅を除くと賃貸用住宅が多い傾向にあり、令和 5 年(2023 年)では二次的住宅の割合が増加しています。

また、空き家の分布をみると、小城駅北側や牛津駅南側で比較集積しています。

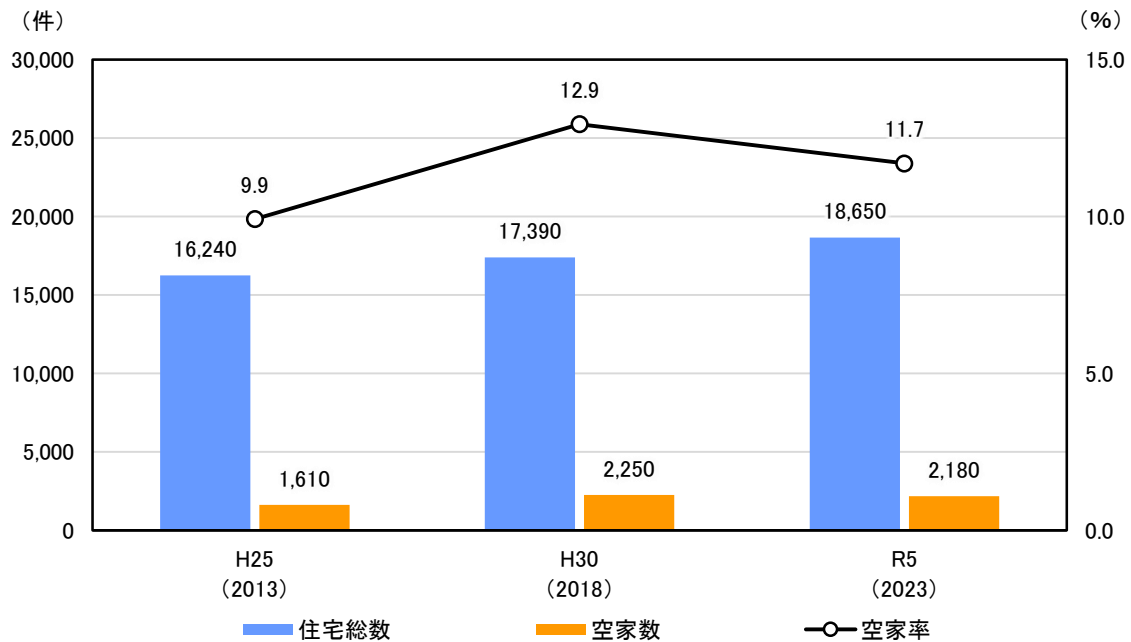
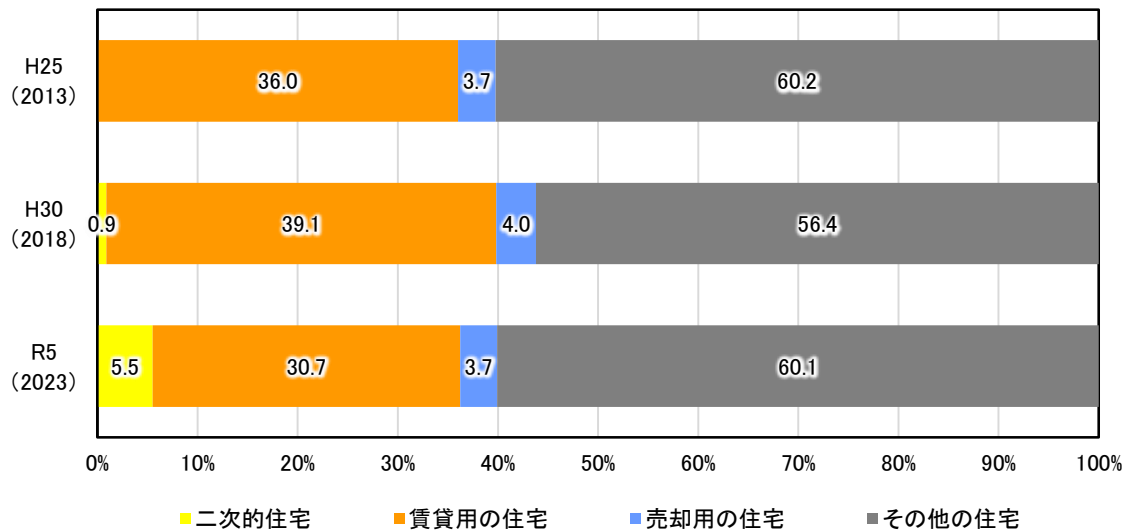


図 住宅総数、空家数、空家率の推移



※空き家の「その他の住宅」とは、「賃貸用の住宅」「売却用の住宅」「二次的住宅」以外の住宅で、例えば、転勤・入院などのため居住世帯が長期にわたって不在の住宅や建て替えなどのために取り壊すことになっている住宅のほか、空き家の区分の判断が困難な住宅などを含む。

図 種類別空家数の構成比

出典 住宅・土地統計調査

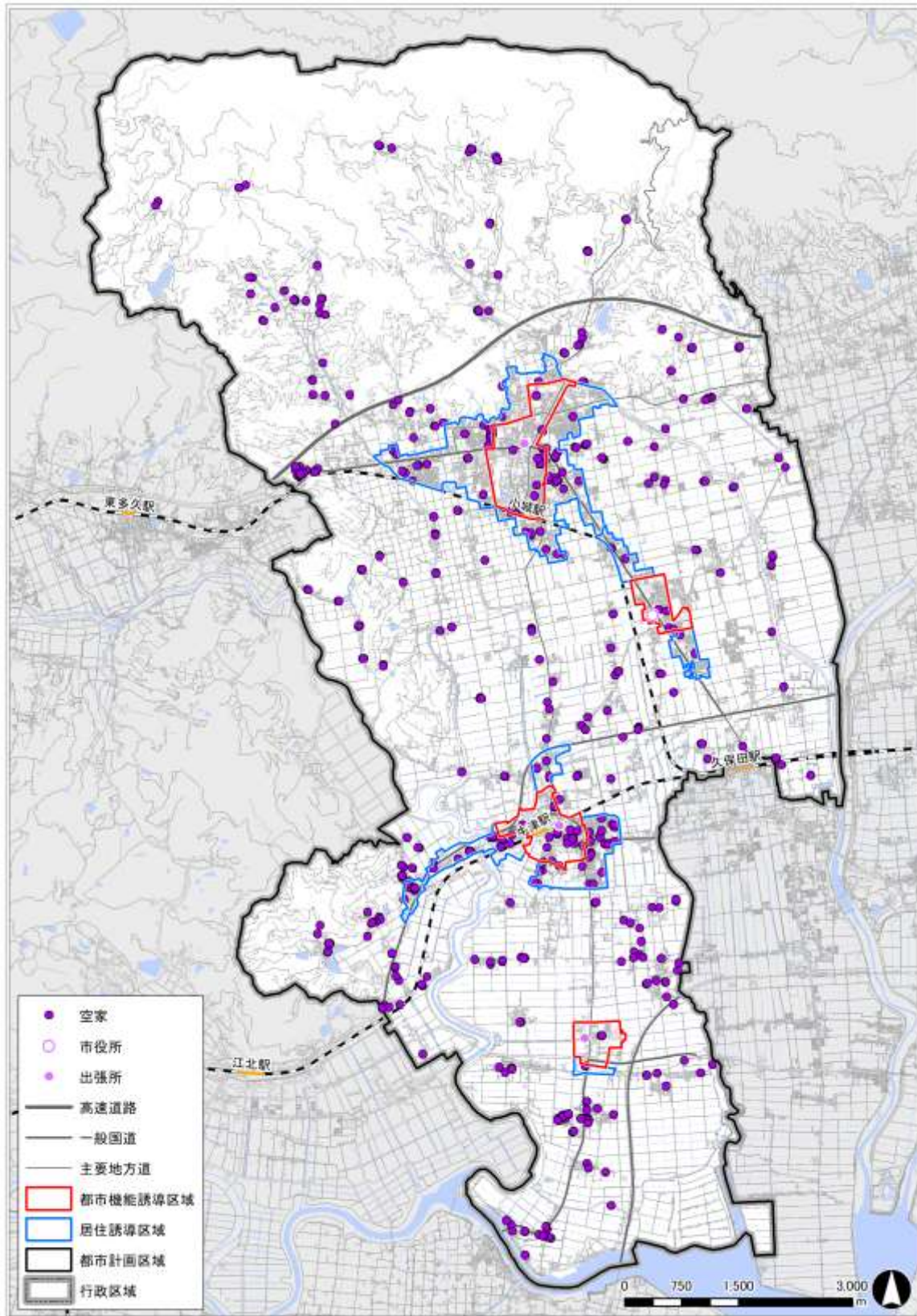


図 空家分布

出典 令和5年度都市計画基礎調査

5-5 法規制

居住誘導区域を除いて九州自動車道以南はほぼ全域に農業振興地域や地域森林計画対象民有林が指定され、山間部では国有林や保安林が広く指定されています。また、芦刈地域の居住誘導区域内には農業振興地域が指定されています。なお、市域全域に建築協定が締結されています。

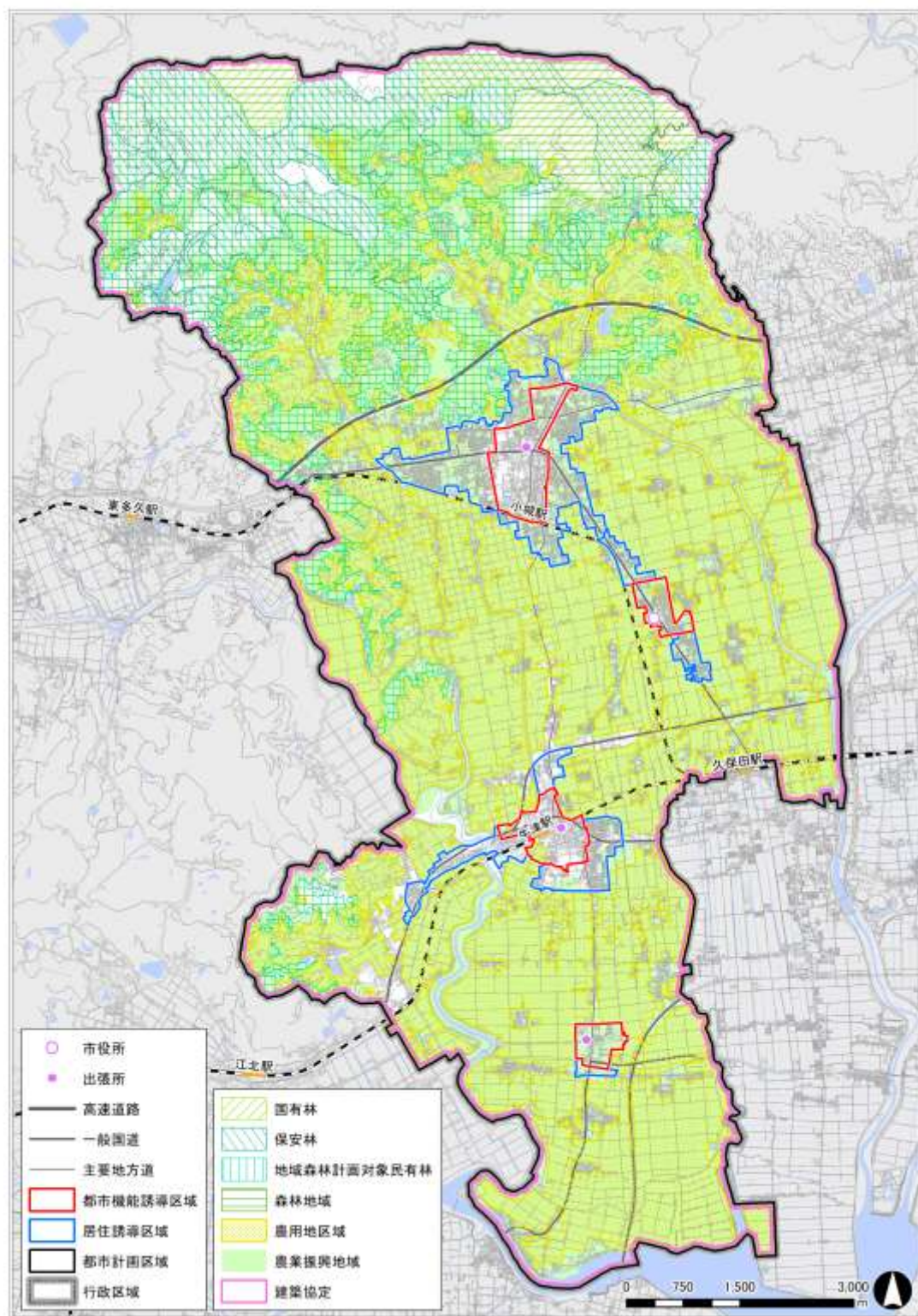


図 法規制状況

出典 令和5年度都市計画基礎調査

6 都市施設

6-1 都市計画道路

本市の都市計画道路は 20 路線、総延長 28,632m が都市計画決定されており、約 68.2% (19,526m) が整備済みとなっています。

表 都市計画道路一覧

決定 年月日	都市施設名称	進捗状況				事業期間	備考
		計画 m、ha	事業中 m、ha	事業費 百万円	整備済 m、ha		
H28. 3. 1	小城三日月線	7,510	-	-	0	-	当初 L=7,510 幅員：20.5
S32. 7. 15	小城駅千葉公園線 (小城牛津線)	1,780	2工区 168	約976 /約976	1,362	H21~H28	当初 L=1,781 番号・延長 表示変更
S62. 12. 2			3工区 250	約424 /約1,625		H26~H34	幅員の一部 W=16→17 車線の数
H10. 8. 12	小城駅千葉公園線 (佐賀外環状線)						
H22. 9. 17	唐津小城線 (国道203号)	1,600	-	-	1,600	-	当初 L=1,599 番号・延長 表示変更
S32. 7. 15							交差点
S62. 12. 2							
H10. 8. 12	本町西小路線	1,110	198	-	912	H8~H19	当初 L=600
R2. 12. 1		910	-	-	910		一部廃止
S32. 7. 15	畑田中町線 (小城富士線)	1,590	-	-	1,590	-	当初 L=1,176
S62. 12. 2							番号変更 L=1,670
H16. 12. 28							番号・名称・幅員 延長変更 W=8→18
S62. 12. 2	西小路畑田線	870	-	-	870	-	当初 L=870
S62. 12. 2	小城公園本告線	600	600	-	0	-	当初 L=600
R2. 12. 1		140	-	-			一部廃止
S32. 7. 15	国道34号線 (国道34号)	5,600	-	-	5,600	-	当初 L=3,230
S51. 12. 28							L=5,600 W=30
H22. 10. 1							名称変更
H22. 10. 1	牛津駅前線	142	-	-	142	-	当初 L=142
H22. 10. 1	立町西町線	470	-	-	470	H5~H12	当初 L=470
S32. 7. 15	天満町線 (牛津芦刈線)	715	-	-	715	-	当初 L=740 W=12
S60. 1. 18							L=850 幅員の一部 W=12→16
H5. 3. 10	天満町線 (川上牛津線)	135	-	-	135	-	当初 L=135
H14. 4. 8							路線変更 車線の数
H22. 10. 1							名称変更
S32. 7. 15	十町啜江津線 (国道207号)	2,100	-	-	2,100	-	当初 L=2,100 W=12
S51. 12. 28							交差点
H5. 3. 10							名称変更
H22. 10. 1							
S32. 7. 15	新宿友田線 (川上牛津線)	850	-	-	850	-	当初 L=970 W=12
H5. 3. 10							幅員の一部 W=12→16
H14. 4. 8							路線変更 車線の数 L=850
H22. 10. 1							幅員の一部 W=12→12~17
							名称変更
S32. 7. 15	小城牛津線 (小城牛津線)	720	-	-	720	-	当初 L=720
H14. 4. 8							路線変更 車線の数 L=1,130
							幅員の一部 W=12→12~15
H22. 10. 1	小城牛津線 (牛津停車場線)	410	-	-	410	-	名称変更
H22. 10. 1	友田天満町線	680	-	-	680	-	当初 L=680
H22. 10. 1	牛津駅友田線	490	240	-	250	-	当初 L=490
H22. 10. 1	友田線	210	-	-	210	-	当初 L=210

出典 令和5年度都市計画基礎調査

6-2 都市計画公園

本市の都市計画公園は 1 箇所が都市計画決定されています。

表 都市計画公園

決定 年月日	都市施設名称	進捗状況				事業期間	備考
		計画	事業中	事業費	整備済		
		m、ha	m、ha	百万円	m、ha		
S52. 9. 7	小城公園	-	-	-	-	-	

出典 令和 3 年度都市計画基礎調査

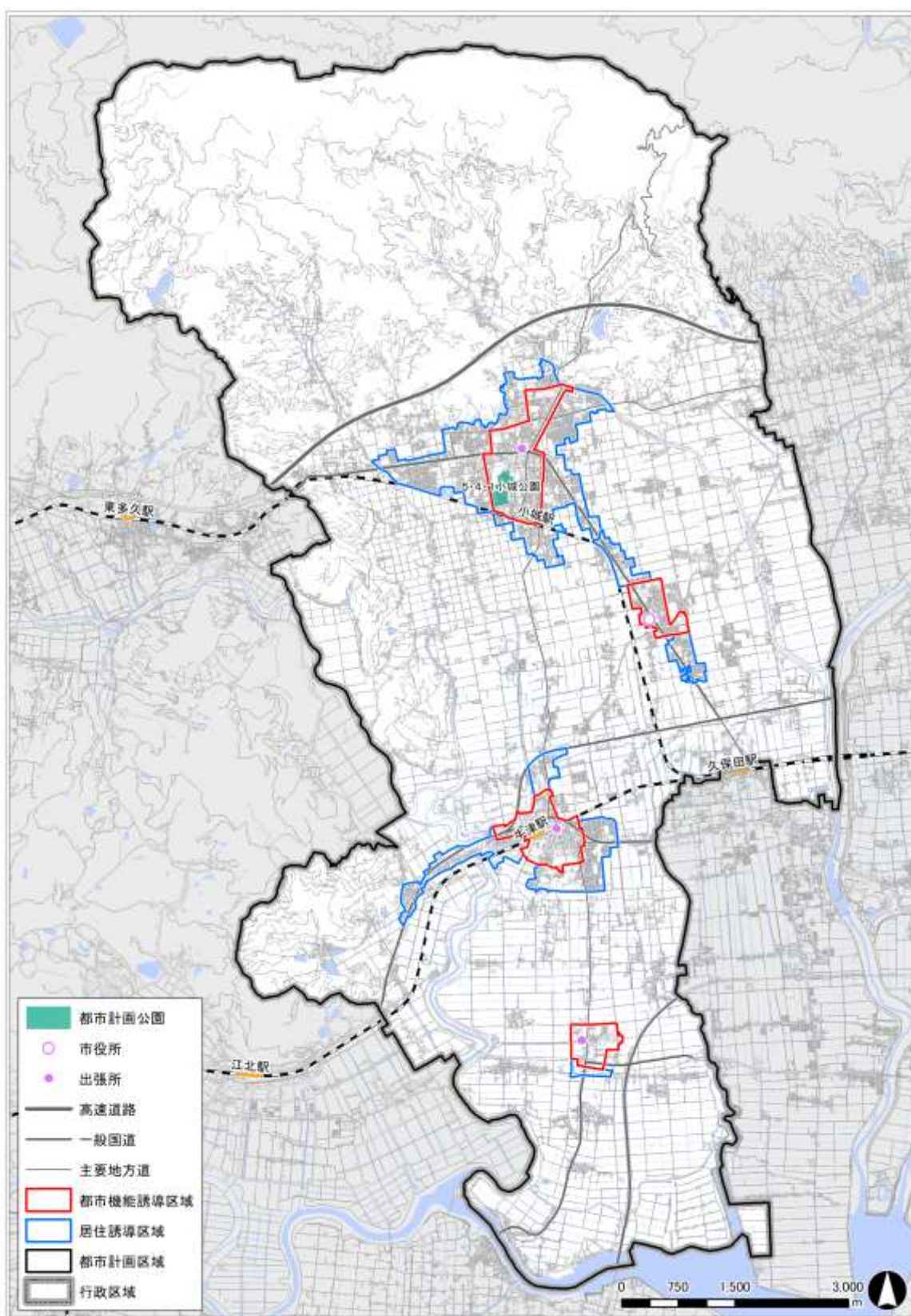


図 都市計画公園

出典 令和3年度都市計画基礎調査

6-3 その他都市施設

本市には下水道、ごみ焼却場が都市計画決定されており、下水路は全て整備済みとなっています。また、清水浄化センター以外の浄化センターは事業中となっています。

表 その他都市施設

決定 年月日	分類	都市施設名称	進捗状況				事業期間	備考
			計画 m、ha	事業中 m、ha	事業費 百万円	整備済 m、ha		
S38. 3. 6	下水道	中川	1,540	-	-	1,540	-	
S38. 11. 20	下水道	西小路	1,391	-	-	1,391	-	
S60. 12. 12	下水道	若江	1,080	-	-	1,027	S60～H3	H9年度より公共下水道へ移管
H24. 1. 30	下水道	清水浄化センター	-	-	605	-	H7～H10	整備済（1999/2/1供用開始）
H24. 1. 30	下水道	三日月浄化センター	-	-	14,226	-	H13～H42	事業中（2007/3/30供用開始）
H24. 1. 30	下水道	牛津浄化センター	-	-	14,857	-	H10～H42	事業中（2003/3/28供用開始）
H24. 1. 30	下水道	芦刈浄化センター	-	-	5,629	-	H16～H42	事業中（2010/3/31供用開始）
S54. 11. 1	ごみ 焼却場	天山地区共同塵芥処理場	-	-	-	-	-	当初 0.7ha 能力50t
H22. 10. 1								名称変更

出典 令和3年度都市計画基礎調査

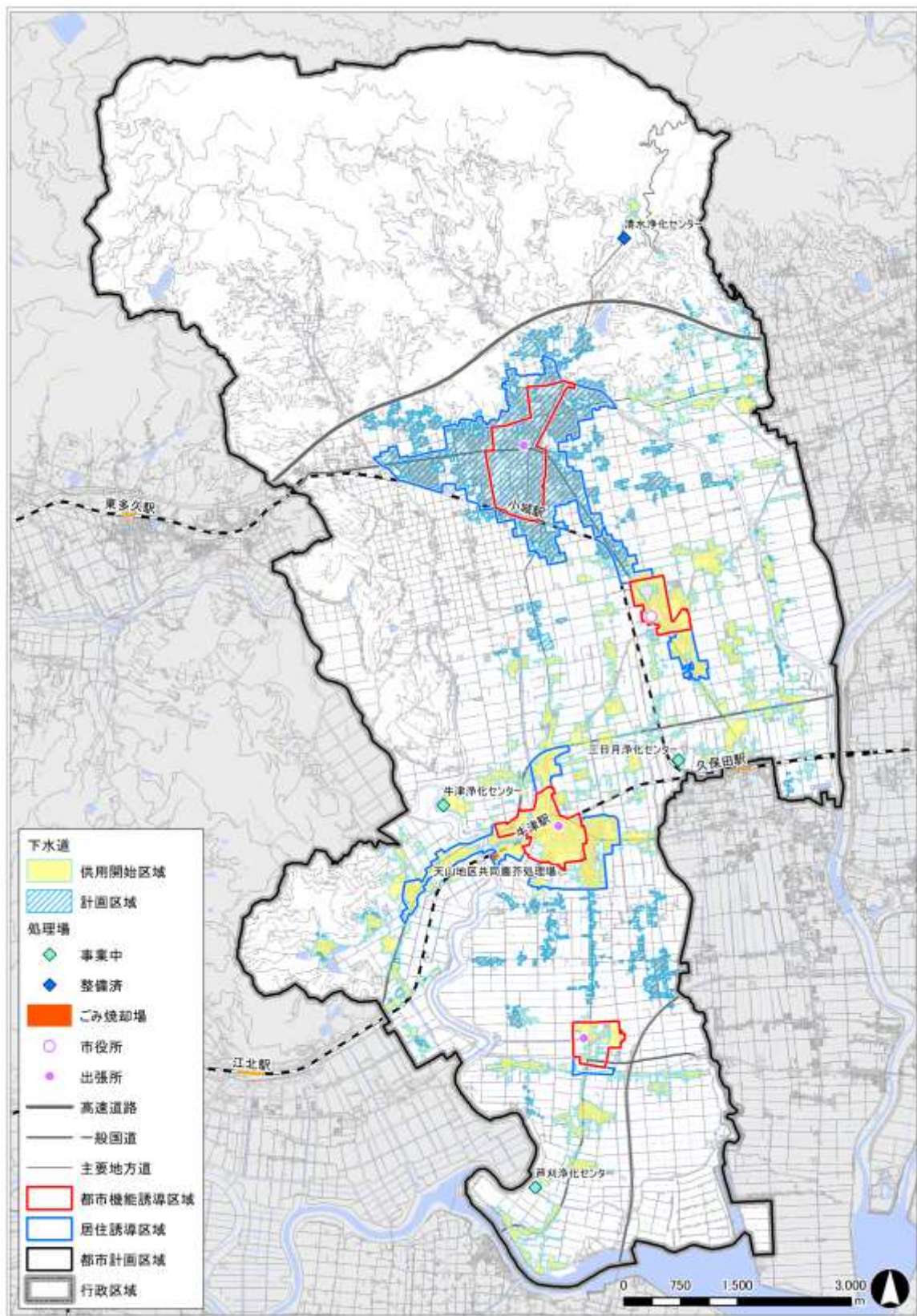


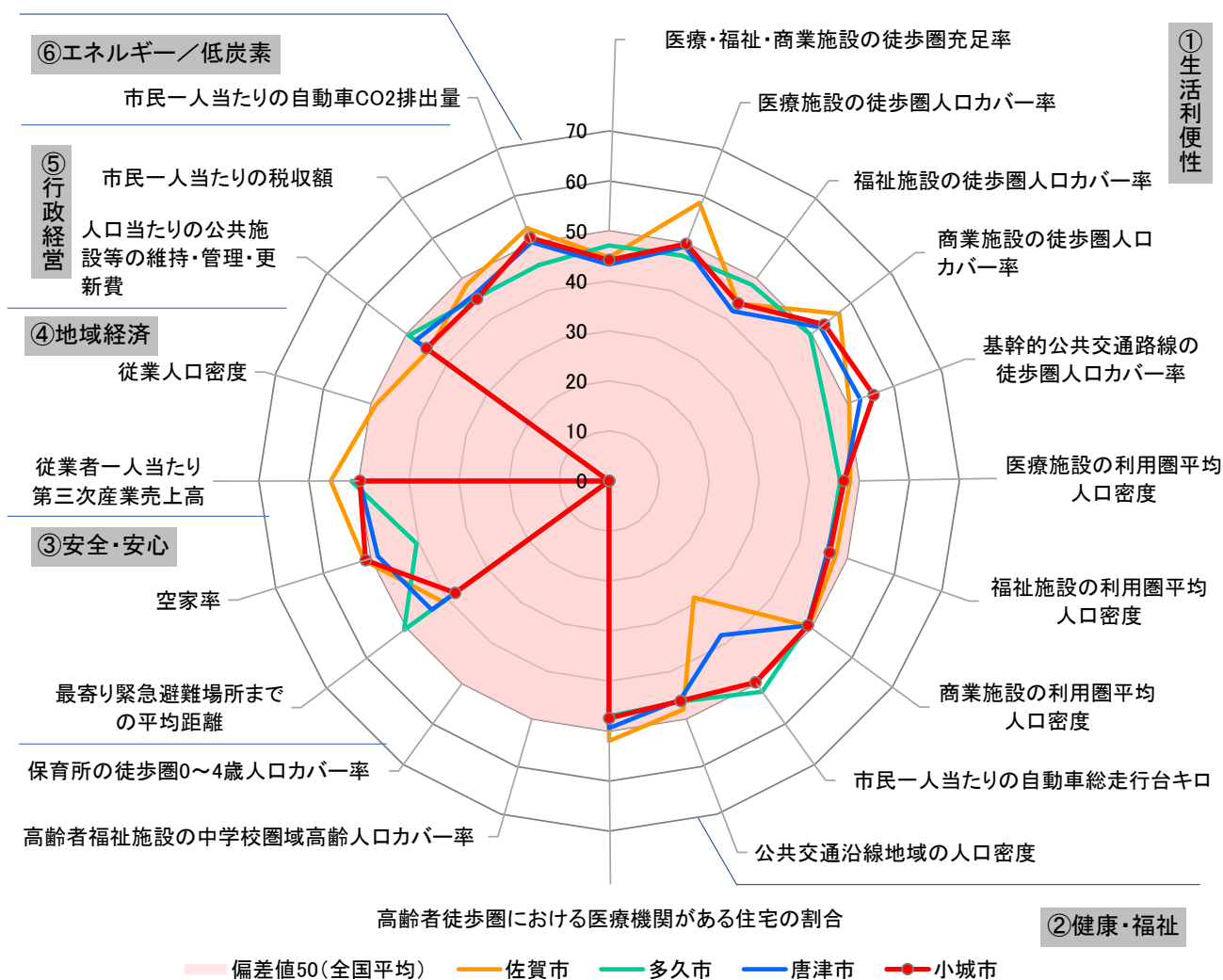
図 その他都市施設

出典 令和5年度都市計画基礎調査

7 都市機能施設

7-1 都市構造特性

都市構造特性について近隣自治体と比較した場合、「基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率」や「空家率」の偏差値が高く、それ以外の項目については概ね類型平均を下回る結果となっており、特に「最寄り緊急避難場所までの平均距離」の偏差値が際立って低くなっています。



※偏差値が高くなるほど低い評価となる項目(「市民一人当たりの市民一人当たりの自動車総走行台キロ」、「最寄り緊急避難場所までの平均距離」、「空家率」、「市民一人当たりの自動車CO2排出量」)は100から引いた値を偏差値として表示している。

図 偏差値レーダーチャート

出典 国土交通省 R6 年度都市モニタリングシート・レーダーチャート自動作成ツール

7-2 都市機能立地状況

都市機能施設の種別や対象施設は以下の通りです。

種別	対象施設	出典
医療施設	・病院 ・診療所	小城市 HP、小城市オープンデータカタログ、佐賀県 HP
行政施設	・市役所 ・出張所 ・公民館 ・文化・会議・研修施設	小城市 HP
高齢者福祉施設	・高齢者福祉施設【通所型】 ・高齢者福祉施設【入所型】 ・高齢者福祉施設【訪問型】 ・保健福祉センター	小城市 HP
子育て支援施設	・児童館・児童センター ・保育所 ・認定こども園	小城市 HP
教育施設	・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・高等学校・大学	小城市 HP、西九州大学 HP
商業施設	・スーパー ・ドラッグストア ・コンビニエンスストア	MapFan
金融機能	・銀行 ・信用金庫 ・労働金庫 ・JA バンク ・郵便局	MapFan

7-2-1 医療施設

医療施設は小城地域の誘導区域に集中して立地しているほか、各地域の誘導区域やその周辺に立地しています。令和2年(2020年)の徒歩圏人口カバー率は居住誘導区域で74.8%、都市機能誘導区域で86.1%となっていますが、誘導区域外では21.6%と低く、都市計画区域全体では47.0%となっています。将来的に都市機能誘導区域の徒歩圏人口密度は増加することが予測されていますが、居住誘導区域や都市計画区域全体では減少することが予測されています。

表 医療施設の徒歩圏人口、圏域面積、人口密度、カバー率

区域区分	人口		徒歩圏人口		圏域面積 (ha)	徒歩圏人口密度(人/ha)		カバー率(%)	
	2020	2040	2020	2040		2020	2040	2020	2040
都市計画区域	43,952	37,894	20,678	19,787	1,370.4	15.1	14.4	47.0%	52.2%
居住誘導区域	21,025	19,319	15,733	14,298	484.9	32.4	29.5	74.8%	74.0%
都市機能誘導区域	7,007	7,591	6,032	6,476	214.4	28.1	30.2	86.1%	85.3%
誘導区域外	22,927	18,575	4,945	5,488	885.5	5.6	6.2	21.6%	29.5%
合計	43,952	37,894	20,678	19,787	1,370.4	15.1	14.4	47.0%	52.2%

出典 小城市 HP、小城市オープンデータカタログ、佐賀県 HP、
国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

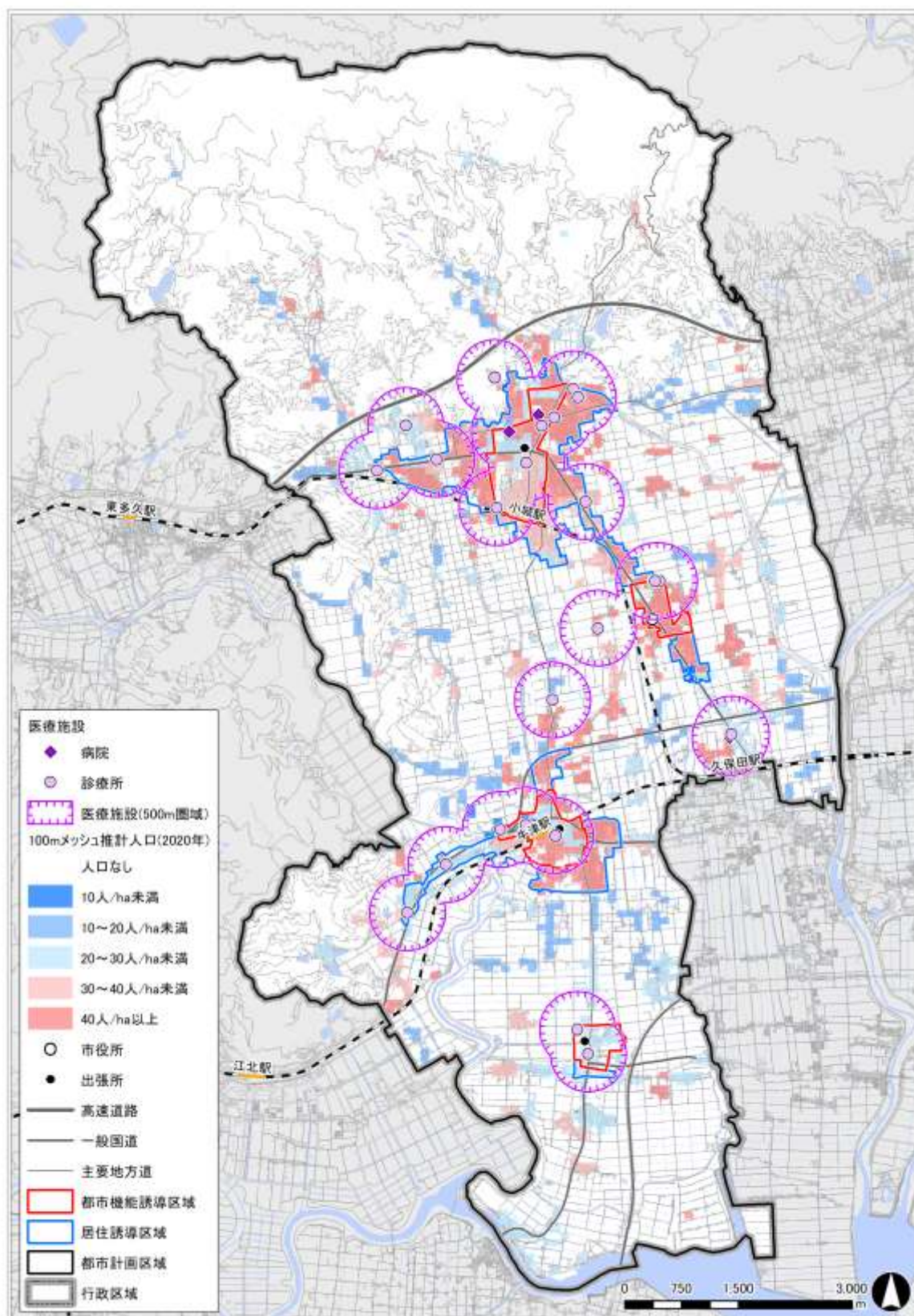


図 医療施設の徒歩圏と 100m メッシュ別総人口の重ね図

出典 小城市 HP、小城市オープンデータカタログ、佐賀県 HP、
国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

7-2-2 福祉施設

(1) 行政施設

行政施設は各誘導区域に立地しているほか、市域の広範囲に立地しています。令和2年(2020年)の徒歩圏人口カバー率は居住誘導区域で54.5%、都市機能誘導区域で93.7%となっていますが、誘導区域外では14.0%と低く、都市計画区域全体では33.4%となっています。将来的に都市機能誘導区域の徒歩圏人口密度は増加することが予測されていますが、その他の地域では同程度となることが予測されています。

表 行政施設の徒歩圏人口、圏域面積、人口密度、カバー率

区域区分	人口		徒歩圏人口		圏域面積 (ha)	徒歩圏人口密度(人/ha)		カバー率(%)	
	2020	2040	2020	2040		2020	2040	2020	2040
都市計画区域	43,952	37,894	14,673	14,094	950.6	15.4	14.8	33.4%	37.2%
居住誘導区域	21,025	19,319	11,468	11,183	340.6	33.7	32.8	54.5%	57.9%
都市機能誘導区域	7,007	7,591	6,568	7,087	219.4	29.9	32.3	93.7%	93.4%
誘導区域外	22,927	18,575	3,205	2,911	610.0	5.3	4.8	14.0%	15.7%
合計	43,952	37,894	14,673	14,094	950.6	15.4	14.8	33.4%	37.2%

出典 小城市 HP、国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

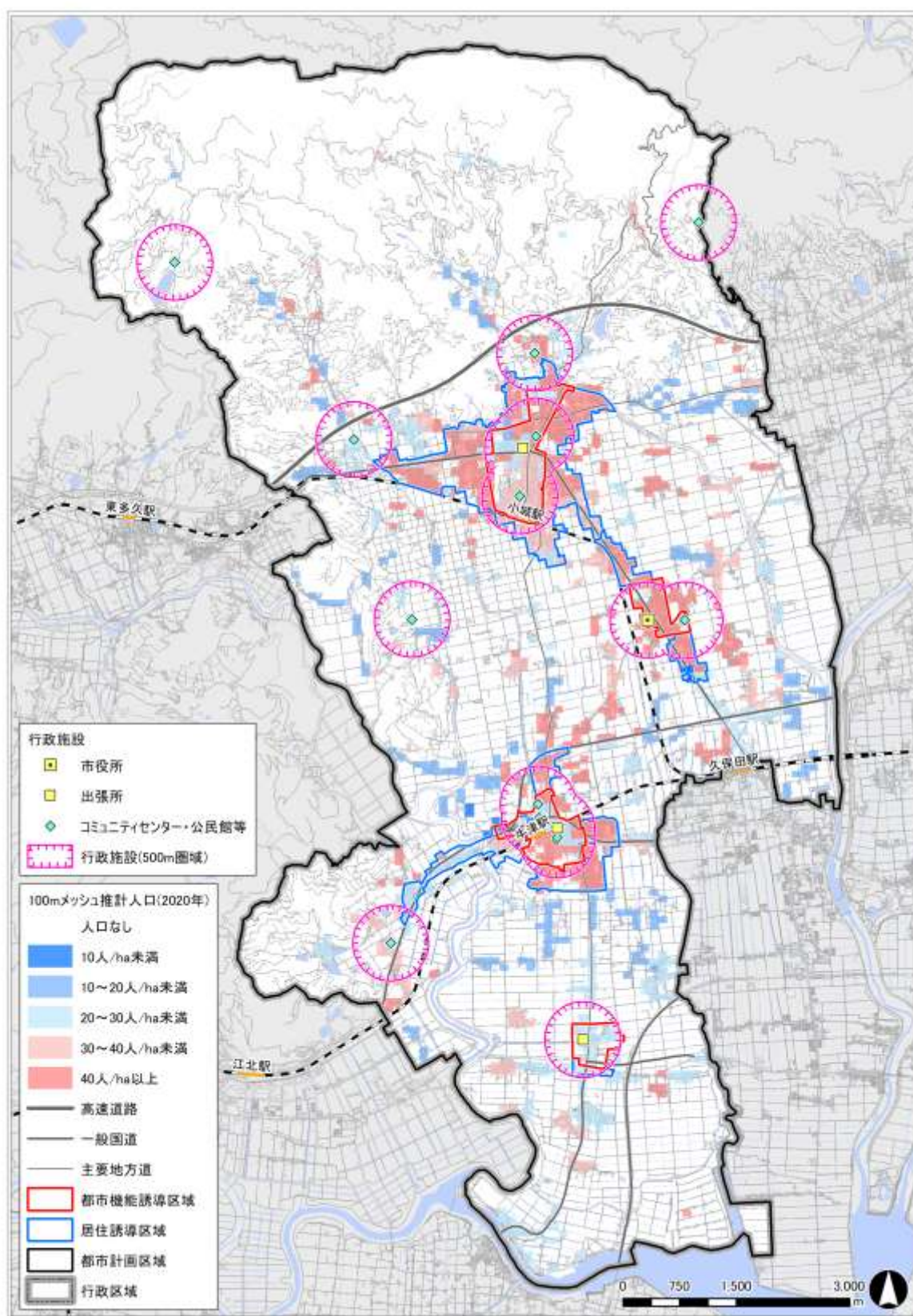


図 行政施設の徒歩圏と100mメッシュ別総人口の重ね図

出典 小城市 HP、国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

(2) 高齢者福祉施設

高齢者福祉施設は小城地域の誘導区域に集中して立地しているほか、市域の広範囲に立地しています。令和2年(2020年)の徒歩圏人口カバー率は居住誘導区域で78.1%、都市機能誘導区域で93.6%となっていますが、誘導区域外では30.9%、都市計画区域全体では53.5%となっています。将来的に都市機能誘導区域の徒歩圏人口密度は増加することが予測されていますが、その他の地域では減少することが予測されています。

表 高齢者福祉施設の徒歩圏人口、圏域面積、人口密度、カバー率

区域区分	人口		徒歩圏人口		圏域面積 (ha)	徒歩圏人口密度(人/ha)		カバー率(%)	
	2020	2040	2020	2040		2020	2040	2020	2040
都市計画区域	43,952	37,894	23,522	20,943	1,931.1	12.2	10.8	53.5%	55.3%
居住誘導区域	21,025	19,319	16,428	15,082	462.8	35.5	32.6	78.1%	78.1%
都市機能誘導区域	7,007	7,591	6,557	7,128	210.8	31.1	33.8	93.6%	93.9%
誘導区域外	22,927	18,575	7,093	5,862	1,468.2	4.8	4.0	30.9%	31.6%
合計	43,952	37,894	23,522	20,943	1,931.1	12.2	10.8	53.5%	55.3%

出典 小城市 HP、国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

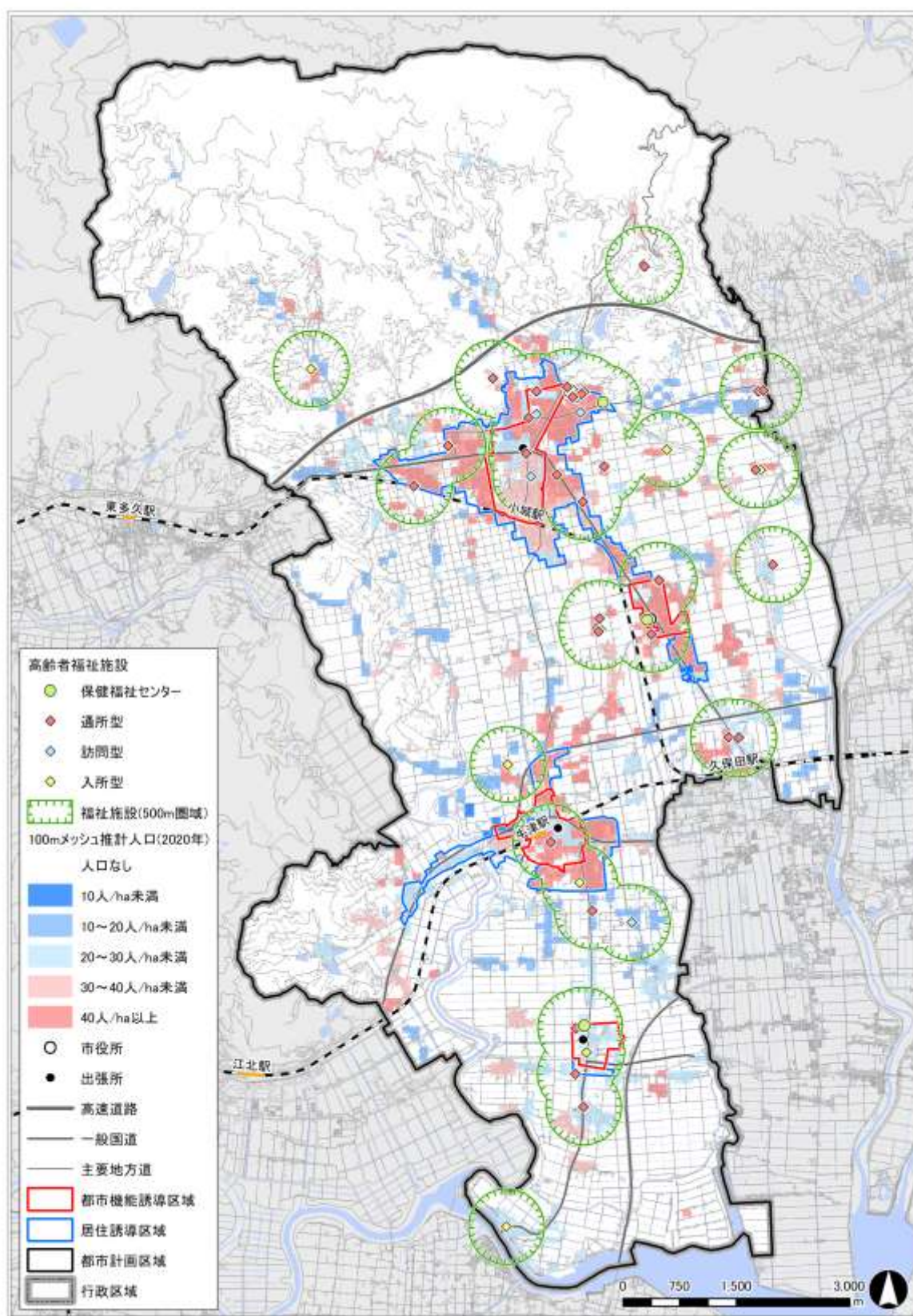


図 高齢者福祉施設の徒歩圏と100mメッシュ別総人口の重ね図

出典 小城市 HP、国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

(3) 子育て支援施設

子育て支援施設は山間部を除く市域の広範囲に立地しています。令和 2 年(2020 年)の徒歩圏人口カバー率は居住誘導区域で 56.4%、都市機能誘導区域で 73.9%となっていますが、誘導区域外では 22.5%、都市計画区域全体では 38.7%となっています。将来的に都市機能誘導区域の徒歩圏人口密度は増加することが予測されていますが、その他の地域では同程度となることが予測されています。

表 子育て支援施設の徒歩圏人口、圏域面積、人口密度、カバー率

区域区分	人口		徒歩圏人口		圏域面積 (ha)	徒歩圏人口密度(人/ha)		カバー率(%)	
	2020	2040	2020	2040		2020	2040	2020	2040
都市計画区域	43,952	37,894	16,999	16,367	1,216.9	14.0	13.4	38.7%	43.2%
居住誘導区域	21,025	19,319	11,851	11,584	376.3	31.5	30.8	56.4%	60.0%
都市機能誘導区域	7,007	7,591	5,177	5,658	178.2	29.0	31.7	73.9%	74.5%
誘導区域外	22,927	18,575	5,148	4,783	840.6	6.1	5.7	22.5%	25.7%
合計	43,952	37,894	16,999	16,367	1,216.9	14.0	13.4	38.7%	43.2%

出典 小城市 HP、国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

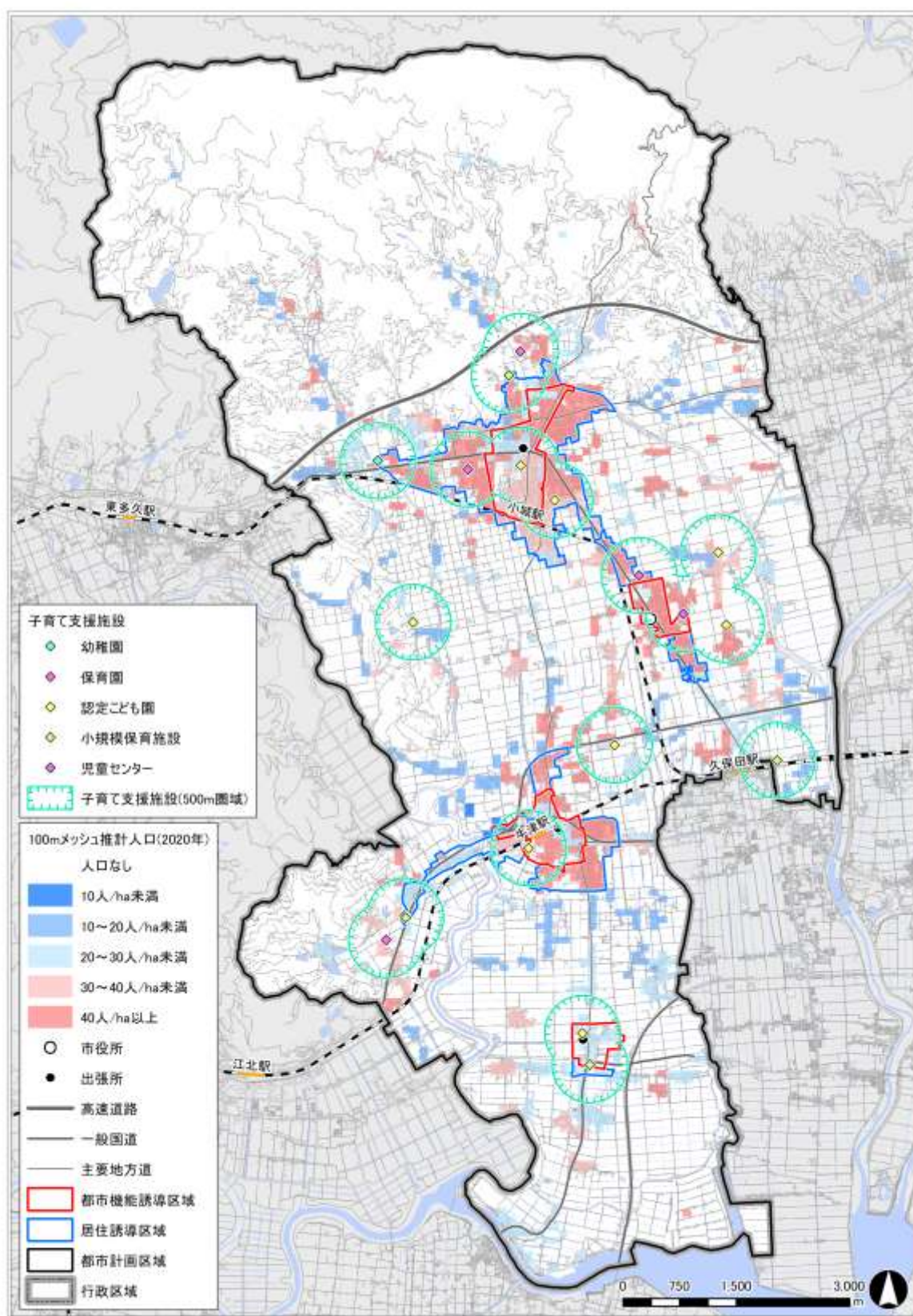


図 子育て支援施設の徒歩圏と100mメッシュ別総人口の重ね図

出典 小城市 HP、国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

(4) 教育施設

教育施設は山間部を除く市域の広範囲に立地しています。令和 2 年(2020 年)の徒歩圏人口カバー率は居住誘導区域で 43.0%、都市機能誘導区域で 55.2%となっていますが、誘導区域外では 14.3%、都市計画区域全体では 28.0%となっています。将来的に居住誘導区域と都市機能誘導区域の徒歩圏人口密度は減少することが予測されており、その他の地域では同程度となることが予測されています。

表 教育施設の徒歩圏人口、圏域面積、人口密度、カバー率

区域区分	人口		徒歩圏人口		圏域面積 (ha)	徒歩圏人口密度(人/ha)		カバー率(%)	
	2020	2040	2020	2040		2020	2040	2020	2040
都市計画区域	43,952	37,894	12,319	10,987	799.0	15.4	13.8	28.0%	29.0%
居住誘導区域	21,025	19,319	9,033	7,337	280.4	32.2	26.2	43.0%	38.0%
都市機能誘導区域	7,007	7,591	3,865	3,688	143.5	26.9	25.7	55.2%	48.6%
誘導区域外	22,927	18,575	3,286	3,650	518.6	6.3	7.0	14.3%	19.6%
合計	43,952	37,894	12,319	10,987	799.0	15.4	13.8	28.0%	29.0%

出典 小城市 HP、西九州大学 HP、国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

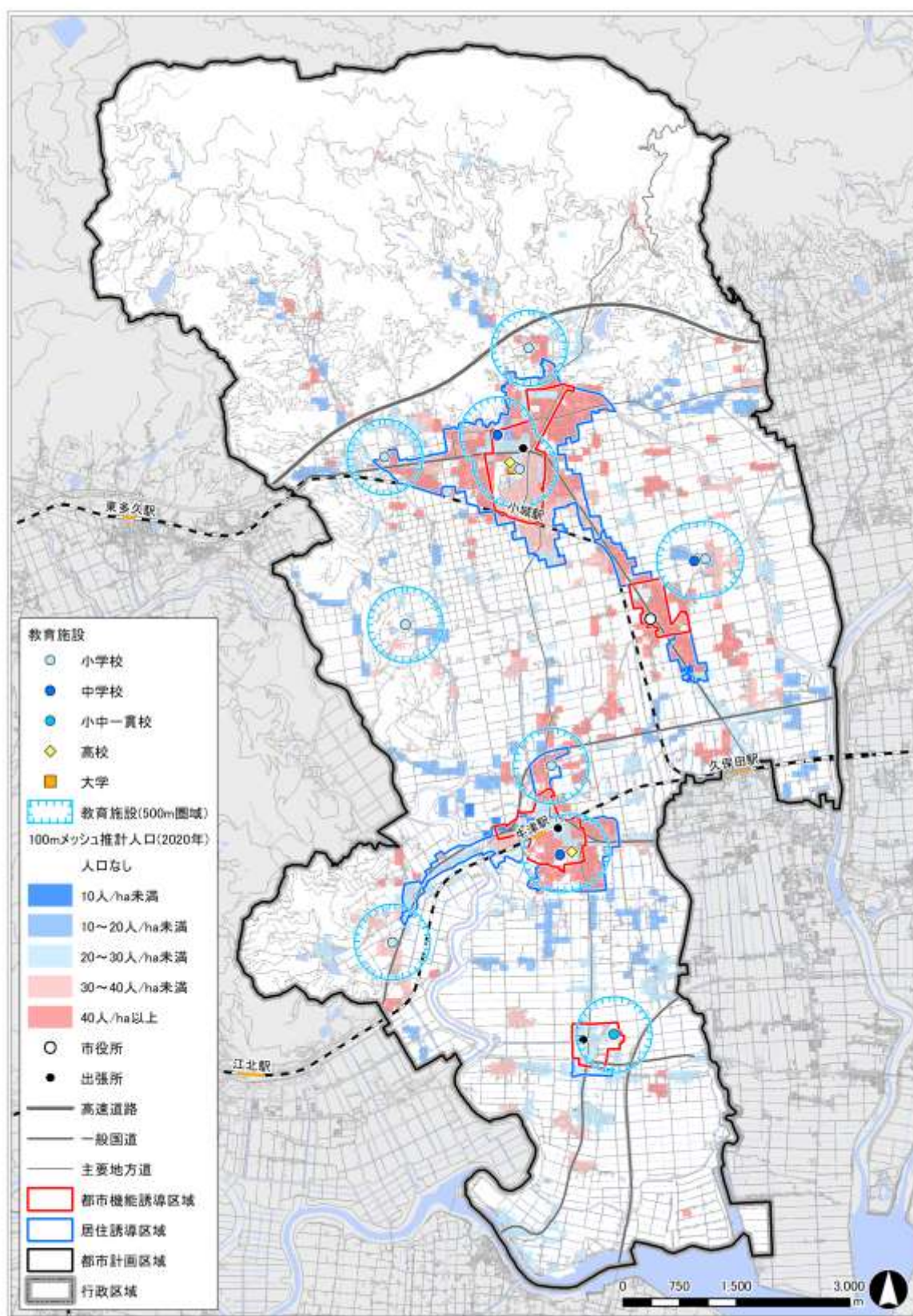


図 教育施設の徒歩圏と 100m メッシュ別総人口の重ね図

出典 小城市 HP、西九州大学 HP、国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

(5) 商業施設

商業施設は各地域の誘導区域や国道 203 号沿道に集積して立地しています。令和 2 年(2020 年)の徒歩圏人口カバー率は居住誘導区域で 81.2%、都市機能誘導区域で 87.4%となっていますが、誘導区域外では 29.4%と低く、都市計画区域全体では 54.2%となっています。将来的に都市機能誘導区域の徒歩圏人口密度は増加することが予測されていますが、その他の地域では同程度となることが予測されています。

表 商業施設の徒歩圏人口、圏域面積、人口密度、カバー率

区域区分	人口		徒歩圏人口		圏域面積 (ha)	徒歩圏人口密度(人/ha)		カバー率(%)	
	2020	2040	2020	2040		2020	2040	2020	2040
都市計画区域	43,952	37,894	23,832	24,256	1,632.9	14.6	14.9	54.2%	64.0%
居住誘導区域	21,025	19,319	17,082	16,271	502.4	34.0	32.4	81.2%	84.2%
都市機能誘導区域	7,007	7,591	6,127	6,697	200.8	30.5	33.3	87.4%	88.2%
誘導区域外	22,927	18,575	6,750	7,986	1,130.5	6.0	7.1	29.4%	43.0%
合計	43,952	37,894	23,832	24,256	1,632.9	14.6	14.9	54.2%	64.0%

出典 MapFan、国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

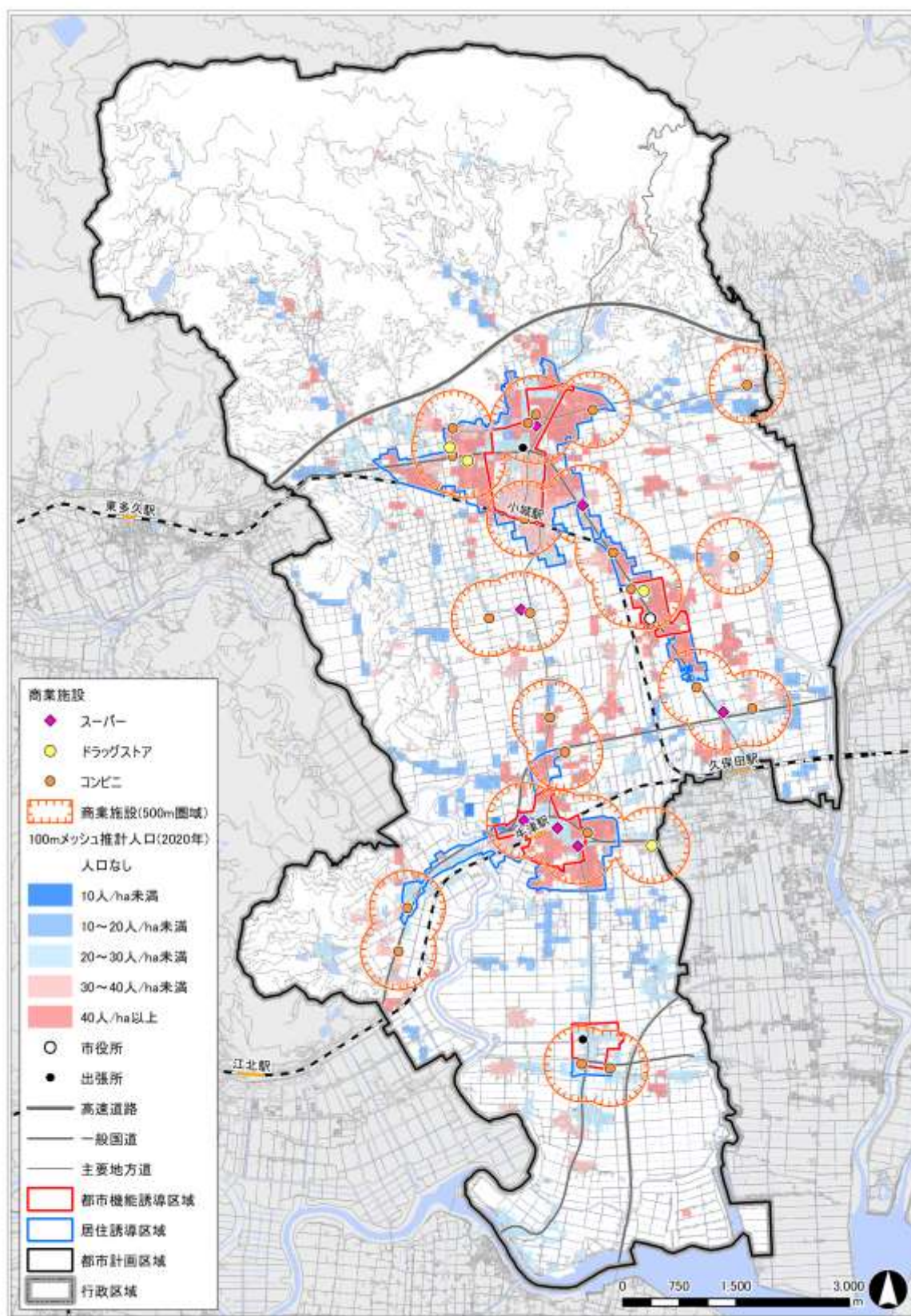


図 商業施設の徒歩圏と100mメッシュ別総人口の重ね図

出典 MapFan、国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

(6) 金融機能

金融施設は山間部を除く市域の広範囲に立地しています。令和 2 年(2020 年)の徒歩圏人口カバー率は居住誘導区域で 71.0%、都市機能誘導区域で 87.4%となっていますが、誘導区域外では 14.1%と低く、都市計画区域全体では 41.3%となっています。将来的に都市機能誘導区域の徒歩圏人口密度は増加することが予測されていますが、その他の地域では減少することが予測されています。

表 金融機能の徒歩圏人口、圏域面積、人口密度、カバー率

区域区分	人口		徒歩圏人口		圏域面積 (ha)	徒歩圏人口密度(人/ha)		カバー率(%)	
	2020	2040	2020	2040		2020	2040	2020	2040
都市計画区域	43,952	37,894	18,164	16,108	1,051.6	17.3	15.3	41.3%	42.5%
居住誘導区域	21,025	19,319	14,934	13,566	441.7	33.8	30.7	71.0%	70.2%
都市機能誘導区域	7,007	7,591	6,126	6,525	203.7	30.1	32.0	87.4%	86.0%
誘導区域外	22,927	18,575	3,230	2,542	610.0	5.3	4.2	14.1%	13.7%
合計	43,952	37,894	18,164	16,108	1,051.6	17.3	15.3	41.3%	42.5%

出典 MapFan、国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

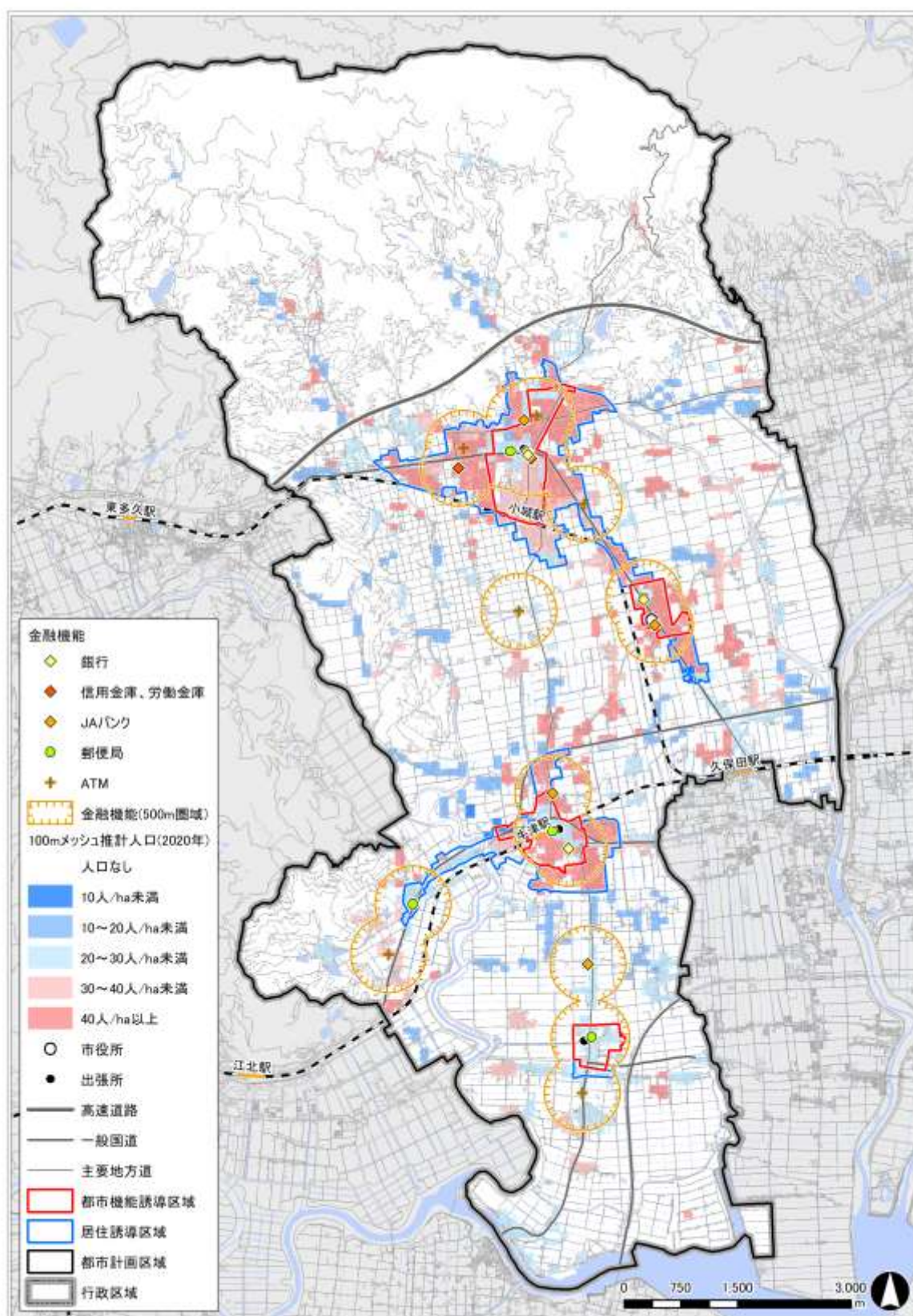


図 金融機能の徒歩圏と100mメッシュ別総人口の重ね図

出典 MapFan、国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

7-2-3 都市機能施設の拠点性

前項までに示した都市機能施設について、100m メッシュ毎に各種施設の徒歩圏域(800m)の重複数を計算し、拠点性の把握を行います。重なる施設の圏域数が多いほど拠点性が高いといえ、本市においては、都市機能誘導区域で拠点性が高い結果となっています。また、都市機能誘導区域以外では牛津駅西側の国道 207 号沿道で一部拠点性の高いエリアがみられます。

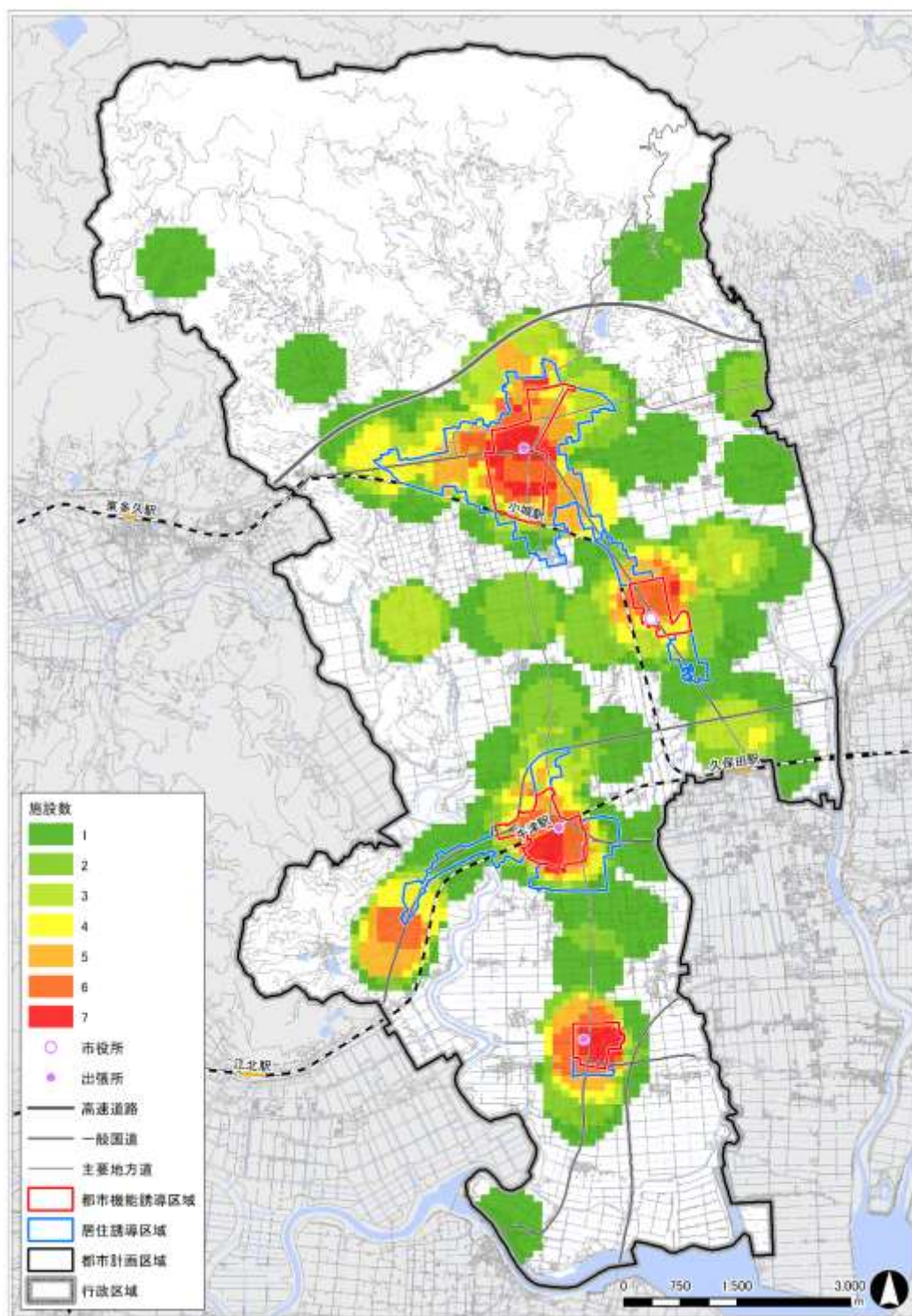


図 施設の圏域重複数

出典 小城市 HP、小城市オープンデータカタログ、佐賀県 HP、西九州大学 HP、MapFan

8 公共交通

8-1 バス運行本数

本市のバス路線は国道 207 号では 1 日当たり 50 本以上運行しており、国道 203 号、県道 48 号で 1 日当たり 30 本以上運行しており、本市の基幹的な路線となっています。

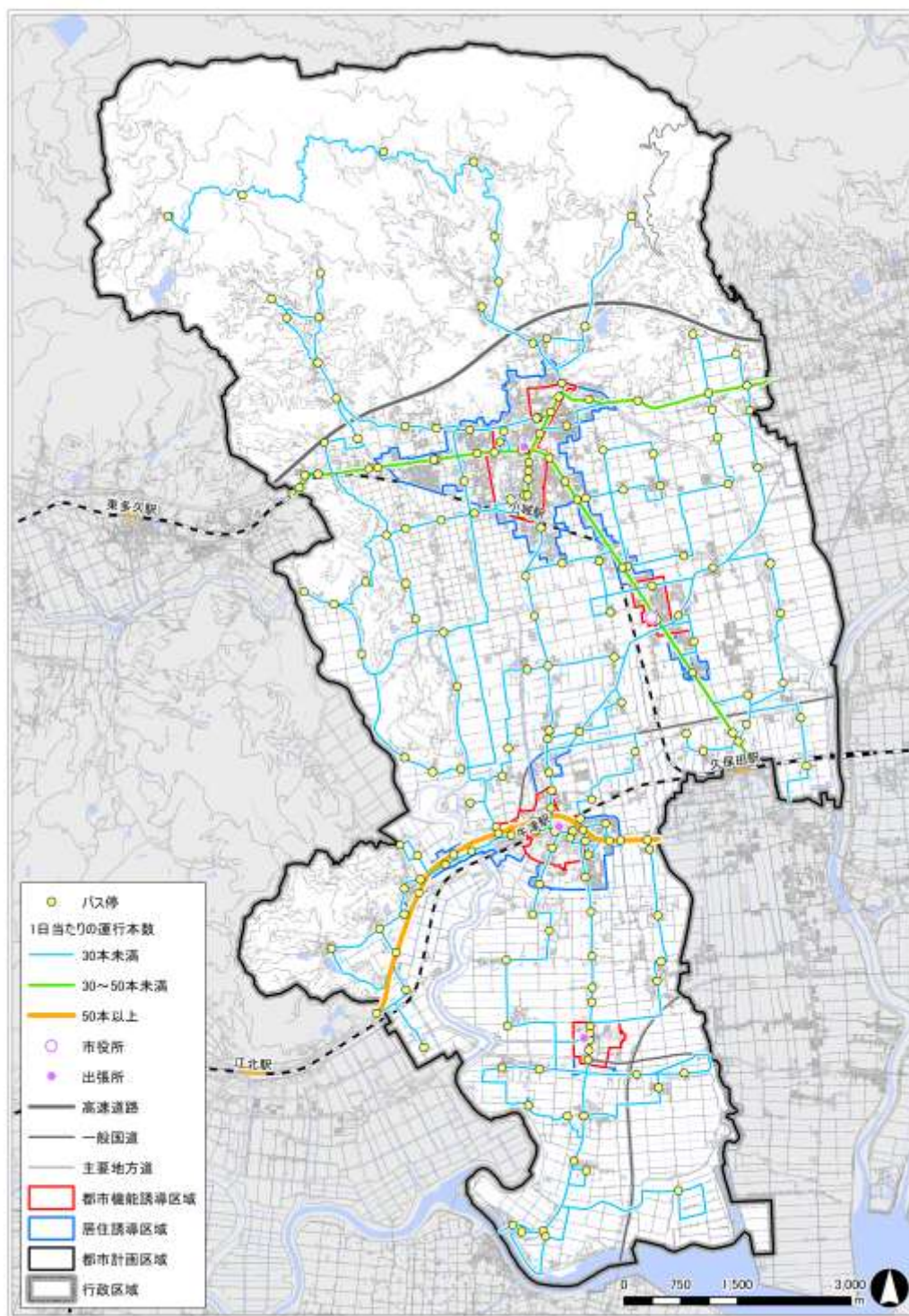


図 バス運行本数

出典 令和5年度都市計画基礎調査

8-2 徒歩圏カバー状況

令和2年(2020年)のバス徒歩圏カバー率は、居住誘導区域で92.6%、都市機能誘導区域で98.2%とほぼ全域をカバーしていますが誘導区域外では71.2%となっており、都市計画区域全体では84.2%となっています。

鉄道の徒歩圏カバー率は、居住誘導区域で32.2%、都市機能誘導区域で45.5%となっていますが、誘導区域外では2.9%と低く、都市計画区域全体では17.0%となっています。

将来的に都市機能誘導区域の徒歩圏人口密度は、バス圏では増加することが予測されていますが、それ以外は減少することが予測されています。

表 バスの徒歩圏人口、圏域面積、人口密度、カバー率

区域区分	人口		徒歩圏人口		圏域面積 (ha)	徒歩圏人口密度(人/ha)		カバー率(%)	
	2020	2040	2020	2040		2020	2040	2020	2040
都市計画区域	43,952	37,894	37,003	32,935	3,649.9	10.1	9.0	84.2%	86.9%
居住誘導区域	21,025	19,319	19,477	18,206	578.5	33.7	31.5	92.6%	94.2%
都市機能誘導区域	7,007	7,591	6,879	7,422	224.3	30.7	33.1	98.2%	97.8%
誘導区域外	24,633	18,417	17,526	14,729	3,071.4	5.7	4.8	71.2%	80.0%
合計	43,952	37,894	37,003	32,935	3,649.9	10.1	9.0	84.2%	86.9%

表 鉄道の徒歩圏人口、圏域面積、人口密度、カバー率

区域区分	人口		徒歩圏人口		圏域面積 (ha)	徒歩圏人口密度(人/ha)		カバー率(%)	
	2020	2040	2020	2040		2020	2040	2020	2040
都市計画区域	43,952	37,894	7,476	6,666	404.8	18.5	16.5	17.0%	17.6%
居住誘導区域	21,025	19,319	6,772	6,092	232.6	29.1	26.2	32.2%	31.5%
都市機能誘導区域	7,007	7,591	3,190	2,713	116.1	27.5	23.4	45.5%	35.7%
誘導区域外	24,633	18,417	704	573	172.1	4.1	3.3	2.9%	3.1%
合計	43,952	37,894	7,476	6,666	404.8	18.5	16.5	17.0%	17.6%

出典 令和5年度都市計画基礎調査、国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

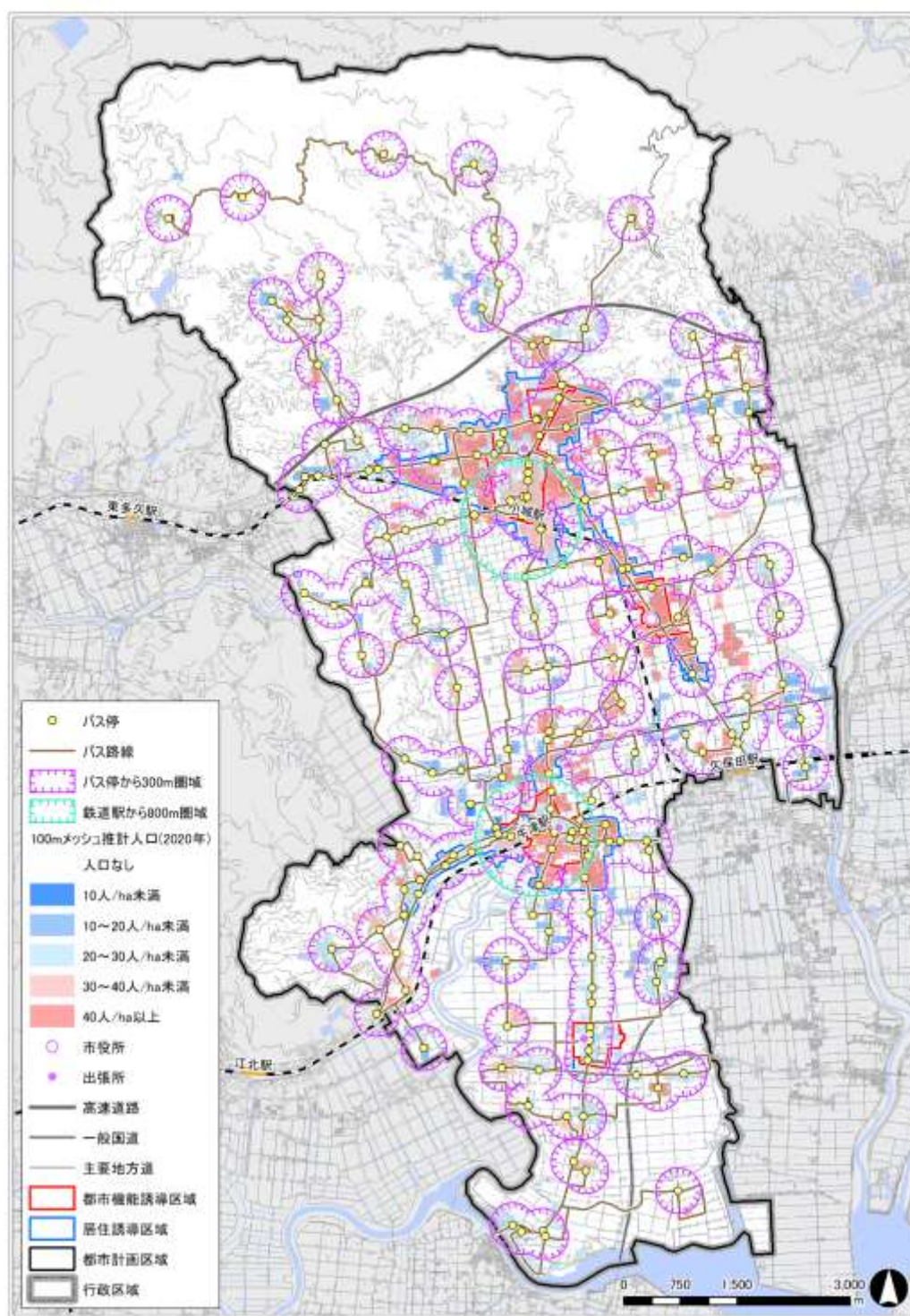


図 バス・鉄道徒歩圏と100mメッシュ別総人口の重ね図

出典 令和5年度都市計画基礎調査、国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール(R2 国調対応版)

9 災害リスク

9-1 災害履歴

本市では台風や集中豪雨などの大雨による水害や土砂災害が発生しており、令和3年8月の大雨では床上浸水が274戸、床下浸水が491戸と甚大な被害が発生しました。

表 水害履歴（内水）

位置	名称・地区名	発生年月日	浸水面積 (ha)	床上 浸水 (戸)	床下 浸水 (戸)	最大時間雨量 (ミリ/h)	総雨量 (ミリ)	備考
1	県道川上・牛津線（三日月町初田地区）、 県道別府・牛津停車場線（牛津町最勝寺周辺）、 市道山崎・納所線（小城町山崎地区）、 市道前満江線（牛津町北部BP高架下）、 市道宝積寺線（牛津町国道34号高架下）、 市道内砥川2号線（砥川保育園西周辺）、 市道町分・道免線（市道沿い）	H18.4.10 ～11	-	0	0	17.0	200.0	道路冠水
2	平成18年大雨に関する被害 （牛津本町、牛津町）	H18.6.24 ～25	-	0	0	47.5	166.5	道路冠水
3	平成18年大雨に関する被害 （牛津町、小城町）	H18.7.4 ～12	30.0	-	-	42.5	123.0	水田・道路冠水
4	梅雨前線による大雨 （三里右原地区、門前・下町・岡町・初田・ 西戸崎、県道川上・牛津線 初田地区、 市道石木初田線 初田地区）	H19.7.2	15.0	0	9	63.0	128.0	水田冠水、門前5・下 町1・岡町1・初田1・西 戸崎1、道路冠水
5	梅雨前線による大雨 （初田地区、芦刈町乙宮神社北側高架下、 牛津町柿樋瀬若竹団地付近）	H19.7.4	-	0	0	37.0	115.0	道路冠水
6	梅雨前線による大雨 （牛津町戸川保育園北、牛津町宝積禅寺、 牛津町砥川小学校前交差点、 牛津町新屋敷線路付近、牛津町山崎地区、 小城町山崎牛尾線 山崎排水機場北付近、 小城町牛尾・山崎地区 山崎牛尾線両側、 小城町下右原、三日月町初田公民館西、 三日月町ドゥイング三日月入口、 芦刈町前満江排水機場入口、 芦刈町社棚排水機場周辺）	H19.7.6 ～7	-	0	0	36.0	202.0	道路冠水、 水田・農道冠水
-	-	H20.6.19	300.0	0	1	57.0	156.0	道路冠水12箇所
-	-	H21.7.24 ～25	-	0	1	54.0	271.0	
-	-	H21.7.26	305.7	2	15	54.0	225.0	
-	-	H23.7.6 ～7	-	0	0	44.0	270.0	道路冠水6箇所
-	-	H23.7.10	-	0	1	67.0	70.0	
7	九州北部豪雨 （柴田羊羹総本舗、中本菓子店 ほか18軒）	H24.7.13 ～14	62.0	0	20	77.0	378.0	水田冠水、床下浸水
8	大雨・洪水警報 （牛津町コダマ紙器、小城町門前区、 芦刈町下古賀、芦刈町東道免）	H26.7.3	-	0	2	56.0	234.0	西水東水路、 道路冠水
9	平成28年6月19日からの大雨による災害 （小城町門前、芦刈町東道免、 芦刈町三条、小城町江里山、 小城町寒気、小城町寺浦、 小城町江里口、円光寺地区、 一本松地区、江里山地区）	H28.6.19 ～22	0.0	0	0	52.0	453.0	花ノ谷ため池堤体崩 落、農道路面洗掘、 農道橋基礎洗掘
10	令和元年佐賀豪雨 （小城町、三日月町、牛津町、芦刈町）	R元.8.27 ～28	680.0	59	183	100.0	656.0	
11	令和3年8月の大雨 （芦刈町下古賀、芦刈町三王崎、 芦刈町道免[行政区：東道免]、 芦刈町道免[行政区：社棚]、 芦刈町浜枝川、牛津町乙柳、 牛津町下砥川、牛津町柿樋瀬[字江五角・ 六角、八角、九角、字柿十二角・十三角]、 牛津町柿樋瀬[字江一角・二角・七角]、 牛津町牛津、牛津町勝、牛津町上砥川、 小城町池上[行政区：山崎・下右原・門前・ 上右原]、小城町池上[行政区：牛尾]）	R3.8.11 ～19	1,795.6	274	491	0.0	0.0	

土砂災害は平成 18 年に多く発生しており、その多くが九州自動車道より以北の山間部で発生しています。

表 土砂災害履歴

位置	名称・地区名	発生年月日	被害面積 (ha)	被害建物 棟数(戸)	備考
1	市道(小城)寺浦～荒谷線、 市道(小城)本山1号線	H18.4.10 ～11	-	-	路肩、道路法面土砂崩れ
2	平成18年大雨に関する被害 (小城町東小松、三日月町西分 牛津町谷地区、小城町焼山地区、 三日月町西分地区、小城町東小松地区)	H18.6.24 ～25	-	-	農道路路肩崩壊、土砂崩れ、 畦畔崩壊
3	平成18年大雨に関する被害 (林道天山線 石体～桑鶴、林道川内線、 林道天山線 江里山～焼山、 小城町江里山地区、小城町清水地区、 三日月町長神田地区、小城町本山地区、 牛津町両新村地区)	H18.7.4 ～12	-	-	土砂流入、林道崩壊、畦畔崩壊、 水路法面崩壊、農道路路肩崩壊
4	小城町晴気地区 (東小松地区 市道川原桑鶴線)	H18.7.19 ～20	-	-	道路法面崩壊
5	台風13号 (市道須ノ木・焼山線、急傾斜地吉田地区)	H18.9.17 ～18	0.02	-	道路路肩崩壊、法面崩壊
6	梅雨前線による大雨(三日月町大地町)	H19.7.2	-	-	水田畦畔崩壊
7	梅雨前線による大雨(門前)	H19.7.6 ～7	-	-	三岳寺裏山一部崩壊
-	牛津・小城	H20.6.19	-	-	牛津1・小城1
8	林道天山線(石体地区)、牛尾神社別当坊跡裏	H20.6.21	-	-	林道路路肩一部崩落、石積み崩落
9	県道天山公園線、小城町原田地区	H21.6.30	-	1	崩落、石積み崩落
10	小城市 (林道天山線、林道川内線、林道桑鶴線)	H22.7.13 ～16	-	-	林道法面・路肩崩壊
-	-	H23.7.6 ～7	-	-	土砂崩れ15件
11	九州北部豪雨	H24.7.13 ～14	-	-	裏山土砂崩れ
12	平成28年6月19日から大雨による災害 (市道本山・川内線、市道大地町・原田線、 市道川原・桑鶴線、江里山(砂ヶ原川)、 市道弥生町・寺浦線、市道山神1号線、 本山、林道天山線 焼山神社裏、 林道天山線、林道江里山線、 林道天山線 石体～桑鶴、林道川内線、 仁俣地区、円光寺地区、寺浦地区、 江里山地区)	H28.6.19 ～22	-	-	道路法面崩落、土砂崩落、 斜面崩落、土砂崩れ、 道路路肩崩落、農道路路肩崩落、 農道へ土砂崩落、林道法面崩壊

出典 令和5年度都市計画基礎調査

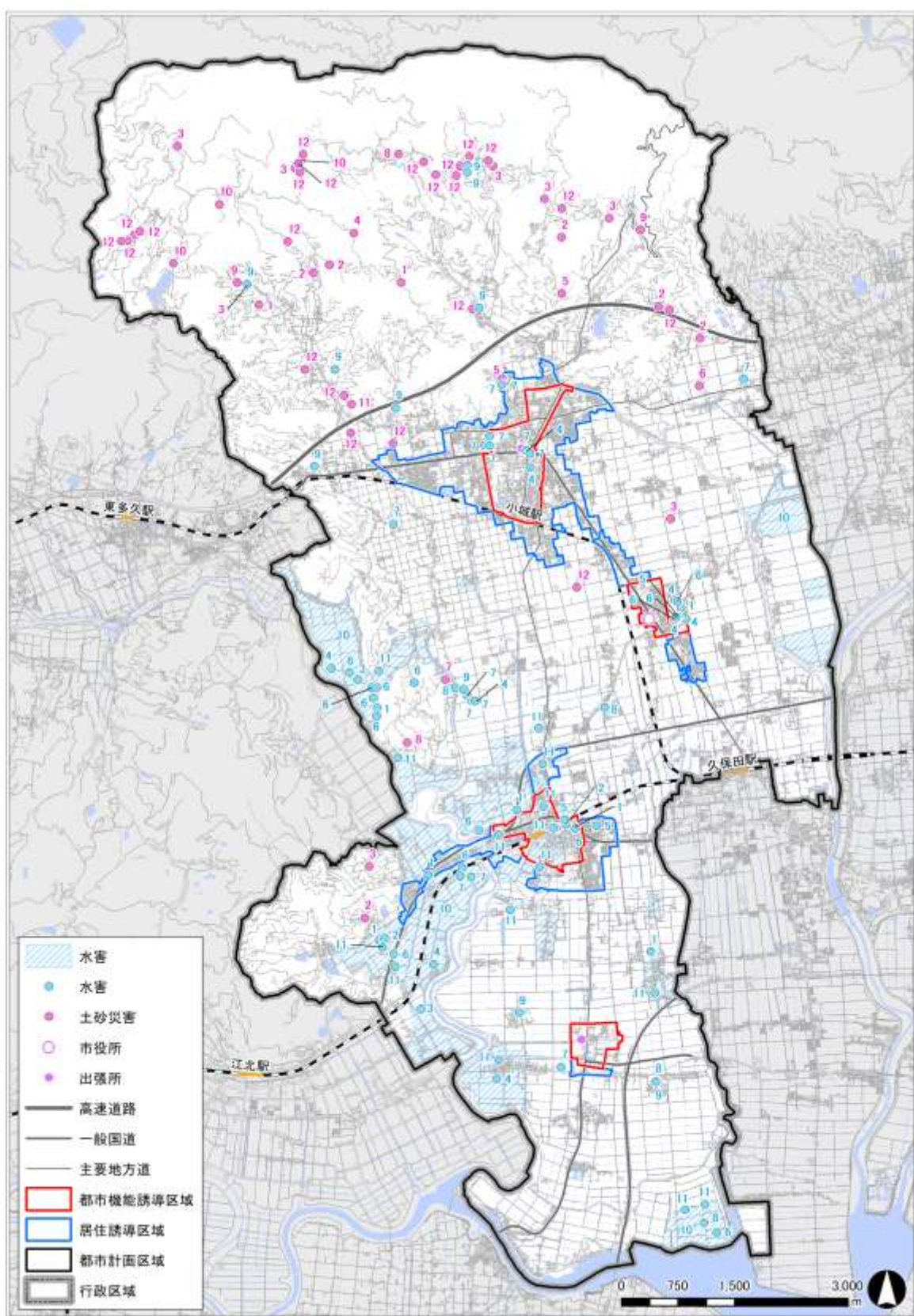


図 災害履歴

出典 令和5年度都市計画基礎調査

9-2 洪水浸水想定区域（計画規模）

浸水想定区域は市中心部の田畑が広がるエリアに広く指定されており、小城、牛津、芦刈地域の誘導区域の一部においても浸水深 0.5～5m 未満のエリアが広がっています。

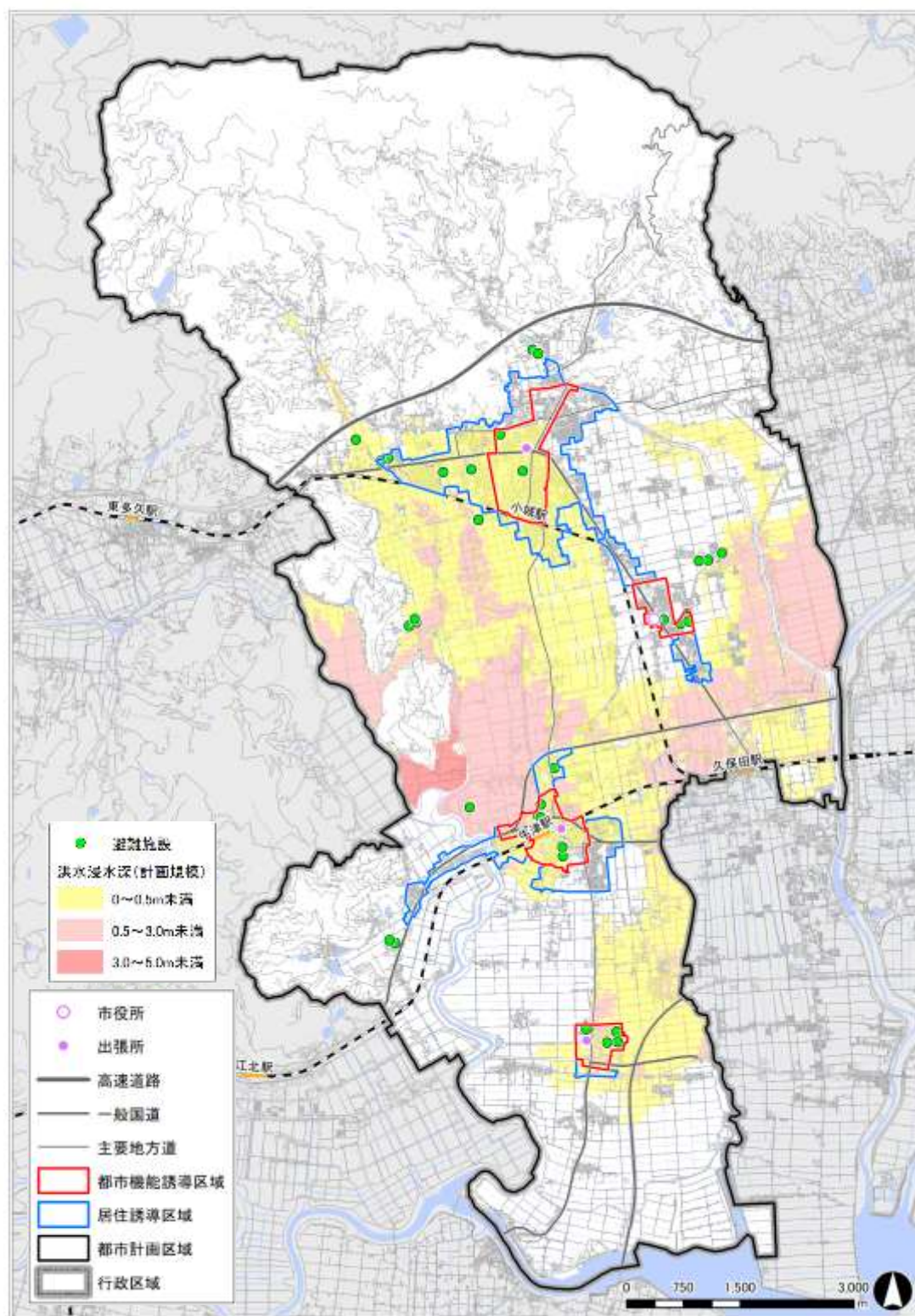


図 洪水浸水想定区域（計画規模）

出典 国土数値情報

9-3 洪水浸水想定区域（想定最大規模）

浸水想定区域の想定最大規模では芦刈地域の誘導区域内で 0.5～3.0m未満のエリアがみられるようになります。垂直困難が比較的困難な 3.0m以上のエリアは市域境界部でみられるようになります。

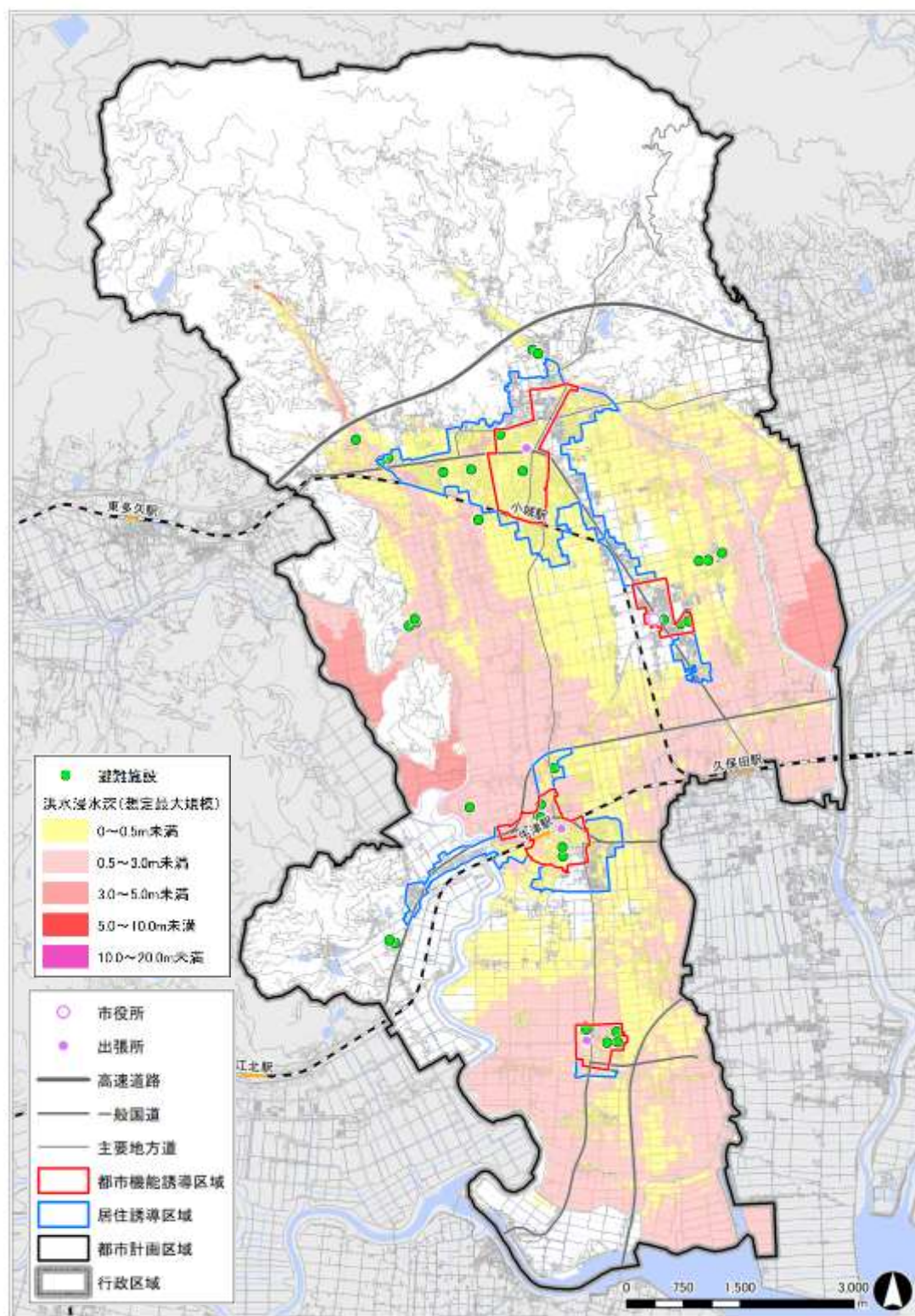


図 洪水浸水想定区域（想定最大規模）

出典 国土数値情報

9-4 家屋倒壊等氾濫想定区域

家屋倒壊等氾濫想定区域の河岸浸食は河川沿いにみられ、牛津地域の誘導区域で指定されています。

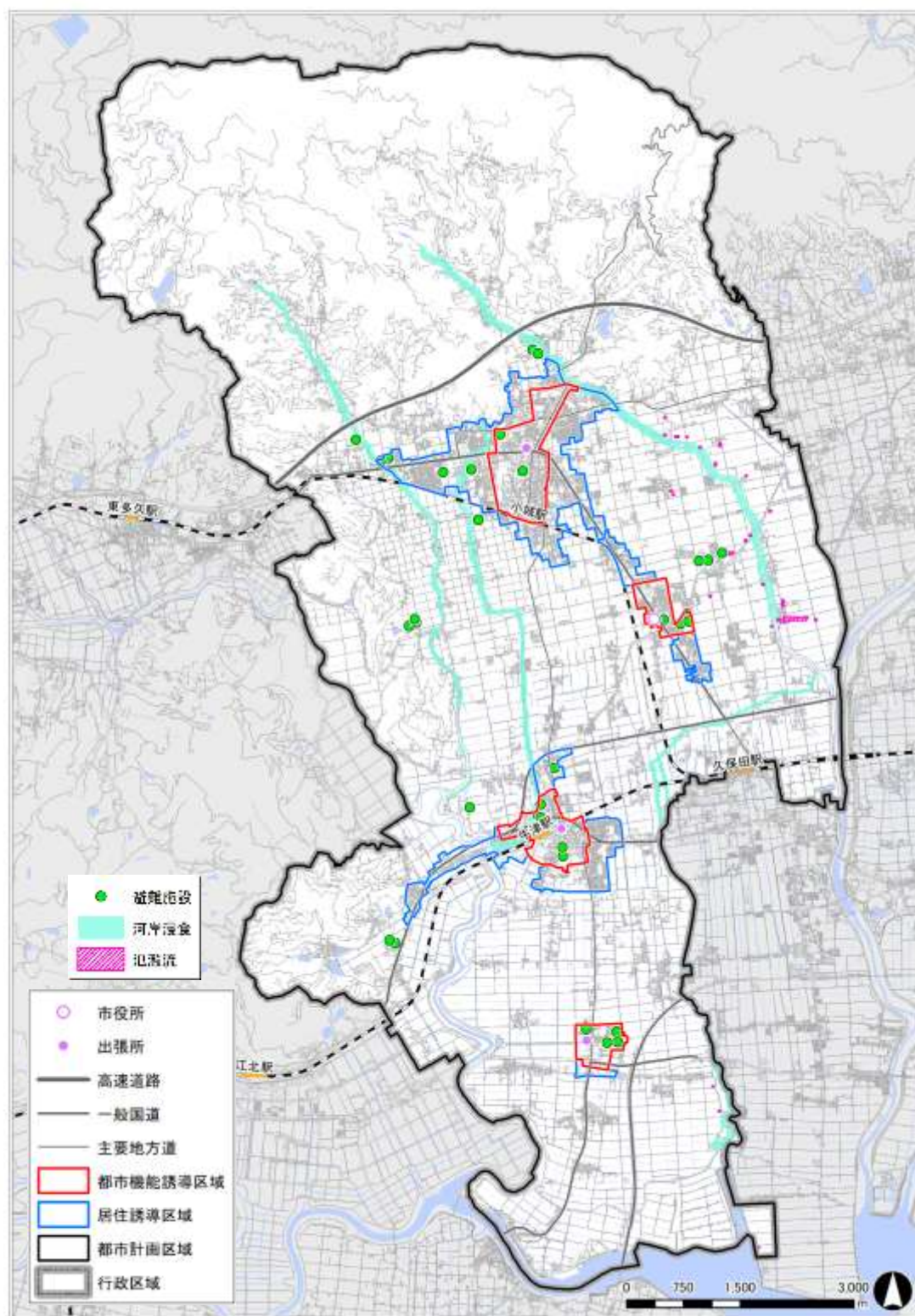


図 家屋倒壊等氾濫想定区域

出典 国土数値情報

9-5 浸水継続時間

浸水継続時間は国道 207 号以北では 12 時間～24 時間(1 日間)未満のエリアが多く広がっていますが、芦刈地域の誘導区域周辺では 24 時間～72 時間(3 日間)未満のエリアが広く多くみられます。

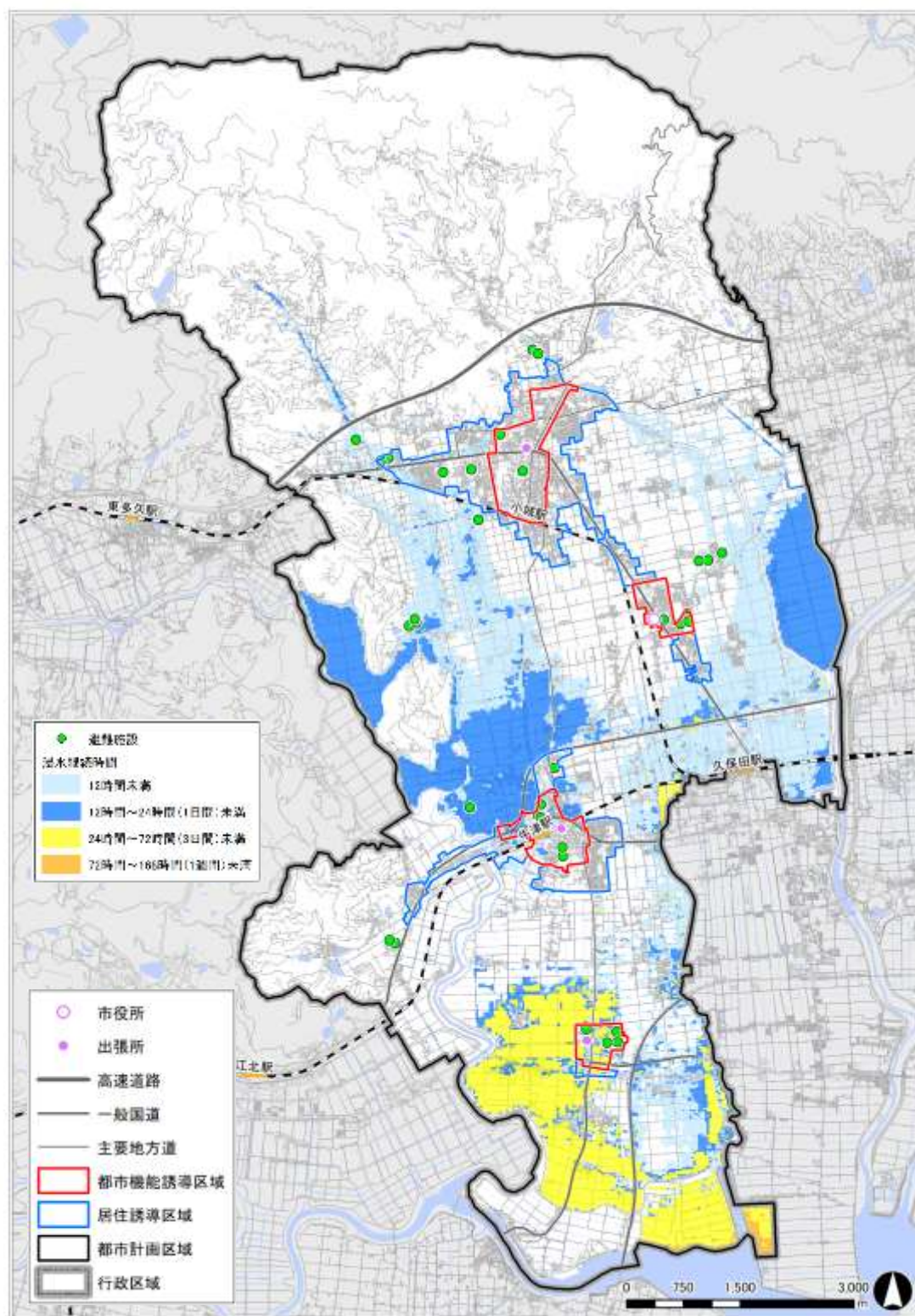


図 浸水継続時間

出典 国土数値情報

9-6 津波浸水想定区域

沿岸部に津波浸水想定区域が指定されており、芦刈地域の誘導区域は 0.3m以上～1m未満のエリアが指定されています。

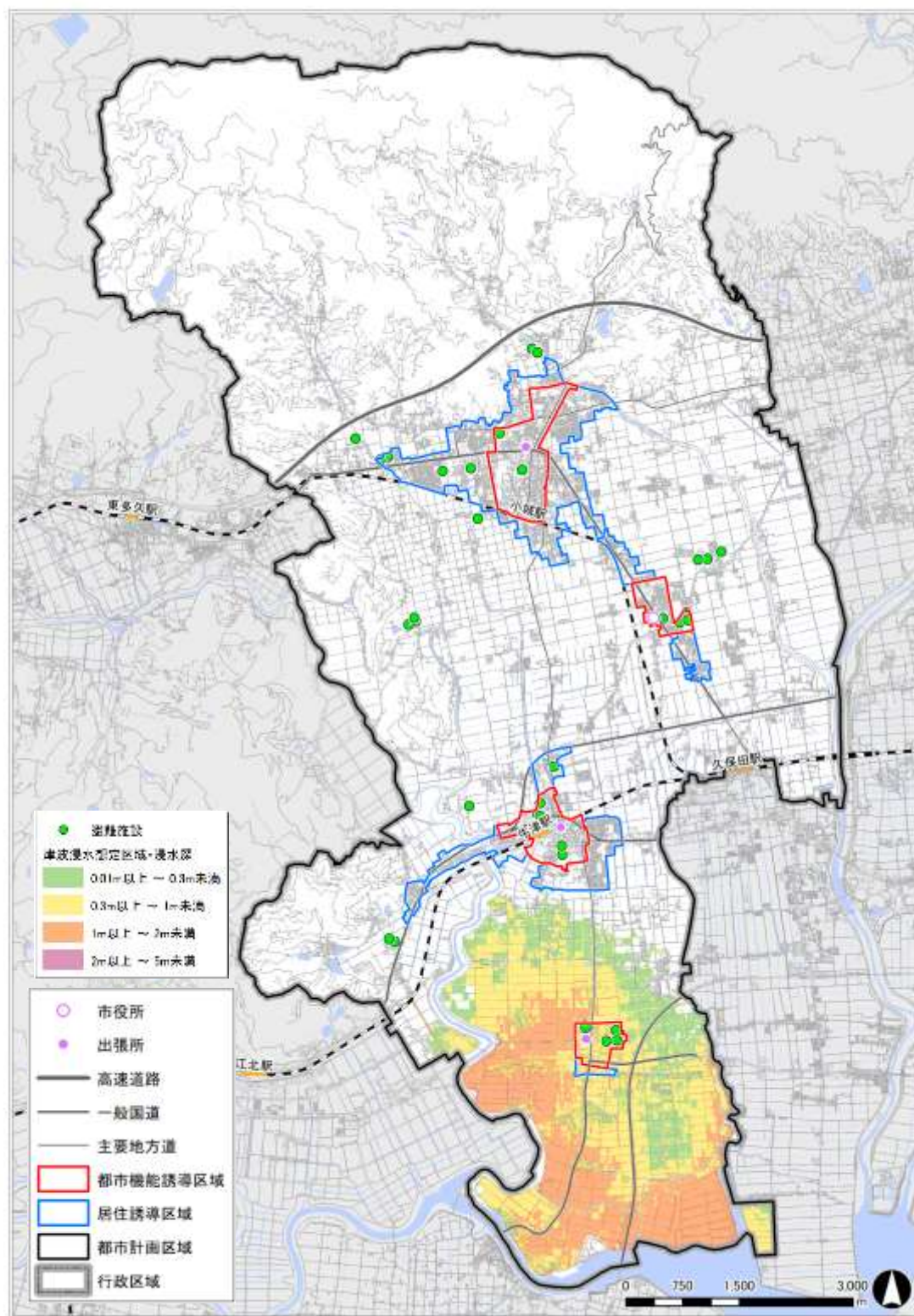


図 津波浸水想定区域

出典 国土数値情報

9-7 高潮浸水想定区域

市域の南側で高潮浸水想定区域が指定されており、三日月地域の誘導区域では1m以上3m未満、牛津、芦刈地域の誘導区域では5m以上のエリアが指定されています。

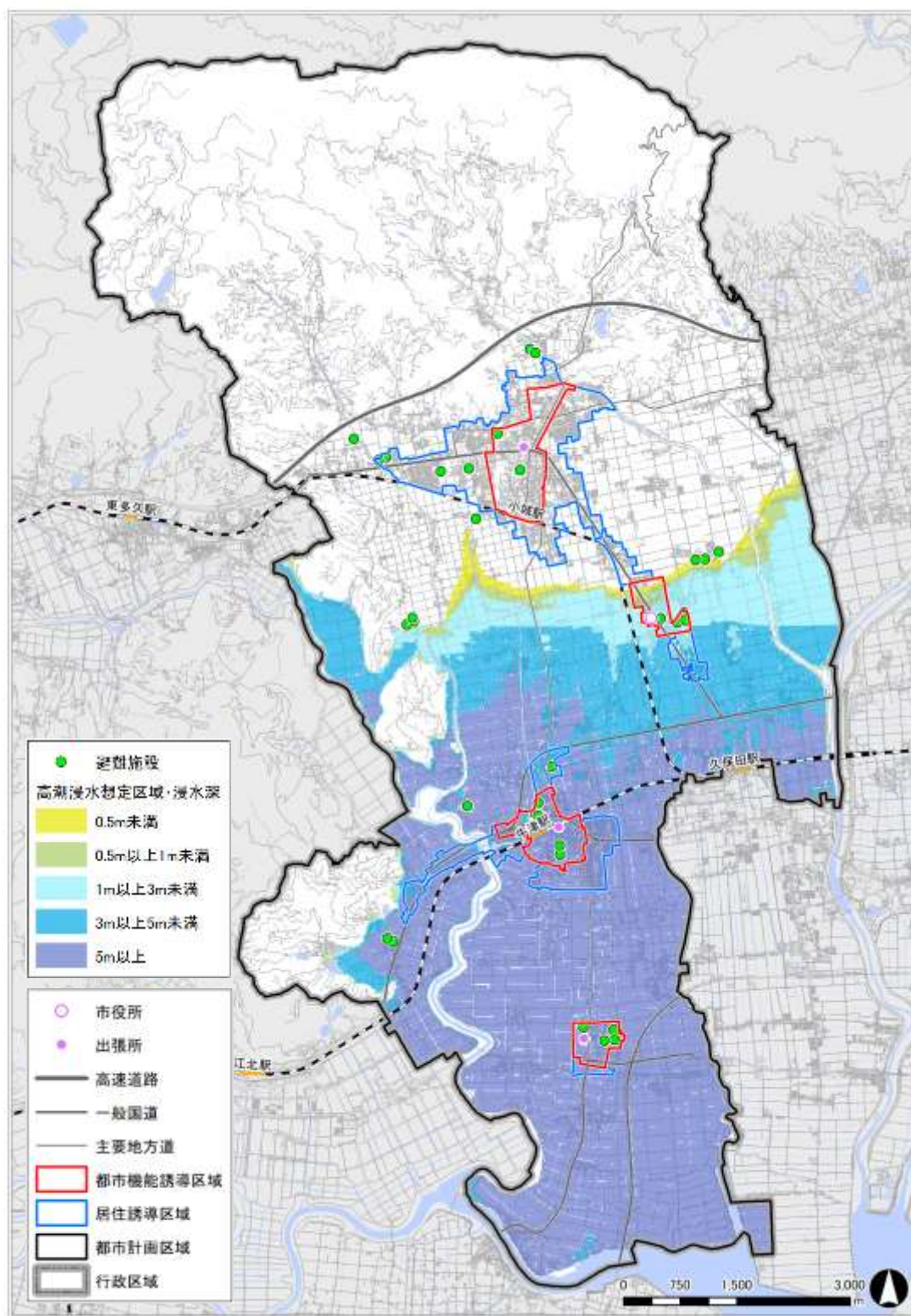


図 高潮浸水想定区域

出典 国土数値情報

9-8 土砂災害

土砂災害警戒区域は市域北部の山間部に多く指定されており、それらの区域と併せて土砂災害特別警戒区域が指定されています。各地域の誘導区域内では指定されていません。

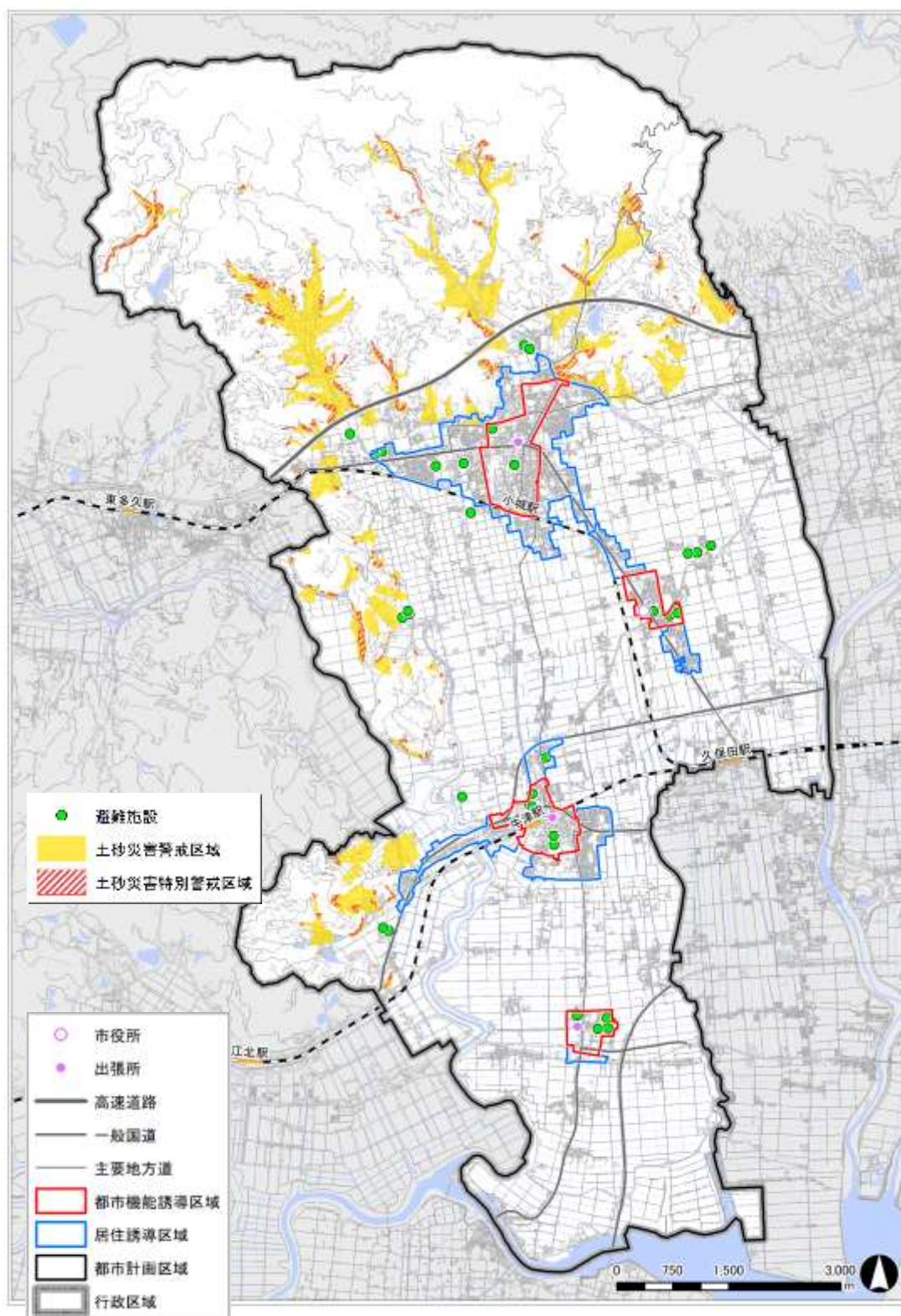


図 土砂災害

出典 国土数値情報

9-9 急傾斜・地すべり

市域北部の山間部や西部の一部で地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域の指定がみられます。

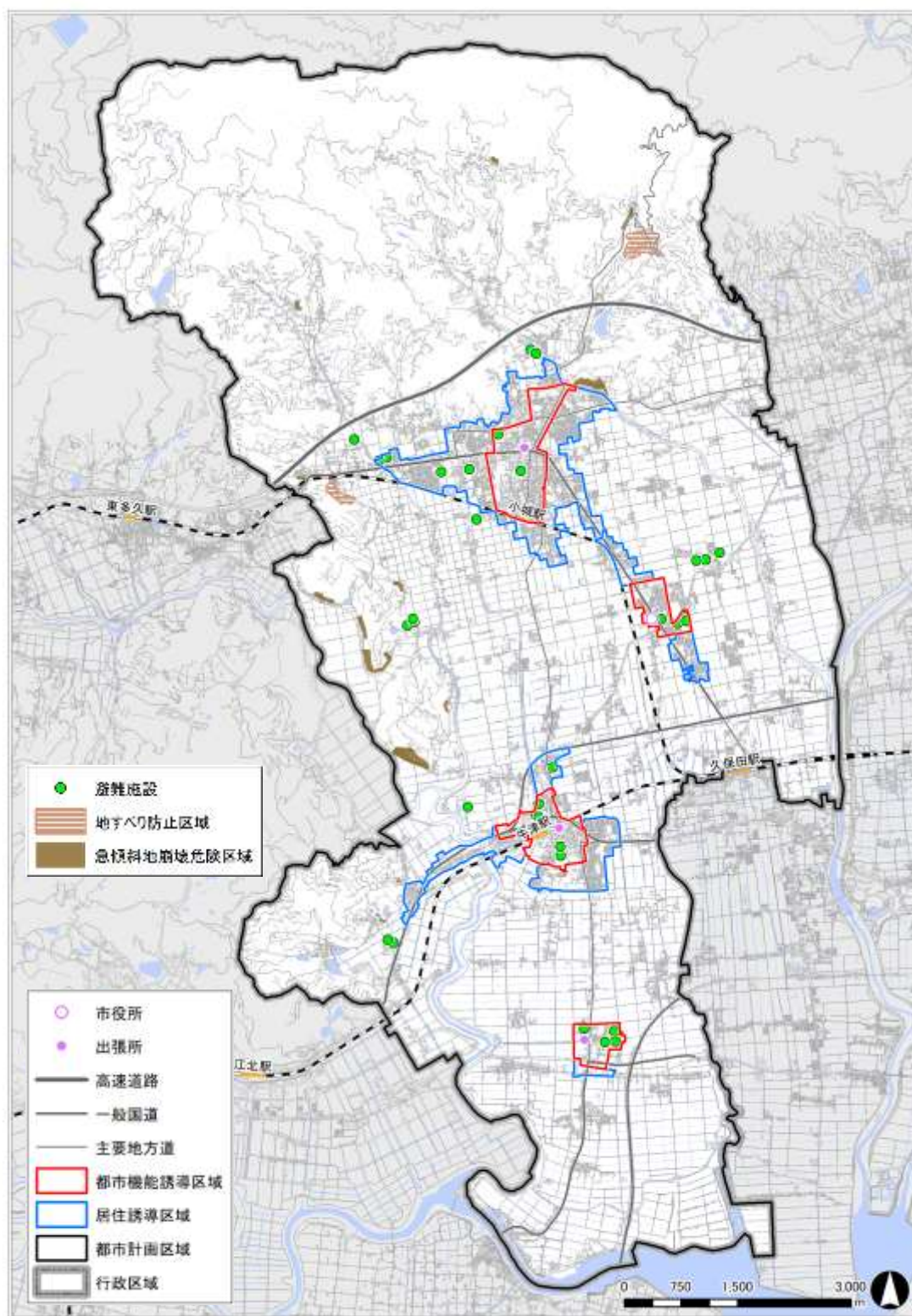


図 急傾斜・地すべり

出典 国土数値情報

9-10 避難施設

本市の避難施設は以下の通りとなっており、各誘導区域を中心に立地しています。

表 避難施設

位置	名称	収容可能 人数
1	小城保健福祉センター「桜楽館」	620
2	三日月保健福祉センター「ゆめりあ」	570
3	牛津公民館	400
4	芦刈保健福祉センター「ひまわり」	570
5	桜岡小学校	380
6	三里小学校	320
7	晴田小学校	380
8	岩松小学校	380
9	小城中学校	540
10	晴田幼稚園	100
11	三里保育園	50
12	小城保育園	50
13	小城保健福祉センター「桜楽館」	620
14	小城体育センター	560
15	小城市まちなか市民交流プラザゆめぷらっと小城	510
16	小城公民館岩松支館	160
17	小城公民館三里支館	150
18	小城公民館晴田支館	150
19	三日月小学校	520
20	三日月中学校	470
21	三日月幼稚園	160
22	三日月保健福祉センター「ゆめりあ」	570
23	小城市児童センターゆうゆう	200
24	三日月体育館	710
25	生涯学習センタードゥイング三日月	710
26	牛津公民館	400
27	牛津体育センター	600
28	牛津小学校	360
29	砥川小学校	320
30	牛津中学校	680
31	砥川保育園	40
32	牛津保健福祉センターアイル	610
33	牛津武道館	440
34	牛津公民館別館	240
35	芦刈小学校	730
36	芦刈中学校	730
37	芦刈保健福祉センター「ひまわり」	570
38	芦刈文化体育館	1,000
39	芦刈地域交流センターあしぱる	460

出典 令和5年度都市計画基礎調査

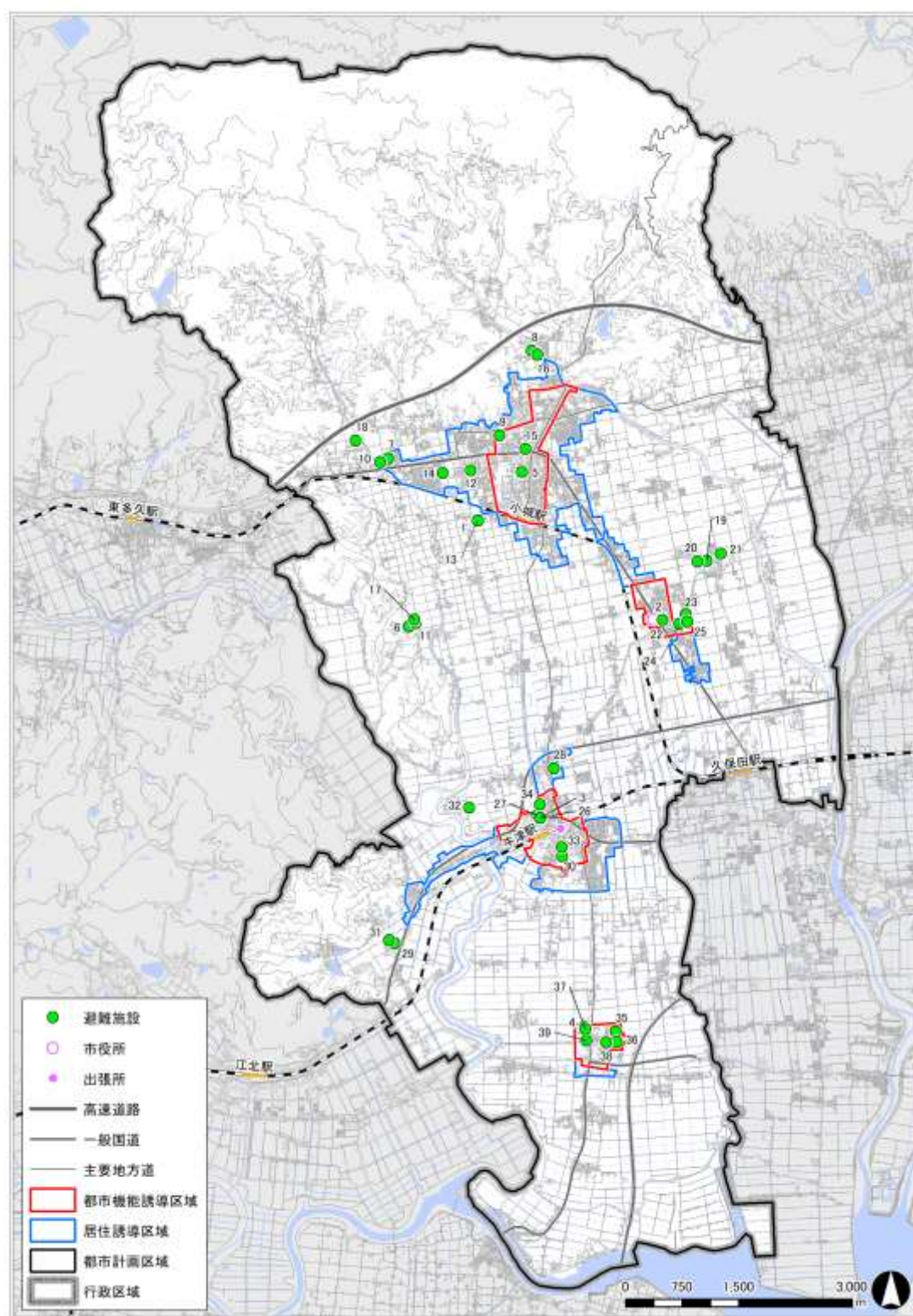


図 避難施設

出典 令和5年度都市計画基礎調査

10 地価

本市の地価は、誘導区域においては平成 30 年(2018 年)ごろまでは減少傾向にありましたが、それ以降は増加する地点も見られるようになり、商業地よりも住宅地で増加している傾向がみられます。

なお、三日月地域の誘導区域外の地点では平成 28 年(2016 年)より増加している地点があり、上昇率も誘導区域の地点よりも高い地点があります。

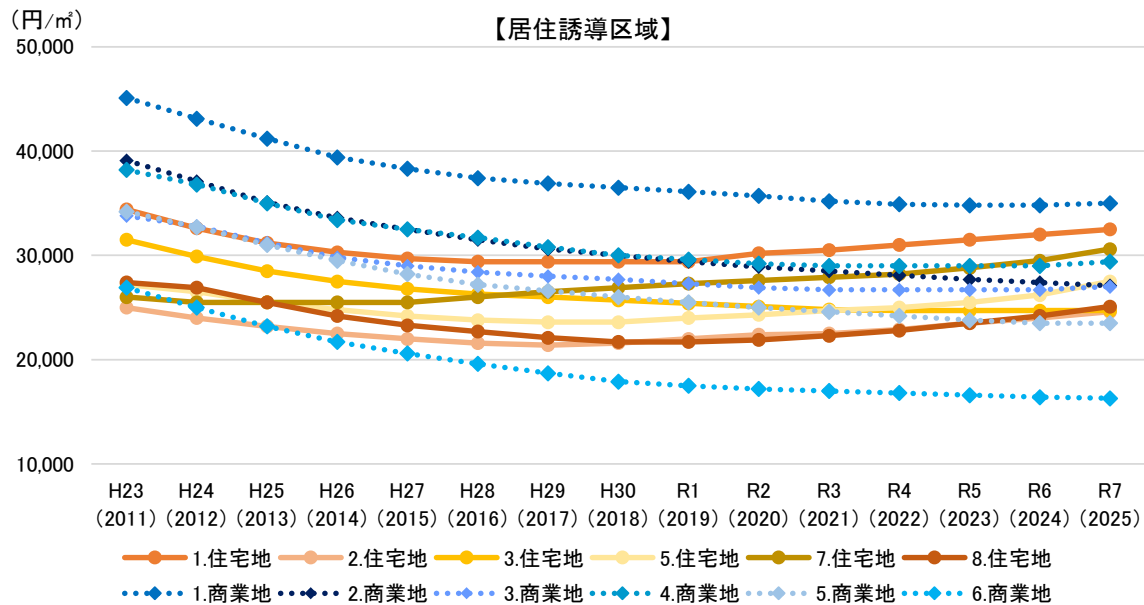


図 地価（地価公示、県地価調査）の推移（居住誘導区域）

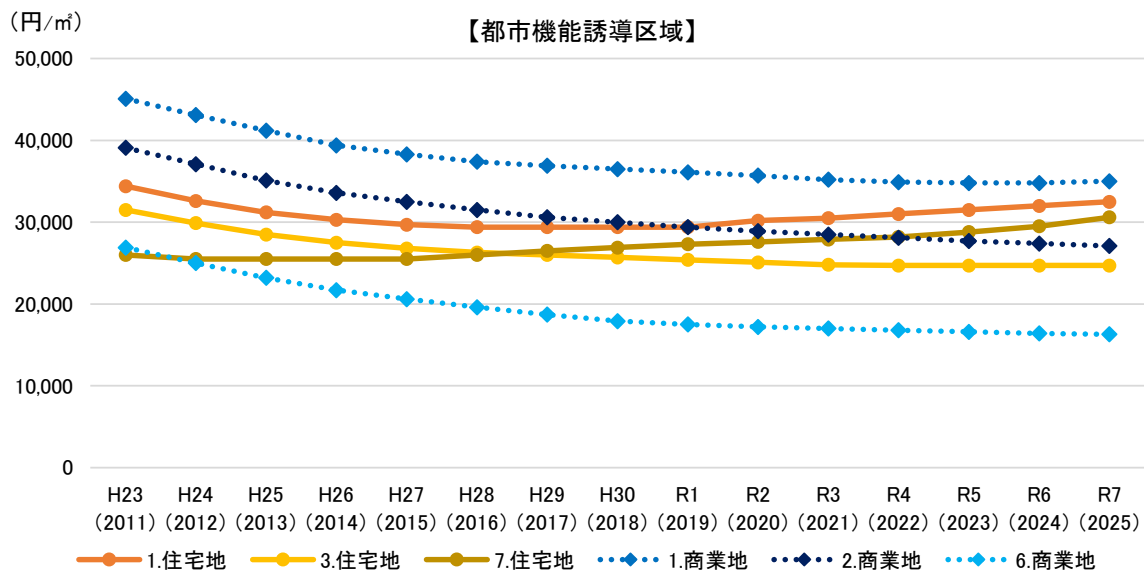


図 地価（地価公示、県地価調査）の推移（都市機能誘導区域）

出典 国土数値情報

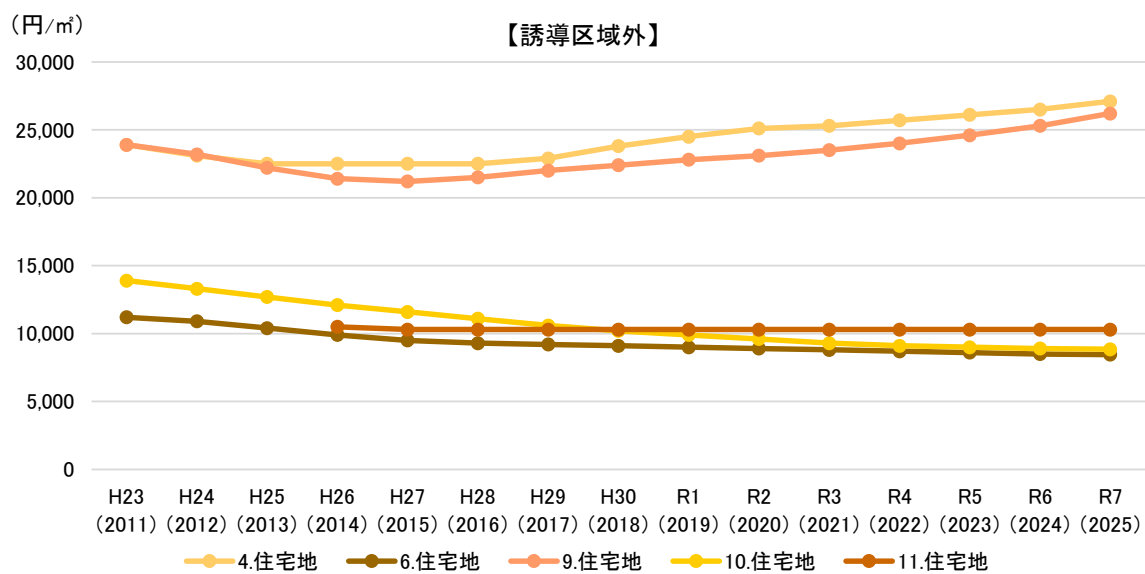


図 地価（地価公示、県地価調査）の推移（都市計画区域外）

出典 国土数値情報

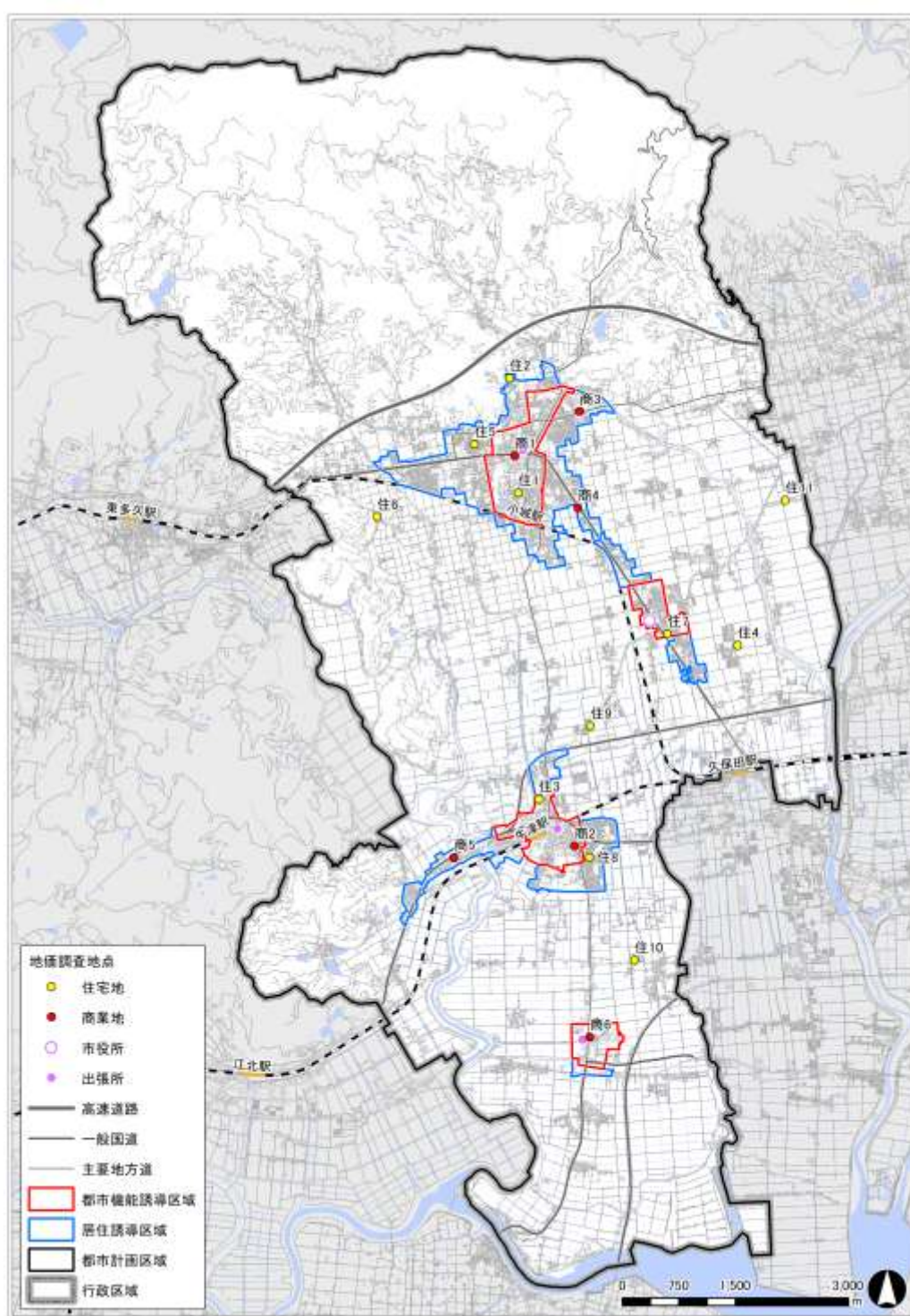


図 地価調査地点（地価公示、県地価調査）

出典 国土数値情報

1 1 財政

1 1-1 歳入

本市の歳入は増減を繰り返しながら推移しており、令和 2 年(2020 年)が最も高くなっています。その内訳をみると、依存財源となる地方交付税や国県支出金が多くを占めており、依存財源率は平成 30 年(2018 年)に 63.9%と最も低くなりましたが、その後は概ね 7 割程度で推移しています。

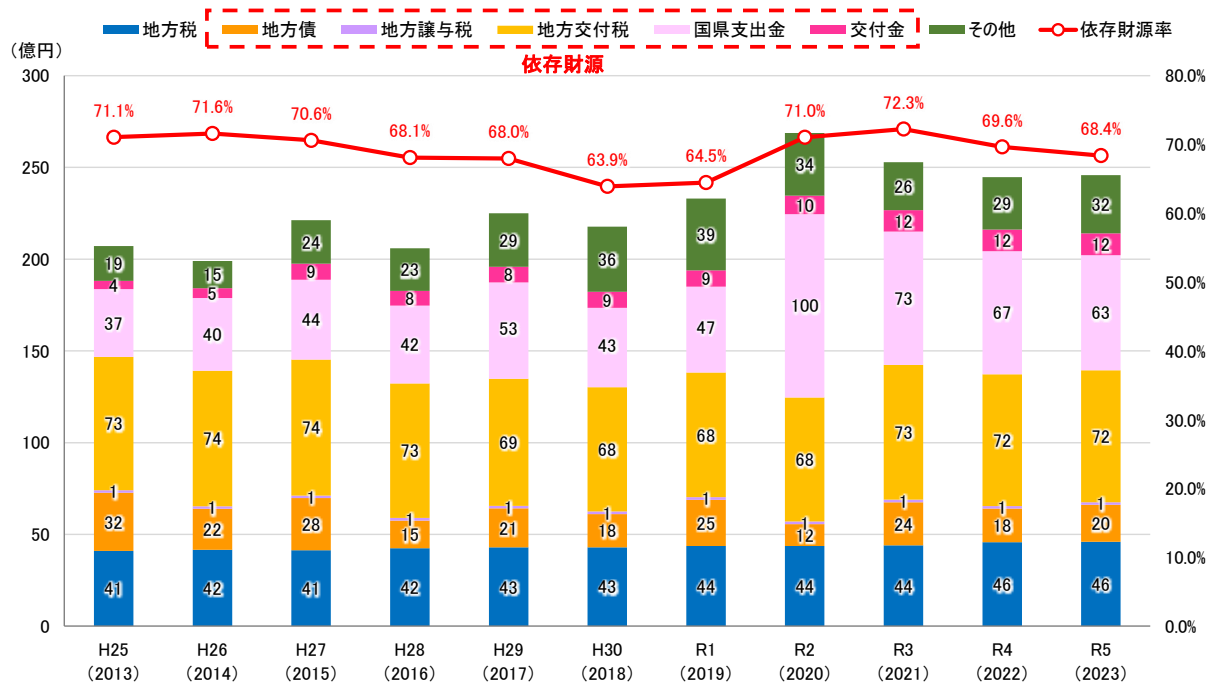


図 歳入決算額の推移

出典 総務省 市町村別決算状況調

1 1-2 歳出

本市の歳出は増減を繰り返しながら推移しています。内訳をみると、生活保護費や社会福祉費などを含む扶助費が増加傾向にあります。また、人件費、扶助費、公債費からなる義務的経費は歳入全体の約半数を占めています。

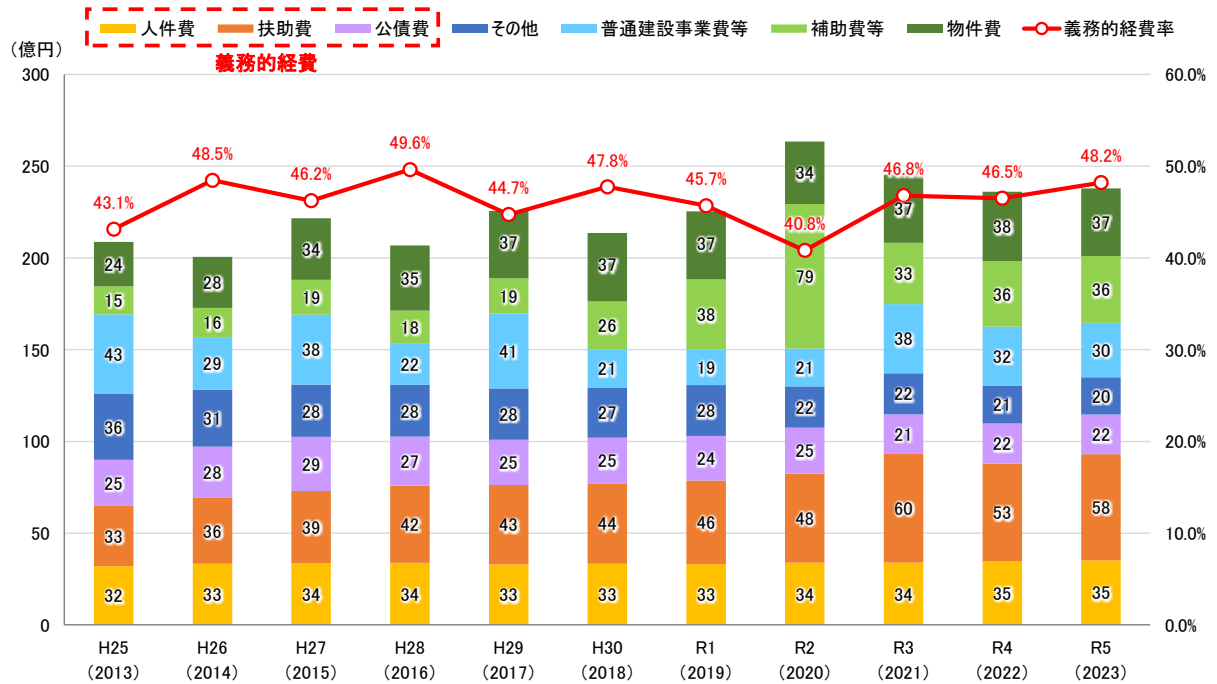


図 歳出決算額の推移

出典 総務省 市町村別決算状況調